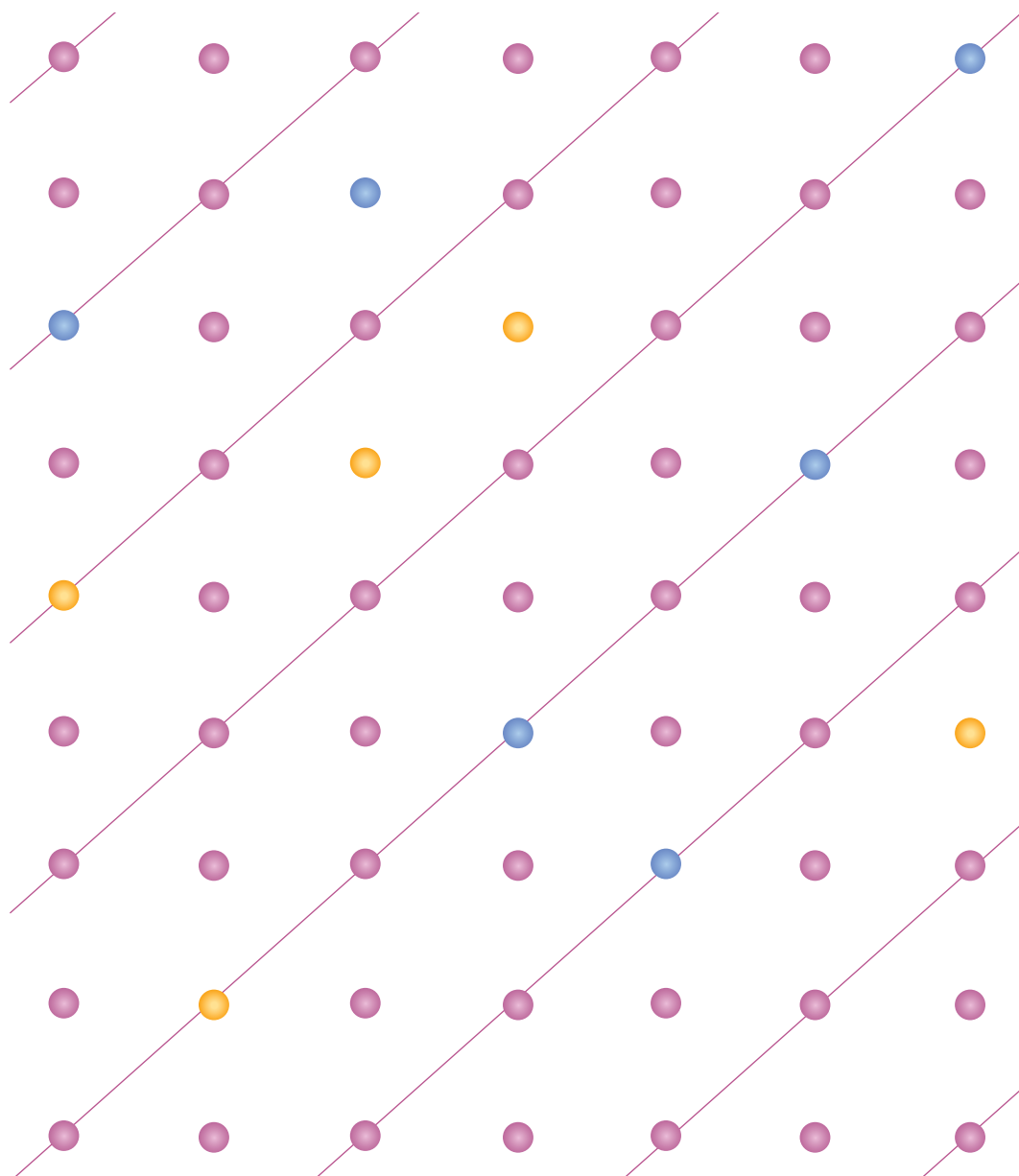


シラバス

2023年度

リハビリテーション学科

視機能療法専攻



平成医療短期大学

Heisei College of Health Sciences

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的

1 全学

本学は、教育基本法に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

2 看護学科

看護学科は、深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもつ看護師の養成を目的とする。

3 リハビリテーション学科

リハビリテーション学科理学療法専攻、作業療法専攻及び視機能療法専攻は、深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもつ理学療法士、作業療法士及び視能訓練士の養成を目的とする。

教育目標

1 看護学科

- ①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
- ②高度化、多様化する医療環境の変化等に対応できる実践力を有する看護師
- ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
- ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師

2 リハビリテーション学科理学療法専攻

- ①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

3 リハビリテーション学科作業療法専攻

- ①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
- ②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

4 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- ①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士
- ②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士
- ③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士

学習成果

1 全学

教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得

2 看護学科

- (1) 看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得
- (2) 看護の専門基礎知識の修得
- (3) 看護の専門知識・技術の修得
- (4) 看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
- (3) 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得
- (4) 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得
- (5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
- (2) 視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得
- (3) 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得
- (4) 視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得
- (5) チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得
- (6) 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
- (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。

2 看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
- (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
- (3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。
- (4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。

- (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
- (4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

2 看護学科

- (1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。
- (3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。
- (4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。
- (5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。

- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
- (3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
- (4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
- (5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
- (6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。

履 修 要 領

リハビリテーション学科

視機能療法専攻

履修要領

1. 教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、各専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に携わるものとしての資質と技術を磨き、専門性に富んだ医療に適応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的にすすむように編成しています。

2. 「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」は、大半の科目について両学科学生が合同で受講できるよう科目立てして、配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための基礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人間を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

3. 「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

リハビリテーション学科の各専攻に配置した「専門基礎科目」には、理学療法士、作業療法士、視能訓練士としての基礎的知識を得る上で、必要不可欠である基礎医学に関する科目群を配置しています。

「専門科目」には、医療技術に精通した理学療法士、作業療法士、視能訓練士を育成するために必要である科目群を系統立てて配置しています。これらを学ぶ中で、教育目標としている施設や地域を問わず医療技術者としての高いコミュニケーション能力と倫理的判断力、豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成するために、教員との関わりが多く持てる演習を多く取り入れています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

＜リハビリテーション学科 視機能療法専攻＞

区 分			授 業 科 目	単位数		卒業要件
				必修	選択	
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2
			物理学		2	
			化学		2	
			情報科学		2	4
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
	人間と社会		社会学		2	
			人間関係論		2	
			ボランティア論		2	
			哲学		2	4
			教育学		2	
			心理学		2	
	基礎教育科目	コミュニケーション	生命倫理学		2	
			基礎演習	1		
			文章表現法	1		3
		外国語	コミュニケーション学	1		
			英語Ⅰ(教養英語)	1		1
			英語Ⅱ(日常英会話)		1	
	専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉・循環・内分泌・消化器等)	2		3
			解剖学Ⅱ(神経系)	1		
		人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1		2
生理学Ⅱ(植物的機能)			1			
心身の発達		人間発達学	1		3	
		保育学	2			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		病理学概論	2			
		健康と保健	1			
		幾何光学	1			
		医療統計学	1		10	
		一般臨床医学	1			
		神経内科学	1			
		精神医学	2			
		臨床心理学	1			
視覚機能の基礎と検査機器		視器の解剖と生理学Ⅰ(眼球・眼球付属機器)	1			
	視器の解剖と生理学Ⅱ(視路・眼運動計他)	1				
	視器の病理学	1				
	視覚生理学Ⅰ(基礎)	1		9		
	生理光学Ⅰ(基礎)	1				
	視機能検査学概論	1				
	視機能検査学Ⅰ(眼科一般検査)	1				
	視機能検査学Ⅱ(眼位検査)	1				
	視機能検査学Ⅲ(両眼視機能検査)	1				
保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	公衆衛生学	1				
	社会福祉学	1				
	医療安全管理論	1		6		
	医学概論	1				
	障害者概論	1				
	視覚障害リハビリテーション	1				
	視機能療法学概論	1				
	基礎視機能矯正学Ⅰ(眼球運動、他)	1				
基礎視能矯正学	基礎視機能矯正学Ⅱ(眼位、両眼視)	1				
	視覚生理学Ⅱ(応用)	1		9		
	生理光学Ⅱ(眼球光学)	1				
	生理光学Ⅲ(屈折・調整)	1				
	薬理学	1				
	基礎視機能矯正学特論Ⅰ(理解と生理、視覚生理)	1				
	基礎視機能矯正学特論Ⅱ(生理光学)	1				
	視機能療法学実験研究		1	1		
視能検査学	医療情報学		1			
	視覚生理学演習Ⅰ(視野検査他)	1				
	視覚生理学演習Ⅱ(電気生理)	1				
	生理光学演習Ⅰ(屈折検査)	1				
	生理光学演習Ⅱ(屈折矯正)	1				
	眼薬理学	1		10		
	視機能検査学演習Ⅰ(眼科一般検査)	1				
	視機能検査学演習Ⅱ(両眼視機能検査)	1				
	視機能検査学演習Ⅲ(眼位検査)	1				
	視機能検査学演習Ⅳ(眼運動系検査)	1				
視能障害学	画像診断学	1				
	眼疾病学Ⅰ(眼球、眼球付属器他)	1				
	眼疾病学Ⅱ(遺伝性眼疾患、小児眼疾患)	1				
	神経眼科学	1		6		
	視機能障害学Ⅰ(神経疾患、前眼部疾患他)	1				
	視機能障害学Ⅱ(網膜脉络膜疾患、視路疾患他)	1				
	視機能障害学特論	1				
	視機能療法関係法規	1				
視能訓練学	視機能訓練学概論	1				
	視機能訓練学Ⅰ(視機能訓練学、基礎)	1				
	視機能訓練学Ⅱ(視機能訓練学、斜視)	1				
	視機能訓練学Ⅲ(視機能訓練学、弱視)	1				
	視機能訓練学Ⅳ(視機能訓練学、ロービジョン)	1		10		
	視機能訓練学Ⅴ(視機能訓練学、総括)	1				
	視機能訓練学演習	1				
	視機能訓練学特論Ⅰ(基礎)	1				
	視機能訓練学特論Ⅱ(応用)	1				
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	3		14	
臨地実習Ⅱ		11				
合 計					98	

4. 履修方法等

1) 学期

学年は、4月1日から3月31日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

2) 授業

① 授業時間割

授業時間割表は、毎月初旬に翌月分を **Classroom** で配信します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度 **Classroom** で配信しますので始業前等には必ず確認してください。

② 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、授業時間割表にて確認してください。

④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合は、その都度 **Classroom** で連絡します。また、休講の連絡がなく、始業時刻から 15 分を経過しても担当教員が教室にこない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は **Classroom** で連絡しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

3) 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

<履修上の注意事項>

- ア. 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。
- イ. 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。
- ウ. 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

4) 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

<履修登録の上限単位数 (CAP 制) >

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において1年間に履修登録できる単位数の上限を **55** 単位としています。

5) 授業の出・欠席の取り扱い

① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。

② 出欠席の取り扱いは次の各号によります。

ア. 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。

イ. 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。

ウ. 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。

エ. 遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあつては定められた登校時刻又は集合時刻の 20 分以内の遅れをいいます。

オ. 早退は、授業終了前、本学行事の日にあつては定められた解散時刻前の 20 分以内に退出した場合をいいます。

カ. 同一科目において遅刻、早退 2 回をもって 1 時限の欠課となります。

③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限りします。

ア. 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合

イ. 忌引きによる場合

父母	兄弟姉妹	祖父母	伯叔父母
7 日	5 日	3 日	2 日

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

ウ. 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。

エ. 本人の責めによらない不可抗力の場合

オ. その他学長が特に必要と認める場合

※ 公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。

なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。

④ 公認願は事前に提出するものとし、やむを得ず事後に提出する場合は、遅くとも 3 日（土・日・祝含まず）以内に提出しなければなりません。

5. 選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

その他の選択科目についても教室の座席数等の事情により、人数調整の上履修者を決定します。

科目名	制限の人数
情報科学	40 名
英語Ⅱ（日常英会話）A	40 名
英語Ⅱ（日常英会話）B	60 名
英語Ⅱ（日常英会話）C	40 名
英語Ⅲ（専門英語）	60 名
ドイツ語	40 名
中国語	40 名

6. 臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。

履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

＜リハビリテーション学科視機能療法専攻実習科目の履修前提条件＞

実習科目名	年次	履修条件科目(単位修得済み科目)
臨地実習Ⅰ	2	1年次、2年次前期までに修得すべき必要単位数(選択を含めて)全て
臨地実習Ⅱ	3	1年次、2年次までに修得すべき必要単位数(選択を含めて)全て

7. 試験、成績評価及び単位の授与

1) 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席した者とします。

① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に行います。

② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポート提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は1回に限り再試験を行うことができます。

2) 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から5日以内（休日含まず）に、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）を付した追試験願を事務局学務課に提出しなければなりません。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

3) 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（1科目につき3,000円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

4) 受験上の注意

ア. 座席は、別途指定された席についてください。

イ. 学生証は本人確認のため、写真の面を上にして通路側の机の上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は1,000円です。

ウ. 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机上に置かないでください。

エ. 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ. 遅刻は、試験開始後30分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ. 退室は、試験開始後30分経過するまでは認めません。

キ. 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク. 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は決して行わないでください。

5) 成績評価

成績の評価は次のとおりです。(学則第26条第2項)

成績は、本人に秀、優、良、可、不可、失格の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、 及びレポート試験等	追試験	再試験
秀	100点～90点	100点～90点	なし
優	89点～80点	89点～80点	なし
良	79点～70点	79点～70点	なし
可	69点～60点	69点～60点	100点～60点
不可	60点未満	60点未満	60点未満
失格	受験資格なし	—	—

<実習科目>

出席が当該実習科目の授業時間数の5/6以上を対象とし、成績評価は、秀、優、良、可、不可、失格とします。出席が当該実習科目の授業時間数の5/6に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

<GPA> *グレード・ポイント・アベレージ

GPAとは、「秀」を4、「優」を3、「良」を2、「可」を1、「不可・失格」を0として各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA 算出方法] *小数第三位四捨五入

$$\frac{([秀] \text{ 修得単位数} \times 4) + ([優] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([良] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([可] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([不可] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\text{総修得単位数} + (\text{不可} \cdot \text{失格}) \text{ 単位数}}$$

*GPAには、各期のGPAと入学からその時点までの通算GPAがあり、各期の成績表には両方のGPAが掲載されます。

*不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算GPAには算入されません。

*GPAは履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。

*入学前既修得単位(単位認定科目)はGPA対象外です。

<GPAに基づく個別指導、退学勧告>

成績不振の基準を、学期GPA1.5未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

- ① 学期GPAが1.5未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。
- ② 2期連続GPAが1.5未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。
- ③ 3期連続または通算4学期のGPAが1.5未満の場合は、学長が退学勧告できます。

6) 成績発表

原則成績表を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は時間割表に記載の上 Classroom にてお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は Classroom にてお知らせします。

8. 単位について

1) 単位の計算方法

学則第24条により、次のように定めています。

第24条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。

三 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30時間の授業をもって1単位とする。

四 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が45時間となる授業をもって1単位とする。

授業の種類	授業1時間当たりの換算時間
講義	3時間
演習	1.5時間
実習・実験・実技	1時間

2) 単位の考え方

1) に記載されているように、1単位の学修時間を45時間としながら、実際の講義については15時間（30時間）で1単位としています。これは、45時間の中に講義以外の事前・事後学習の時間が含まれるとする考え方によるものです。

9. 卒業要件、学位の授与及び国家試験

1) 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に3年以上在学し、本学学則の別表1に定める授業科目の次の表に示す単位を修得しなければなりません。

2) 学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、「短期大学士（視機能療法学）」（英訳名：Associate of Science in Orthoptics）の学位が授与され、視能療法士国家試験の受験資格が得られます。

この国家試験は、厚生労働省により年1回実施されます。

＜リハビリテーション学科 視機能療法専攻の卒業要件単位数＞

区 分			必 修	選 択	合 計
総 合 教 育 科 目	教養教育科目	人間と科学	2 単位	4 単位以上	6 単位以上
		人間と社会	—	4 単位以上	4 単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	3 単位	—	3 単位
		外国語	1 単位	1 単位以上	2 単位以上
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目	人体の構造	3 単位	—	3 単位
		人体の機能	2 単位	—	2 単位
		心身の発達	3 単位	—	3 単位
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の 促進	1 0 単位	—	1 0 単位
		視覚機能の基礎と検査機器	9 単位	—	9 単位
		保健医療福祉と視能障害リハビリテー ションの理念	6 単位	—	6 単位
	専門科目	基礎視能矯正学	9 単位	1 単位以上	1 0 単位以上
		視能検査学	1 0 単位	—	1 0 単位
		視能障害学	6 単位	—	6 単位
		視能訓練学	1 0 単位	—	1 0 単位
		臨地実習	1 4 単位	—	1 4 単位
合 計			9 0 単位	1 0 単位以上	9 8 単位以上

カリキュラムマップ<リハビリテーション学科学視機能療法専攻>

建学の精神 「誠意と親切と広い心」を理念とし、医療の基礎的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的

全学…教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念とし、豊かな一般教養の上に実践的な学習及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

教育目標

リハビリテーション学科学視機能療法専攻…深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもちつ機能訓練士の養成を目的とする。

①科学的根拠に基づいた機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する機能訓練士。

②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する機能訓練士。

③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する機能訓練士。

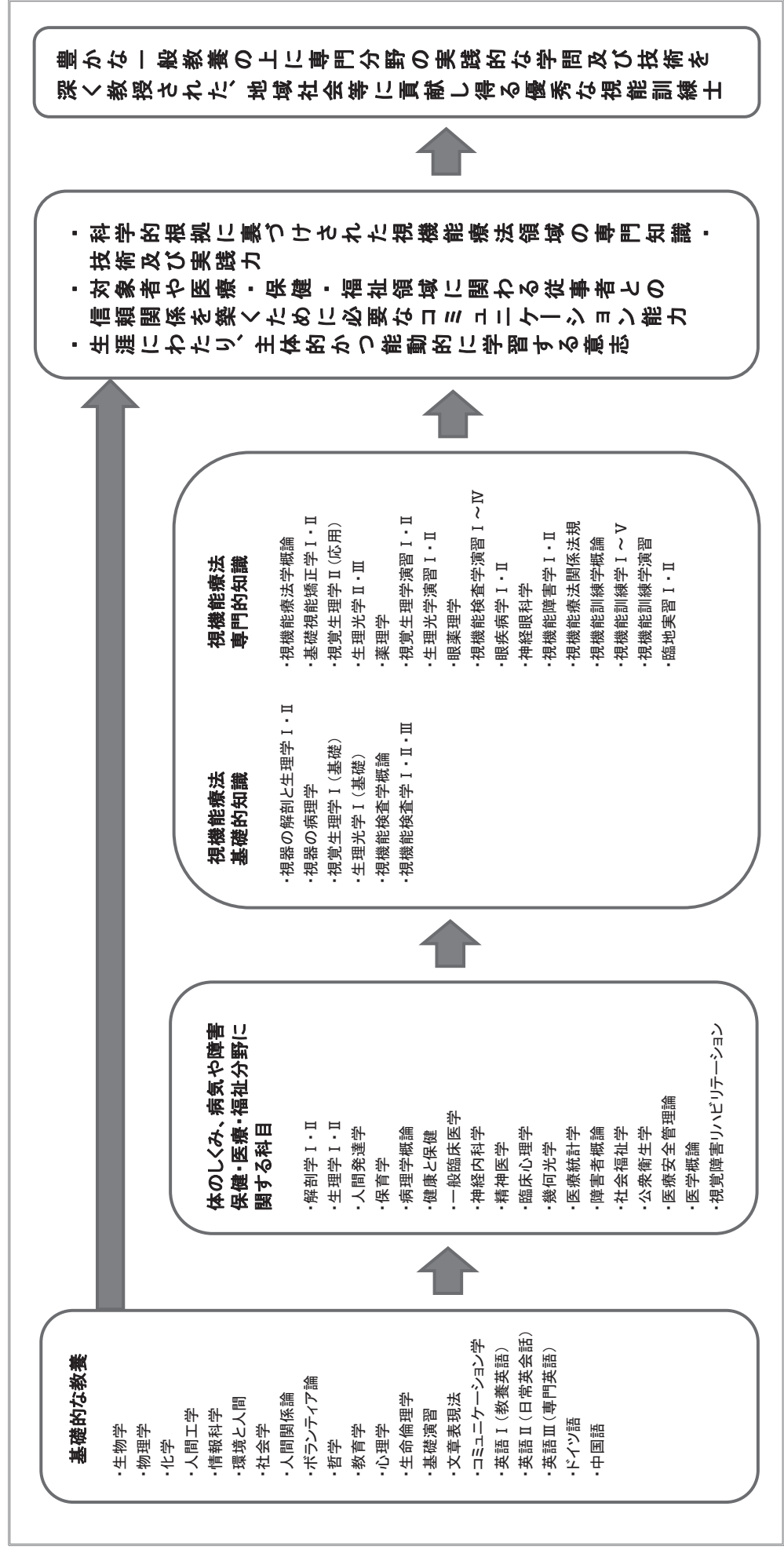
※ディプロマ・ポリシーの番号は、P4の該当番号

カリキュラム・ポリシー		1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー	
全学方針	項目	前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	培養能法専攻
社会生活に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身に付けるため、全学に総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 化学 人間工学 社会学 人間関係論 心理学 基礎演習 英語Ⅰ(教養英語)	情報科学 環境と人間 哲学 教育学 心理学 コミュニケーション学 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語			生命倫理学		機能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観などの教養を身に付けている。	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観などを身に付ける。	(1) 機能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観などの教養を身に付けている。
	人間の発達	解剖学Ⅰ(骨・筋肉・内臓系・消化器系) 生理学Ⅰ(動物の機能) 人間発達学 保育学		解剖学Ⅱ(神経系)				機能訓練士としての全人的発展のために必要な人間性や教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できる能力、コミュニケーション能力の修得	(2) 学習を通して、専門知識と技術の修得	(2) 身体の特徴及び心身の機能を理解し、科学的知識に基づいた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。
	疾病と障害の予防・治療過程の促進	疾病と障害の予防・治療過程の促進 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語		基礎臨床医学 神経科学 精神医学 臨床心理学 視覚の生理学				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手と人間関係を築くことができる。	(3) 身体の特徴及び心身の機能を理解し、科学的知識に基づいた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。
	機能療法学の基礎と検査機器	機能療法学の基礎と検査機器 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語		機能療法学Ⅰ(眼科・一般検査) 機能療法学Ⅱ(眼科検査) 機能療法学Ⅲ(眼底機能検査) 機能療法学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(4) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(4) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。
機能療法学の確かな専門知識・技術を提供させる科目として、基礎的機能療法学の科目を配置する。	保健医療福祉と機能療法学のリハビリテーションの理念	保健医療福祉と機能療法学のリハビリテーションの理念 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	社会福祉学 医療安全管理論 医学概論	公衆衛生学 就業障害リハビリテーション				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(5) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(5) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。
	基礎機能矯正学	基礎機能矯正学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	基礎機能矯正学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	基礎機能矯正学Ⅰ(眼科・一般検査) 基礎機能矯正学Ⅱ(眼科検査) 基礎機能矯正学Ⅲ(眼底機能検査) 基礎機能矯正学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(6) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(6) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。
	機能検査学	機能検査学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能検査学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能検査学Ⅰ(眼科・一般検査) 機能検査学Ⅱ(眼科検査) 機能検査学Ⅲ(眼底機能検査) 機能検査学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(7) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(7) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。
	機能訓練学	機能訓練学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能訓練学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能訓練学Ⅰ(眼科・一般検査) 機能訓練学Ⅱ(眼科検査) 機能訓練学Ⅲ(眼底機能検査) 機能訓練学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(8) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(8) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。
機能療法学の確かな専門知識・技術を提供させる科目として、基礎的機能療法学の科目を配置する。	機能療法学の基礎と検査機器	機能療法学の基礎と検査機器 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能療法学の基礎と検査機器 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能療法学Ⅰ(眼科・一般検査) 機能療法学Ⅱ(眼科検査) 機能療法学Ⅲ(眼底機能検査) 機能療法学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(9) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(9) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。
	機能検査学	機能検査学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能検査学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能検査学Ⅰ(眼科・一般検査) 機能検査学Ⅱ(眼科検査) 機能検査学Ⅲ(眼底機能検査) 機能検査学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(10) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(10) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。
	機能訓練学	機能訓練学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能訓練学 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能訓練学Ⅰ(眼科・一般検査) 機能訓練学Ⅱ(眼科検査) 機能訓練学Ⅲ(眼底機能検査) 機能訓練学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(11) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(11) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。
	機能療法学の基礎と検査機器	機能療法学の基礎と検査機器 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能療法学の基礎と検査機器 基礎演習 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	機能療法学Ⅰ(眼科・一般検査) 機能療法学Ⅱ(眼科検査) 機能療法学Ⅲ(眼底機能検査) 機能療法学Ⅳ(視覚機能検査)				機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	(12) 地域の特徴・医療システムに合わせた機能療法を要する際に必要となる専門知識及び技術を身に付けている。	(12) 機能療法学に関する問題を解決するための科学的思考を身に付け、機能療法学の向上のため、生涯にわたって学習し、主体的に研究できる。

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

＜リハビリテーション学科視機能療法専攻＞



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

<リハビリテーション学科視機能療法専攻>

評価項目	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(骨・筋肉・循環・内分泌・消化器等) 解剖学Ⅱ(神経系) 生理学Ⅰ(動物的機能) 生理学Ⅱ(植物的機能) 人間発達学 保育学 病理学概論 健康と保健 幾何光学 医療統計学 一般臨床医学 神経内科学 精神医学 臨床心理学 視器の解剖と生理学Ⅰ(眼球・眼球付属器他) 視器の解剖と生理学Ⅱ(視路・眼運動系他) 視器の病理学 視覚生理学Ⅰ(基礎) 生理光学Ⅰ(基礎) 視機能検査学概論 視機能検査学Ⅰ(眼科一般検査) 視機能検査学Ⅱ(眼位検査) 視機能検査学Ⅲ(両眼視機能検査) 公衆衛生学 社会福祉学 医療安全管理論 医学概論 障害者概論 視覚障害リハビリテーション	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得 視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得 チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	視機能療法学概論 基礎視能矯正学Ⅰ(眼球運動、他) 基礎視能矯正学Ⅱ(眼位、両眼視) 視覚生理学Ⅱ(応用) 生理光学Ⅱ(眼球光学) 生理光学Ⅲ(屈折・調節) 薬理学 基礎視機能矯正学特論Ⅰ(解剖と生理、視覚生理) 基礎視機能矯正学特論Ⅱ(生理光学) 視機能療法学実験研究 医療情報学 視覚生理学演習Ⅰ(視野検査他) 視覚生理学演習Ⅱ(電気生理) 生理光学演習Ⅰ(屈折検査) 生理光学演習Ⅱ(屈折矯正) 眼薬理学 視機能検査学演習Ⅰ(眼科一般検査) 視機能検査学演習Ⅱ(両眼視機能検査) 視機能検査学演習Ⅲ(眼位検査) 視機能検査学演習Ⅳ(眼運動系検査) 画像診断学 眼疾病学Ⅰ(眼球、眼球付属器他) 眼疾病学Ⅱ((遺伝性眼疾患、小児眼疾患他) 神経眼科学 視機能障害学Ⅰ(神経疾患、前眼部疾患他) 視機能障害学Ⅱ(網脈絡膜疾患、視路疾患他) 視機能障害学特論 視機能療法関係法規 視機能訓練学概論 視機能訓練学Ⅰ(視機能訓練学、基礎) 視機能訓練学Ⅱ(視機能訓練学、斜視) 視機能訓練学Ⅲ(視機能訓練学、弱視) 視機能訓練学Ⅳ(視機能訓練学、ロービジョン) 視機能訓練学Ⅴ(視機能訓練学、総括) 視機能訓練学演習 視機能訓練学特論Ⅰ(基礎) 視機能訓練学特論Ⅱ(応用) 臨地実習Ⅰ 臨地実習Ⅱ	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

シラバス

リハビリテーション学科

視機能療法専攻

◎ リハビリテーション学科 視機能療法専攻

◆ 総合教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	22
		物理学	1年次前学期	中村 琢	24
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	26
		情報科学	1年次後学期	福岡大輔	28
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	30
		環境と人間	1年次後学期	大藪千穂	32
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	34
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	36
		ボランティア論	1年次前学期	益川優子	38
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	40
		教育学	1年次後学期	益川優子	42
		心理学	1年次後学期	大井修三	44
基礎教育科目	コミュニケーション	生命倫理学	3年次前学期	谷口泰弘	46
		基礎演習	1年次前学期	野原尚美、國武実里	48
		文章表現法	1年次前学期	長屋由喜子	50
	外国語	コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	52
		英語Ⅰ(教養英語)	1年次前学期	長尾裕子	54
		英語Ⅱ(日常英会話)C	1年次後学期	長尾裕子	56
		英語Ⅲ(専門英語)	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	58
		ドイツ語	1年次後学期	安藤彰浩	60
		中国語	1年次後学期	橋本永貢子	62

◎ リハビリテーション学科 視機能療法専攻

◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門基礎科目	人体の構造	解剖学Ⅰ(骨・筋肉・循環・内分泌・消化器系)	1年次前学期	江村正一	64
		解剖学Ⅱ(神経系)	2年次後学期	松井康樹	66
	人体の機能	生理学Ⅰ(動物的機能)	1年次前学期	川島 卓	68
		生理学Ⅱ(植物的機能)	1年次後学期	川島 卓	70
	心身の発達	人間発達学	1年次前学期	大森正英	72
		保育学	1年次前学期	今村光章	74
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1年次後学期	松井永子	76
		健康と保健	1年次前学期	三品 弘司、皮野さよみ、古田弥生、岩瀬桃子、森岡菜穂子、林宗典	78
		幾何光学	2年次後学期	仲澤和馬	80
		医療統計学	1年次前学期	山田雅博	82
		一般臨床医学	2年次前学期	近藤直実、横井達夫、田辺久美子、山本容正、長瀬典子、加藤里菜、熊田ますみ	84
		神経内科学	2年次前学期	木村暁夫、下畑享良、山田恵、吉倉延亮、竹腰顕、國枝顕二郎、大野陽哉、山原直紀	86
		精神医学	2年次前学期	宮地幸雄	88
		臨床心理学	2年次前学期	高橋晋也	90
		視器の解剖と生理学Ⅰ(眼球・眼球付属器他)	1年次前学期	丹沢慶一	92
		視器の解剖と生理学Ⅱ(視路・眼運動系他)	1年次前学期	丹沢慶一	94
	視覚機能の基礎と検査機器	視器の病理学	2年次前学期	大庭紀雄	96
		視覚生理学Ⅰ(基礎)	1年次前学期	松井康樹	98
		生理光学Ⅰ(基礎)	1年次前学期	四之宮佑馬	100
		視機能検査学概論	1年次後学期	四之宮佑馬	102
		視機能検査学Ⅰ(眼科一般検査)	1年次後学期	四之宮佑馬	104
		視機能検査学Ⅱ(眼位検査)	1年次後学期	四之宮佑馬	106
		視機能検査学Ⅲ(両眼視機能検査)	2年次後学期	野原尚美、枝川 宏	108
		公衆衛生学	2年次後学期	大森周太郎	110
	保健医療福祉と視能障害のリハビリテーションの理念	社会福祉学	1年次後学期	竹内章郎	112
		医療安全管理論	1年次後学期	三品 弘司、皮野さよみ、出口睦雄、村上秀和	114
		医学概論	1年次後学期	千田隆夫	116
		障害者概論	1年次前学期	舟橋和宏	118
		視覚障害リハビリテーション	2年次後学期	棚橋公郎、池谷尚剛、川瀬和秀	120

◎ リハビリテーション学科 視機能療法専攻

◆ 専門科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門科目	基礎視能矯正学	視機能療法学概論	1年次前学期	野原尚美	122
		基礎視機能矯正学Ⅰ(眼球運動、他)	1年次後学期	丹沢慶一	124
		基礎視機能矯正学Ⅱ(眼位、両眼視)	1年次後学期	丹沢慶一	126
		視覚生理学Ⅱ(応用)	1年次前学期	松井康樹	128
		生理光学Ⅱ(眼球光学)	1年次前学期	四之宮佑馬	130
		生理光学Ⅲ(屈折・調整)	2年次前学期	磯谷尚輝	132
		薬理学	2年次前学期	中村信介	134
		基礎視機能矯正学特論Ⅰ(解剖と生理、視覚生理)	3年次後学期	松井康樹	136
		基礎視機能矯正学特論Ⅱ(生理光学)	3年次後学期	野原尚美、丹沢慶一	138
		視機能療法学実験研究	2年次通年	丹沢慶一	140
		医療情報学	3年次後学期	大庭紀雄	142
	視能検査学	視覚生理学演習Ⅰ(視野検査他)	1年次後学期	丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里、野原尚美 松井康樹	144
		視覚生理学演習Ⅱ(電気生理)	2年次前学期	丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里、野原尚美 松井康樹	146
		生理光学演習Ⅰ(屈折検査)	1年次前学期	丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里、野原尚美 松井康樹	148
		生理光学演習Ⅱ(屈折矯正)	2年次後学期	野原尚美、國武実里、丹沢慶一、四之宮佑馬 松井康樹	150
		眼薬理学	2年次前学期	大庭紀雄	152
		視機能検査学演習Ⅰ(眼科一般検査)	1年次後学期	丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里、野原尚美 松井康樹	154
		視機能検査学演習Ⅱ(両眼視機能検査)	1年次後学期	丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里、野原尚美 松井康樹	156
		視機能検査学演習Ⅲ(眼位検査)	2年次前学期	丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里、野原尚美 松井康樹	158
		視機能検査学演習Ⅳ(眼運動系検査)	2年次後学期	野原尚美、丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里 松井康樹	160
		画像診断学	2年次前学期	四之宮佑馬	162
	視能障害学	眼疾病学Ⅰ(眼球、眼球付属器他)	2年次前学期	松井康樹、内田英哉、望月清文	164
		眼疾病学Ⅱ(遺伝性眼疾患、小児眼疾患他)	2年次後学期	松井康樹、内田英哉、澤田 明	166
		神経眼科学	2年次後学期	大庭紀雄、丹沢慶一	168
		視機能障害学Ⅰ(神経疾患、前眼部疾患他)	1年次後学期	松井康樹	170
		視機能障害学Ⅱ(網脈絡膜疾患、視路疾患他)	1年次後学期	丹沢慶一	172
		視機能障害学特論	3年次後学期	説田雅典	174
	視能訓練学	視機能療法関係法規	2年次前学期	大庭紀雄	176
		視機能訓練学概論	1年次後学期	野原尚美	178
		視機能訓練学Ⅰ(視機能訓練学, 基礎)	1年次後学期	野原尚美	180
		視機能訓練学Ⅱ(視機能訓練学, 斜視)	2年次前学期	丹沢慶一	182
		視機能訓練学Ⅲ(視機能訓練学, 弱視)	2年次前学期	野原尚美	184
		視機能訓練学Ⅳ(視機能訓練学, ロービジョン)	2年次前学期	野原尚美	186
		視機能訓練学Ⅴ(視機能訓練学, 総括)	3年次後学期	丹沢慶一、國武実里	188
		視機能訓練学演習	3年次前学期	野原尚美、丹沢慶一、四之宮佑馬、國武実里 松井康樹	190
		視機能訓練学特論Ⅰ(基礎)	2年次後学期	丹沢慶一	192
		視機能訓練学特論Ⅱ(応用)	3年次前学期	松井康樹、野原尚美、関戸昌諭	194
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	2年次後学期	野原尚美、丹沢慶一、四之宮佑馬、松井康樹	196
		臨地実習Ⅱ	3年次通年	野原尚美、丹沢慶一、四之宮佑馬、松井康樹	198

授業科目名		担当教員				
生物学		江村 正一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 前学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1)(3) 作業ディプロマポリシー(1)(3) 視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
すべての生物の基本構造である「細胞」についての理解をもとに、遺伝、発生、生命の進化と多様性などについて学び「生命」とは何かを考える。生物学で得た知識と理解が、将来、医療に携わるために修めなければならない、他の多くの科目の基礎となる。特に解剖学と生理学の学習にとって直接関係のある事象が多く出て来ますので、その部分については特に理解を深めてください。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 細胞・組織・器官について説明できる。 ② 遺伝・発生について説明できる。 ③ 進化・多様性について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	細胞とその構造について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
2	細菌・ウイルスについて	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
3	染色体異常について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
4	血液型について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
5	ヒトの遺伝と先天性異常について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
6	生殖について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
7	発生について	②			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
8	免疫について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
9	知覚について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	記憶について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
11	脳神経について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
12	生命の誕生について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
13	生命の進化について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
14	ヒトの起源と進化について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
15	生物多様性について	③			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
課題に対するレポート提出（100%）						
使用教科書						
系統看護学講座 生物学 / 高畑ほか.--第10版--医学書院, 2022年, 978-4-260-03189-9						
参考図書						
適宜、参考資料を配布する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	課題に対する質問をメールでも受け付ける。 E-mail:s.emura@heisei-iryuu.ac.jp					
備考						

授業科目名		担当教員				
物理学		中村 琢				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1) (3) 作業ディプロマポリシー(1) (3) 視機能ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この授業は物理学の様々な分野について短期間で概括的に学習するものである。特に看護やリハビリテーションなど医療・看護の職に就く際には物理学の知識は必須であり、本授業では現場で働く際に役に立つ物理学の法則、原則についても扱う。後半では放射線の性質を扱い、実習を含める。授業の形態は情報伝達でなく、簡単なグループワークなど、学習者の主体的な学び（アクティブラーニング）を取り入れる。高等学校で物理を履修していない学習者も本科目を履修できる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①物理学の学習内容について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②学習した内容を活用して計算し、思考し、探究に活かすことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物理学の基礎知識 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		シラバスと教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
2	自然界の階層性 第1回と第2回はパワーポイントで説明します。	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
3	力学の基礎 1 第3回以降は黒板に板書します。	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
4	力学の基礎 2	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
5	力学の基礎 3	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
6	波動 1	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
7	波動 2	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
8	光と音の性質	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
9	電気と磁気	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	電流と電圧	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
11	原子と原子核	①	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
12	放射線の性質	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
13	放射線の利用と被ばく	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
14	放射線の測定	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
15	放射線被ばく防護	① ②	中村		次の授業の内容と予習の方法について指示します。教科書に目を通してください。(60分)	授業でわからなかったことを次の授業で質問できるようにノートと教科書で復習してください。(180分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
知識・理解・思考・判断・表現・技能、関心・意欲・態度の観点を総合的に判断する。 定期試験（50％）、時間内レポート・課題（30％）、授業参加態度（20％）						
使用教科書						
ここからスタート物理学 / 為近和彦、--裳華房、2018年、978-4-785322649 必ずしも教科書に沿って扱うわけではありません。学習者の実態に応じ授業中で使い方を説明します。						
参考図書						
自然科学の基礎としての物理学，原康夫，学術図書出版社，2014年，体系看護学 基礎科目 物理学，平田雅子，メヂカルフレンド社，2006年						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	試験についての内容や勉強法については授業中に詳しく説明します。レポート課題を出す前に，評価指標について詳しく説明します。					
備考	1. オフィスアワー：講義終了後20分程度。電子メールでの質問に随時対応します。 2. 質問等：講義時間中や授業終了後に受け付けます。Zoomのチャット機能での質問にもできるだけ対応しますが，受講者数が多い場合は電子メールで問い合わせてください。 3. 電子メールアドレス：nakamura@gifu-u.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
化学		武藤 吉徳				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
化学は「物質」を理解することを目的とする。医療技術に関わる多くの装置や薬品、そして人体など全てのものが様々な物質で構成されているので、化学の知識は医療分野の基礎としても非常に重要である。この講義では、化学の基礎的な内容を無機化学、有機化学の全般に亘ってなるべくわかり易く解説するように努める。また、医療に関連する事項をできる限り多く取り上げて、専門科目への橋渡しとなるようにしたい。						
学 修 の 到 達 目 標						
①生体物質や医薬品を構成する元素や化学結合の特徴が理解できる。 ②主要な有機化合物について、その構造や性質を説明できる。 ③医療の場で出会う様々な物質、薬品について科学的特性を把握できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	物質の特性	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
2	原子と分子	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
3	化学結合	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
4	物質の三態・溶液とコロイド	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
5	塩化物	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
6	酸・アルカリ	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
7	無機化合物	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
8	放射性元素	① ③			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)
9	有機化合物概要	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脂肪族炭化水素	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
11	酸素、窒素を含む有機化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
12	カルボン酸、その他	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
13	芳香族化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
14	脂環・複素環化合物	②			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
15	生体物質	①			教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく (120分)	教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
評価基準：化学物質に関する知識・理解を重要視する。 評価方法：定期試験（100％）						
使用教科書						
系統看護学講座基礎分野「化学」 / 奈良雅之.--第7版--医学書院, 2018年, 978-4-260-03181-3						
参考図書						
舟橋弥益男・渡辺昭次 著 「炭素化合物の世界」東京教学社						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出されたレポートにコメントをつけて返却する。					
備考	授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。					

授業科目名		担当教員				
情報科学		福岡 大輔				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1) (3) 作業ディプロマポリシー(1) (3) 視機能ディプロマポリシー(1) (3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
情報科学において基礎となるデジタル化とネットワークによる情報の蓄積・交換を中心として、情報社会のすがたを描きつつ情報システムやビックデータを活用した業務や生活の変革について検討する。さらに、医療分野をはじめとした情報通信技術や人工知能の活用について調査し、レポートやプレゼンテーションを作成する過程をとおして、問題解決に情報手段を活用するための情報活用能力を身につける。このために、本学が整備しているgoogleのclassroomをはじめとした各種サービスを利用する。						
学 修 の 到 達 目 標						
情報社会の特徴を理解し、将来の社会像や働き方、生活等を具体的に描いて論述できる。 ② 情報手段を効果的に活用して協働学習を行い、課題解決を効果的に推進することができる。 ③ 本学の提供するgoogle classroomをはじめとした各種サービスを活用する基礎技能を習得する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	情報とコンピュータおよび通信ネットワーク， google classroomの利用	① ③			配布資料を読み情報科学への理解を深める (120分)	配布資料を読みまとめる (120分)
2	Society 5.0が描く情報社会の現在と未来を知る	①			Society5.0について事前調査 (120分)	Society5.0を説明できるようにまとめる (120分)
3	データ駆動型社会の到来	①			データ駆動型社会について事前調査 (120分)	データ駆動型社会についてまとめる (120分)
4	社会インフラとデータ活用	①			社会インフラと情報技術について事前調査 (120分)	社会インフラと情報技術についてまとめる (120分)
5	医療分野における情報化とセキュリティ	①			医療現場における情報システムについて事前調査 (120分)	医療現場における情報システムについてまとめる (120分)
6	医療分野における無線通信の利用	② ③			医療現場における無線通信技術の活用について事前調査 (120分)	専門用語の意味を説明できるようにまとめる (120分)
7	文書処理と共有管理	② ③			レポートのアウトライン作成 (120分)	レポートの修正・加筆 (120分)
8	プレゼンテーションと資料作成 (プレゼンテーションソフトの利用)	② ③			プレゼンテーションのアウトライン作成 (120分)	プレゼンテーションの修正 (120分)
9	データ分析 (相関・検定・回帰)	② ③			データ解析手法の事前調査 (120分)	専門用語を説明できるようにまとめる (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	データ収集・仮説を立てる (フォーム作成ツールの活用)	② ③			調査のアウトライン 検討 (120分)	データの収集を行い 資料をまとめる (120分)
11	データ処理とグラフ (表計算・集計ソフトの利用)	② ③			データ処理手法につ いて調べておく (120分)	講義で学んだ内容を 実用できるようにま とめる (120分)
12	シミュレーション (数値解析の利用)	② ③			各種シミュレーショ ン手法を調べておく (120分)	講義で学んだ内容を 実用できるようにま とめる (120分)
13	データ分析とプログラミング	② ③			プログラミングにつ いて調べておく (120分)	プログラミング課題 とその理解 (120分)
14	データマイニング (テキストマイニングソフトの利用)	② ③			データマイニングに ついて調べておく (120分)	講義で学んだ内容を 実用できるようにま とめる (120分)
15	人工知能に関する技術・医療への応用	①			人工知能の仕組みに ついて調べておく (120分)	専門用語の意味を説 明できるようにまと める (120分)
	レポート試験					
評価基準・評価方法						
知識・理解は、授業中の対話状況、質疑応答等での評価と数回の小レポートで評価する。(30%) ② 情報手段の活用及び態度は、classroom利用状況、課題提出、成果物で評価する。(20%) ③ 思考・判断は、授業中の対話、レポートにおける論述における批判的思考に基づく論理展開の深さで評価する。 (50%)						
使用教科書						
なし						
参考図書						
情報科学基礎-コンピュータとネットワークの基本, 伊東俊彦, ムイスリ出版, 2015, ISBN978-4-89641-235-2						
課題(試験やレポート)に対 するフィードバックの方法	授業では資料配布, 課題提出・評価等はGoogle classroomを用いて実施し, 教師と学生, 学生相互のコミュニケーションに活用する。その内容はclassroom内で公開して共有する。					
備考	授業時間以外にもコミュニケーションのためにclassroomへのアクセスが必要となる。 また, 演習を行えるパソコン環境を準備することが望ましい。					

授業科目名		担当教員				
人間工学		山田 宏尚				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
人間が普段無意識に行っている身体運動や生命維持活動は、筋肉・骨格・内臓・血管など身体の各部位に働く力やモーメントをはじめとした物理学的メカニズムによって成立している。本講義では、医療行為の具体例に基づいて、身体活動の物理学的なメカニズムを学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①人間の身体活動に関わる物理学の基礎を身につけることができる。 ②物理的根拠に基づく治療行為を実践するための基礎を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス・モーメントの定義と働き	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
2	重いものを持つにはどうしたらよいか	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
3	てこの原理と計算	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
4	看護ボディメカニクスの物理	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
5	看護の物理的重点事項	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
6	身近な圧力 (1)	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
7	身近な圧力 (2)	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
8	呼吸器と吸引の物理	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)
9	チェストドレーンバックの原理	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	点滴静脈内注射の物理（１）	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
11	点滴静脈内注射の物理（２）	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
12	循環器の物理	①			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
13	血圧測定 of 物理	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
14	感覚器の物理	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
15	体温制御の物理，総復習	① ②			指定教科書該当ページに目を通す (120分)	講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分）
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
・評価基準： 知識の修得度と計算能力（目標①）、応用的思考能力（目標②） ・評価方法： 定期試験（70%）、小テスト・宿題・授業態度（30%）で評価する。						
使用教科書						
看護学生のための物理学 / 佐藤和良，--第6版--医学書院，2022年，978-4-260-04685-5						
参考図書						
適宜紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	提出された課題について全体の総評コメントを口頭にて公開する					
備考	・毎回の授業で小テストを実施し、随時課題を課す。 ・オフィスアワー： 講義前後の時間に非常勤講師室で待機する。 ・質問： 講義中やオフィスアワーに直接、それ以外にメール（yamada@gifu-u.ac.jp）で随時受け付ける。					

授業科目名		担当教員				
環境と人間		大藪 千穂				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
資源・環境問題を解決し、持続可能な社会を構築することが、21世紀最大の課題である。しかし、そのためのアプローチの方法は、まだ、見出されていない。この講義では、環境問題は人間の問題であるとの観点に立ち、環境と人間の関係を、生活と情報によってむすびつけ、環境問題を根本的にとらえなおし、環境問題の解決法を考え、持続可能な社会を展望する。また、人間の成長・発達や脳疾患のリハビリ等に対して、環境が果たす重要な役割を考察する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①受講者ひとりひとりが、自分で問題解決の手がかりを、考え、見出すことができる。 ②既存の考え方や方法にとらわれることなく、自分自身の考え方をもち、発展させることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	環境問題とは何か？	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
2	環境問題の原点、水俣病の問題を、生産、消費、環境から考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
3	家庭生活から環境問題の本質を探る。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
4	衣生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
5	食生活から環境を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
6	簡易生ゴミ分解器を製作し、その活用法を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
7	河川環境と人間の関係を考える。	①			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
8	情報から環境と人間を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
9	人間形成に対する情報と環境の意味を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳障害者の発達、脳疾患のリハビリを、環境と情報の観点から捉えなおす。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
11	環境教育のあり方を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
12	アーミッシュと現代社会を比較する。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
13	近代のライフスタイルを再考する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
14	生態学の意味を考える。	① ②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
15	環境と情報から、持続可能な社会を展望する。	②			授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分)	授業時に配布されたプリントを読む。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
評価基準は、知識・理解、思考・判断、授業態度の総合であるが、特に、各自のオリジナルな思考を重視する。 評価方法は、レポート（50%）、小レポート・小テスト（30%）、授業態度等（20%）による。						
使用教科書						
21世紀の情報とライフスタイル / 杉原利治.--論創社、2001年、978-4-8460-0261-9						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。					
備考	毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。					

授業科目名		担当教員				
社会学		伊原 亮司				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この講義は、現代社会のあり方について学ぶ。なかでも、ほとんどの人にとって切実なテーマである＜働くこと＞に焦点をあてて、現代社会のあり方を理解する。わたしたちは、人生の早い段階から＜働くこと＞を意識させられ、その準備をするように煽られている。しかし、働く場の実態については無知なまま、耳に優しい言葉ばかりを聞かされる。本講義は、現代社会における労働の現実を理解し、自分たちの働き方を構想することを目的とする。医療関連の仕事に就く予定である受講者は、「就活」にはさほど困らないかもしれない。しかし、働き出してから、「いじめ」、「うつ病」、「過労死」といった様々な問題に直面する可能性がある。医療従事者は「感情労働者」ともいわれ、専門知識のみならず、コミュニケーションの仕方や感情の表出の仕方など、人格に関わる側面が重視される。感情労働に付随する問題点を理解し、「うつ病」や「過労死」から自分の身を守る術を習得して欲しい。						
学 修 の 到 達 目 標						
①現代社会における働く場の実態を理解できる ②その際に、いかなる視点から「現実」を切り取ればいいのか、分析枠組みを理解することができる ③自分自身で職場の実態を捉えられるようになる ④＜働くこと＞に対する自分のスタンスを考えることができる ⑤その際、狭義の「能力」の形成に励むだけでなく、自分の「身の守り方」にも留意することができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクションー＜働くこと＞とは	②			テキストの「はじめに」と「おわりに」を読み、概要を理解する (120分)	講義を踏まえた上で、テキストの全体像をイメージする (120分)
2	従来の社会と働き方ー「日本的経営」と「企業社会」	① ②			テキストの第一章を読み、概要を理解する (120分)	第一章を読み直し、ドラッカーの経営思想を復習する (120分)
3	労働社会の変容ー学校、会社、家庭の関係	① ③			テキストの第一章から、現代社会の変容の概要を理解する (120分)	戦後日本の労働社会の変容を自らたどる (120分)
4	働く場の実態Ⅰー過労死・過労自殺	① ③			テキストの第四章を読み、概要を理解する (120分)	テキストの第四章から、過労死と過労自殺の違いを復習する (120分)
5	組織や役割への過剰適応	④			テキストの第四章から、組織への「過剰適応」について頭に入れる (120分)	逸脱と過剰適応との違いを復習する (120分)
6	働く場の実態Ⅱー「うつ病」	① ③			テキストの第三章を読み、概要を理解する (120分)	第三章を読み直し、精神疾患と労働との関係を復習する (120分)
7	感情労働の特質	④			テキストの第三章から、「感情労働」の特徴をつかむ (120分)	肉体労働、知的労働との違いを理解する (120分)
8	働く場の実態Ⅲー「ハラスメント」	① ③			テキストの第二章を読み、概要を理解する (120分)	日産の事例を追いながら、いじめとハラスメントとの違いを理解する (120分)
9	経営合理化と過度のプレッシャー	④			テキストの第二章から、相互扶助と相互監視のメカニズムを理解する(120分)	職場における過度のプレッシャーが生じる理由を考える (120分)。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	働く場の実態Ⅳ－職場秩序の悪化	① ③			職場秩序の悪化のメカニズムについて、概要を理解する (120分)	現在の職場における「秩序」の崩壊理由を整理する (120分)
11	非正規雇用の増大	① ③			雇用規制の緩和と非正規雇用の増大の実態について理解する (120分)	非正規雇用が増大した契機・時期・理由を整理する (120分)
12	新しい働き方とは	① ④			テキストの第六章を読み、概要を理解する (120分)	「日本の経営」から新自由主義に基づく経営への推移を整理する (120分)
13	社会貢献という働き方	① ④			テキストの第七章を読み、概要を理解する (120分)	「社会貢献」の問題点について整理する (120分)
14	働くということを考え直す	④ ⑤			テキストの第七章を読み、＜働く＞ということを考え直す (120分)	賃労働とは何かを考え直す (120分)
15	労働を規制する、勤勉さを相対化する	④ ⑤			テキストの第八章を読み、概要を理解する (120分)	講義を踏まえた上で、自らの働き方を構想する (120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
授業への参加態度（20％）、レポート（20％）、テスト（60％）などから総合的に評価。						
使用教科書						
私たちはどのように働かされるのか / 伊原亮司. --こぶし書房, 978-4-87559-299-0						
参考図書						
講義中に適宜紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	講義前に、予習時にわからなかったことを聞く。また、講義の最後に、理解が不十分な点を意見してもらう。					
備考						

授業科目名		担当教員				
人間関係論		神戸 博一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この講義では、日常生活や職場、家族、医療の現場などで起こる様々な人間関係について理解し、より良い人間関係を築くために学びます。まず人間関係の基本的な意義・視点から、職場での人間関係論、生涯にわたる人間発達と人間関係、更に人間関係を構成する自己と他者、人間関係の成立と維持、対立について学びます。次いで人間関係を円滑に進めるために、コミュニケーションの基礎・基本、マスコミ、インターネットとその諸問題なども学びます。なお、人間関係は、Human Relationなので、授業計画の中で、HRと略して使います。						
学 修 の 到 達 目 標						
テキストの内容について、学生自身が考え、充分に理解し、そこから実践できるレベルを目標とします。						
①人間関係の意義・視点について考えることができる。		⑥人間関係が成立し、維持するルール、葛藤・対立への対処法を学び、実践できる。				
②職場の人間関係と対処法について理解できる。		⑦コミュニケーションの基礎、基本が理解できる。				
③生涯の人間発達と人間関係について知り、応用できる。		⑧コミュニケーションの種類、その長短が理解できる。				
④人間関係の一方である自己が理解できる。		⑨マスコミの基本、影響について理解できる。				
⑤人間関係の他方である他者が理解できる		⑩インターネットと人間関係の問題について知る。				
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	シラバス（成績評価の試験、学習対策、成績評価の基準など）第1章人間関係の中の自己と他者 A人間関係論とは	①			シラバス、①関係的存在としての人間、生理的早産について（120分）	身近なHRでは何があるか、生理的早産の意味とは何か（120分）
2	野生児について	①			フランスやインドの野生児と社会、HR（120分）	野生児の定義、特殊な「実験」の意味とその結果は（120分）
3	メーヨーのホーソン実験	②			②人間関係論のはじまりで、ホーソン実験の概要とインフォーマルグループ論について（120分）	ホーソン実験のポイント、その結論とインフォーマドコンセントとの関係（120分）
4	人間関係の発達 ― エリクソンの理論	③			③人間関係の発達で、その段階と課題、HRを理解する（120分）	特に、乳児期、青年期、老年期について、子どもの虐待をデータからみる（120分）
5	B自己認知 ― 自己概念	④			①自己概念で、文化による相違 ②関係的自己とは（120分）	鏡に映った自己とは西欧的自己と日本的自己との対比・比較（120分）
6	自己認知 ＝ 自己評価	④			③自己評価で、他者との比較の仕方 ④自己呈示の意味や目的、内面化（120分）	下方比較、上方比較の相違について（120分）
7	C 対人認知 ― 印象形成、バイアス	⑤			①印象形成で、断片の情報と全体像との関係 ②バイアス、偏見について（120分）	ステレオタイプの具体例を挙げる 予言の自己成就とは（120分）
8	第2章 対人関係と役割 ― A 対人関係の成立	⑥			他者との関係が成立する魅力や好意の条件は6つあり、その内容を理解する（120分）	カメレオン効果、単純接触効果、錯誤帰属とは（120分）
9	B 対人関係の維持	⑥			①社会的交換で、対人関係を維持する条件の4つ ②私的利益と公的利益のジレンマ（120分）	社会的交換の4つのモデルのうち、どれが良いと考えるか 囚人のジレンマ（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	C 対人関係の葛藤と対処	⑥			①葛藤の分類で、その3つの水準 ②認知のバイアス ③不合理な思考 ④対処の方法 (120分)	原因帰属のバイアスとH R、葛藤への対処法と有効性、燃え尽き症候群 (120分)
11	第5章 A コミュニケーション ― 基本	⑦			①コミュニケーションの定義 ②コミュニケーションの目標 (120分)	コミュニケーションのモデルとは (120分)
12	B 対人コミュニケーション	⑦			①コミュニケーションの機能 ②コミュニケーションのチャネル (120分)	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションの特徴と種類 (120分)
13	コミュニケーションの種類 ― メリット・デメリット	⑧			③口頭と書面の相違 ④コンテキストと文化 (120分)	高コンテキストと低コンテキストの比較、医療のコンテキスト (120分)
14	C マスコミュニケーション ― 影響・効果	⑨			①映像メディアと活字メディア ②マスメディアの効果 (120分)	マスメディアの効果についての研究の変化 (120分)
15	D I C Tの発達とコミュニケーション	⑩			①インターネットや②SNSの利用状況、注意点 ③人間関係への影響 (120分)	S N Sを利用するさいの注意点、最近の社会問題について (120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
持ち込み物なしの筆記試験 (100%) 学んだことの理解、記憶、表現力などが評価されます。ただし、新学期の社会環境 (コロナ) によっては、オンライン授業 (資料配付) に切り替え、提出課題の点数化による評価に変えます。						
使用教科書						
系統看護学講座基礎分野 人間関係論 / 石川ひろの 他.--第3版--医学書院, 2018年, 978-4-260-03170-7						
参考図書						
特に指摘しない。教科書の章ごとに、その最後に「参考文献」一覧が提示されているので、必要に応じ、利用する。						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	講義がある程度進展した段階で小テスト (10分ぐらい) を予告し、実施します。この小テストは、持ち込みなしで実施し、次回以降の授業で小テストの答案を返却します。解答の状況、正解や解答のポイントなどについてコメント、解説します。オンライン授業になった場合は、メールでやり取りします。jiemon13@outlook.jp					
備考	教科書『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』(石川ひろの編)を利用し、特にその第1章と第2章、第5章を学びます。授業の前後の時間帯に非常勤講師室を訪問することをお勧めします。1年後期「コミュニケーション学」がありますが、本講義と内容的なかかわりが強く、「事前学習」と位置付けられるでしょう。					

授業科目名		担当教員				
ボランティア論		益川 優子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1) (3) 作業ディプロマポリシー(1) (3) 視機能ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義においては、1990年代中頃より日本社会に普及・定着したボランティア活動について、普及・定着の社会的背景、ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義、ボランティア活動が社会にもつ意味・意義、そしてボランティア活動によって切り拓かれる新たな社会のあり方等について概括的認識を得るとともに、そうした認識に基づいて現代社会の諸問題・課題の解決に主体的・能動的に参画しようとする、ボランティアとしての態度・心構えを形成することを目標とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①ボランティア活動の定義について歴史的背景を踏まえながら説明できる。 ②ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 ③ボランティア活動を支援する意味とボランティア活動支援専門機関の役割について理解し、説明することができる。 ④ボランティア活動を通じて社会に参画しようとする主体的・能動的な態度・心構えが形成されている。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ボランティアとは何か	①			自身の持つ「ボランティア」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
2	ボランティアにかかわる思想と歴史の変遷	①			ボランタリズム、利他主義、ボランティア・アクションという言葉について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
3	ボランティア活動の現状と課題	① ②			NPO法人の活動分野、認定NPO法人制度について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
4	ボランティアと現代社会	① ② ④			自己実現、ボランティア・セクターについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
5	日本におけるボランティアの普及・推進の歩み	① ② ③			COS、セツルメント運動について調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
6	ボランティアに期待される社会的役割	② ③			ノーマライゼーション理念、ソーシャル・アクションについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
7	地域社会のボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
8	環境とボランティア	② ③ ④			ボランティアセンター、ソーシャル・インクルージョンについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
9	災害ボランティア	② ③ ④			東日本大震災等の大規模災害において、被災者の生活復興に関する課題を調べる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	国際ボランティア	② ③ ④			NGO、シンパシーとエンパシーについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
11	ボランティア学習	② ③ ④			生涯学習、ESDについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
12	ボランティア活動支援とボランティアコーディネーター	③			JVCAについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
13	ボランティア組織の運営	③			OJT、Off-JT、SDの違いについて調べておく。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
14	ボランティアの可能性と展望	④			ボランタリズムとボランタリズムの逆説について考察してくる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
15	ボランティア活動と自分	④			これまでの学習を踏まえ、自身にとってのボランティアの意義と社会的役割について考察してくる。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
受講態度30%、レポート70%						
使用教科書						
なし						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	※学期末レポートについては、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。					
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
哲学		竹内 章郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1) (3) 作業ディプロマポリシー(1) (3) 視機能ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
自由・平等・友愛（共同性）は、近代社会全般の基礎とされるが、この講義では、自由と共同性との関連も重視しながら、平等とはいかなることかの解明を中心に、格差や不平等が広まる現実を根本から（ラディカルに）理解することを目指す。近代思想史や哲学史の理解も、そのための手段であるという位置づけで、講義をしたいと考えている。						
学 修 の 到 達 目 標						
①大きな問題を根本から考える姿勢を身に付けるために、抽象度の高い言葉を理解しこれがある程度使えるようにする ②近代思想・近代哲学の基本を一定程度理解できる。 ③現代社会の課題の基本を捉える姿勢を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について、資料の使い方など）	①			資料の前書きの熟読(120分)	講義内容の復習(120分)
2	現代において平等を問うことの意味＜教科書iii～vii頁＞	③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
3	平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義(1)＜教科書1～14頁＞	①			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
4	平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義(2)＜教科書14～31頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
5	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(1)＜教科書33～44頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
6	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(2)＜教科書44～54頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
7	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(3)＜教科書54～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
8	平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史(4)＜教科書～68頁＞	②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
9	悪平等はなぜうまれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題(1)＜教科書69～93頁＞	①			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題(2)＜教科書93～117頁＞	①			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
11	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(1)＜教科書119～143頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
12	新たな能力論的平等論と新たな機会平等論(2)＜教科書143～166頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
13	新たな平等論の体系の構築に向けて(1)＜教科書167～185頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
14	新たな平等論の体系の構築に向けて(2)＜教科書185～200頁＞	① ③			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
15	新たな平等論の体系の構築に向けて(3)＜教科書200～215頁＞	① ②			左記該当箇所の熟読(120分)	左記該当箇所の再読を含む講義内容の復習(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
授業への取り組みと定期試験の結果による。						
使用教科書						
使用しない(講義に先立って、講義全体に関する資料を配布する。)						
参考図書						
必要に応じて講義中に紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義について、適宜配布する質問用紙に記入してもらい、その都度応答する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
教育学		益川 優子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義は、人間が生き、成長・発達していく上で教育がどのような意義を持ち、社会においてどのような役割を果たすのかについて考察していきます。また、教育をとりまく現代の諸問題を多面的に捉えつつ、教育という営みの現代的意義についても考察していきます。						
学 修 の 到 達 目 標						
①教育の概念と機能、その役割について説明できる。 ②人間の生涯発達理論について説明できる。 ③他者とのかかわりを導く技法を使うことができる。 ④現代の教育と教育を取り巻く諸問題について自分の考えを持つことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	教育の概念	①			自身の持つ「教育」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
2	学ぶということ・教えるということ	①			第1回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
3	生涯発達理論①乳児期～幼児期	②			第2回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
4	生涯発達理論②児童期～青年期	②			第3回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
5	生涯発達理論③成人期～老年期	②			第4回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
6	教育の営みと教育を取り巻く諸問題	① ④			第5回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
7	他者とのかかわり	③			第6回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
8	他者とのかかわりを導く技法	③			第7回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)
9	教育の目標と評価	①			第8回の授業内で指示する。 (120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	教育のデザイン	①			第9回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
11	キャリア教育	④			第10回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
12	ジェンダーとセクシュアリティ	④			第11回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
13	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育	④			第12回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
14	生涯教育	④			第13回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
15	シティズンシップ教育	④			第14回の授業内で指示する。(120分)	授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分)
	定期試験（レポート）					
評価基準・評価方法						
受講態度30%、レポート70%						
使用教科書						
なし						
参考図書						
適宜紹介いたします。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	※定期試験については、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。					
備考	質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。					

授業科目名		担当教員				
心理学		大井 修三				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
心理学を正しく理解していると、人と人が関わる場所では、相手の理解に強力な武器となる。なぜなら、①心理学は他者理解の学問だからである。医療従事者と患者さん、医療従事者同士、日常の人間関係など。しかし、「心理学」という言葉は知っていても、心理学を正しく理解している人はなかなかいない。それは、心理学をきちんと勉強した人がなかなかいないということである(授業1)。そこで本授業では、相手の心を理解するということはどういうことか(授業2, 3, 4, 5, 6, 7)、③一人一人違うということはどういうことか(授業8, 9, 10, 11)、④相手に目的に向かって動いてもらうということはどういうことか(授業12, 13, 14, 15)の3点を中心に、医療現場で他者との関係をうまく成立させることに役に立つ心理学の話をする。なるべく日常の状況に合わせた事例を紹介しながら、他者理解に必要な視点を育む。						
学 修 の 到 達 目 標						
これらの授業を通して、①相手の「心」を直接把握することができないこと、②相手の「心」は推測でしか扱えないこと、③同じ状況でも人によって違う心が推測されうること、④自分の心を相手にわかってもらうためには推測し易い情報を提供しなければならないこと、その上で相手との人間関係を考えなければいけないことを理解して、人間関係に活用することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	イントロダクション：「行動」を説明する「心」：授業の概要、評価の方法	①			テキストのイントロダクションを読み、PPW資料の該当部分を考える。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
2	「心」を知る方法：直接覗くことはできない「心」	①			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
3	「心」を知る方法：「行動」から「心」を推測する	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
4	「心」を知る方法：「心」の推測には行動と刺激の情報が必要	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
5	「相手の心」は私の中に出来上がる：相手の「心」は主観的解釈	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
6	我々の理解とは？：現象の主観的な理解	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
7	科学的学問としての心理学:主観性と客観性	②			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
8	心理学の中心テーマ：個人差	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)
9	個人差を規定する要因1：遺伝	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	個人差を規定する要因2：環境	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
11	個人差を規定する要因3：遺伝と環境の相互作用	③			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
12	要求・動因・行動とフロイト理論	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
13	行動を出現させるもの：動因と誘因	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
14	動機づけの機能	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
15	要求の生得性と習得性	④			前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。 (120分)	受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。 (120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価は、毎回授業で紹介される内容を理解し、自らの身近な事象に利用できるようになっているかで見ると同時に試験結果（90%）、毎回の授業で提出するコミュニケーションカード（10%）である。						
使用教科書						
教科書は特に用いない。 （授業に必要な資料は、授業開始時及び時間中に配付する。）						
参考図書						
適宜、紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	毎回の授業の終わりにコミュニケーションカードを提出してもらおう。ここには授業内容のまとめと同時に授業中に解決できなかった質問も書いてよい。その質問には、翌授業回で解説する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
生命倫理学		谷口 泰弘				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	3年 前学期	2単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1) (3) 作業ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
バイオエシックス（生命倫理学）の基礎的な事項を学ぶ。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。 本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の医療に関する倫理的問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説する。						
学 修 の 到 達 目 標						
医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。 ①バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳を理解する。 ②講義の各論から、医療に係る倫理的問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	バイオエシックス総論①（ガイダンス、基礎概念）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第1章前半部分	復習（120分） 教科書第1章前半部分と配布資料
2	バイオエシックス総論②（歴史的背景WWⅡ以前）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第1章後半部分	復習（120分） 教科書第1章後半部分と配布資料
3	バイオエシックス総論③（歴史的背景WWⅡ以後）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第2章前半部分	復習（120分） 教科書第2章前半部分と配布資料
4	自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第3章部分	復習（120分） 教科書第3章部分と配布資料
5	倫理理論の考え方（応用倫理学からのアプローチ）	①	谷口	講義	予習（120分） 教科書第2章後半部分	復習（120分） 教科書第2章後半部分と配布資料
6	生殖補助医療の問題①（人工授精、体外受精、代理母）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第4章前半部分	復習（120分） 教科書第4章前半部分と配布資料
7	生殖補助医療の問題②（出生前診断、着床前診断、人工妊娠中絶）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第4章後半部分	復習（120分） 教科書第4章後半部分と配布資料
8	遺伝子をめぐる問題（ヒトゲノムの利用、遺伝子特許、個人情報、エンハンスメント）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第5章部分	復習（120分） 教科書第5章部分と配布資料
9	ライフサイエンス研究をめぐる問題（再生医療、ヒトES細胞研究、ヒトiPS細胞研究）	②	谷口	講義	予習（120分） 再生医療に関する倫理的問題を調べる	復習（120分） 配布資料を復習する

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第6章部分	復習（120分） 教科書第6章部分と配布資料
11	終末期をめぐる問題①（尊厳死、安楽死）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章前半部分	復習（120分） 教科書第7章前半部分と配布資料
12	終末期をめぐる問題②（治療中止、鎮静、緩和医療）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第7章後半部分	復習（120分） 教科書第7章後半部分と配布資料
13	医療と法律（医療事故関係、医療契約）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第14章部分	復習（120分） 教科書第14章部分と配布資料
14	広義のバイオエシックス（動物倫理、環境倫理）	②	谷口	講義	予習（120分） 教科書第10章部分	復習（120分） 教科書第10章部分と配布資料
15	研究をめぐる倫理（研究不正、倫理委員会、オーサーシップ、利益相反等）	②	谷口	講義	予習（120分） 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を予め調べる	復習（120分） 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を復習する
	定期試験（筆記）	① ②	谷口	試験		
評価基準・評価方法						
評価基準は、知識・理解および思考とする。その評価方法は、定期試験を実施して評価する（80%） ミニレポート等の提出物の内容も評価に入れる（20%）						
使用教科書						
第3版 生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか、--改訂版--医療科学社、2022年、978-4-86003-133-6						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	実施する定期試験およびミニレポートについては、総評を掲示する。					
備考	適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けないが、講義終了後に教室に残り質問等について対応する（この時間を活用してください）。					

授業科目名		担当教員				
基礎演習		野原 尚美・國武 実里（代表教員 野原 尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 視機能ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）				
授 業 概 要						
高校と大学では学び方が大きく異なる。大学では一体どのように学んだらよいのであろうか。本講義では、大学で学習活動を始めようとしている新入生が、最初に身に付けておくべきスキルから、将来社会人・医療人となった時に身に付けておくべき社会的マナーやルールをしっかりと理解することを目的とする。グループワークやプレゼンテーションを通して他者のものの見方、考え方、他者への伝え方を学び、コミュニケーション能力の向上も図る。						
学 修 の 到 達 目 標						
①大学生として常識をわきまえた行動をとることができる。 ②社会人としてのマナー、ルールが理解できる。 ③他人の考え方や意見に耳を傾け理解できる。 ④自分の考え方、意見を整理し発信していくことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	大学生とは：大学と高校の違いを知る。	①	野原 國武	グループワーク	大学と高校の違いは何かを調べてみる30分	調べたことをまとめる30分
2	グループワークの発表	① ③ ④	野原 國武	プレゼンテーション	読み原稿を作成する30分	理解したことをまとめる30分
3	図書館について	①	野原 國武	演習	図書館に行ってもどのような参考書があるのか見ておく30分	講義を通して理解したことをまとめておく30分
4	文献検索について	①	野原 國武	演習	文献とは何かを調べておく30分	文献検索を行ってみる30分
5	レポートの書き方について	①	野原 國武	講義	レポートの書き方について調べてみる30分	講義内容をまとめておく30分
6	レポート作成の実践	③ ④	野原 國武	グループワーク	レポートの題材を考える30分	レポートを完成させ提出する60分
7	エクセルの使い方について	①	野原 國武	演習	エクセルについて調べる30分	講義内容をまとめておく30分
8	パワーポイントの使い方について	①	野原 國武	実習	パワーポイントについて調べる30分	講義内容をまとめる30分
9	眼科医療現場について	① ② ③	野原 國武	講義	眼科について調べておく30分	内容をまとめて発表準備をしておく30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	幼児の視力検査について	①	野原 國武	演習	視力検査法について調べておく30分	測定できるように練習する30分
11	オリエンテーション 見学実習の心得、課題学習について	① ②	野原 國武	講義	実習の心得を配布するので30分	内容をまとめておく30分
12	病院眼科見学実習	① ② ③	野原 國武	演習	見学実習に対する目的を考える。実習の心得を再確認する30分	見学実習で学んだ内容をまとめておく30分
13	教員インタビュー	① ② ③	野原 國武	グループワーク	インタビューの内容を考えておく30分	内容をまとめて発表準備をしておく30分
14	インタビューの発表①	③ ④	野原 國武	プレゼンテーション	発表原稿・スライド作成30分	発表内容をまとめる30分
15	インタビューの発表②各自が目指す視能訓練士像やゴールを明確にする	③ ④	野原 國武	プレゼンテーション	発表原稿・スライド作成30分	将来像を描き、今後の目標を立てる30分
評価基準・評価方法						
課題作成、グループ討議への積極性、報告会発表、取材内容により総合評価する。						
使用教科書						
参考図書						
図書館で様々な専門書に触れ、自身で必要な参考図書を見つける						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	発表時の質疑応答を設けてフィードバックする。					
備考						

授業科目名		担当教員				
文章表現法		長屋 由喜子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 理学ディプロマポリシー(1) (3) 作業ディプロマポリシー(1) (3) 視機能ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
将来医療や介護等の現場で働く者にとっては、患者や患者の家族・同僚スタッフ・福祉関係者等とのコミュニケーション力や文章作成力が必要である。授業を通して自身の国語力を知り基礎力を高めると共に、授業以外の日常生活の様々な場面でも意識して適切な言葉を遣うことをめざす。テキストとトレーニングシートを活用し、説明する力・聴く力を養うと共に、手紙文や公用メールのマナー・レポート等の書き方の実践を通して文章表現力を身に付ける。回によって、ペアワークやグループワークの授業をしたり、トレーニングシートの提出を求めることがある。						
学 修 の 到 達 目 標						
①正しく適切な日本語について学び、正確に情報や意見交換を行う力を身に付け、現場で生かせるようになる。 ②自分の感情がコントロールでき、相手に配慮した言葉で良好な人間関係を築くことによって問題解決ができる。 ③日々の生活において、メモをとったり書いたりすることを習慣にする。 ④専門科目で求められるレポートや、社会人・職業人に必要な様々な文章を作成することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	授業の進め方やテキストとトレーニングシートの活用についての説明。	①			シラバスとテキスト、トレーニングシートに目を通し、学習の目標を理解する。(60分)	授業で学んだ内容を現場で生かせることを意識し、言葉に対する関心知識を高める。(60分)
2	テキスト（スタディスキル編）第1章「正しい日本語を使うー正確で豊かに表現する」トレーニングシート1の解説と自己採点。	①			テキストP4～7を読み、トレーニングシート1を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート1の内容を確かめるものにする。(60分)
3	テキスト（スタディスキル編）第2章「敬語を使うー相手を尊重する気持ちを伝える」トレーニングシート2の解説と自己採点。	① ②			テキストP8～12を読み、トレーニングシート2を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート2の内容を確かめるものにする。(60分)
4	テキスト（スタディスキル編）第3章「メモをとるー要点をおさえて記録する、伝える」トレーニングシート3の解説と自己採点。	① ③			テキストP14～17を読み、トレーニングシート3を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート3の内容を確かめるものにする。(60分)
5	テキスト（スタディスキル編）第4章「説明する・発表するー相手がわかる説明をする」トレーニングシート4の解説と自己採点。	① ②			テキストP18～21を読み、トレーニングシート4を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート4の内容を確かめるものにする。(60分)
6	テキスト（スタディスキル編）第5章「電話をするーその場でのやり取りに対応する」トレーニングシート5の解説と自己採点。	① ②			テキストP22～25を読み、トレーニングシート5を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート5の内容を確かめるものにする。(60分)
7	テキスト（スタディスキル編）第6章「メールを書くー学生生活でメールを使う」トレーニングシート6の解説と自己採点。	① ② ③			テキストP26～29を読み、トレーニングシート6を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート6の内容を確かめるものにする。(60分)
8	テキスト（スタディスキル編）第7章「手紙を書くー病院・施設に宛てて書く手紙のマナー」トレーニングシート7の解説と自己採点。時候の挨拶を知る。	① ② ③			テキストP30～33を読み、トレーニングシート7を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート7の内容を確かめるものにする。(60分)
9	テキスト（スタディスキル編）第8章「レポートを書く (1)：内容編ーレポートに何を書くのか」トレーニングシート8（裏表2枚）の解説と自己採点。	① ③			テキストP34～37を読み、トレーニングシート8を解く。(60分)	授業を振り返り、トレーニングシート8の内容を確かめるものにする。(60分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	テキスト（スタディスキル編）第9章「レポートを書く（2）：表現編ーレポートをどう書くのか」トレーニングシート9（裏表2枚）の解説と自己採点。文章の基本を知る。	① ③			テキストP38～42を読み、トレーニングシート9を解く。（60分）	授業を振り返り、トレーニングシート9の内容を確かなものにする。（60分）
11	テキスト（ソーシャルスキル編）「ソーシャルスキルの学び方」第1章「挨拶をする、自己紹介をするーさわやかな印象を」トレーニングシート1（P23,24）を実践する。	① ②			テキストP44～49を読み、自分の特徴・長所・短所、会話のネタ等の準備。（60分）	授業を振り返り、場面に応じた自己紹介のスキルを身に付け、良好な人間関係に繋げる。（60分）
12	テキスト（ソーシャルスキル編）第2章「話すスキルと聞くスキルー互いにつながるために」トレーニングシート2（P25,26）を実践・発表する。	① ②			テキストP51話すスキルとP53聴くスキルのモデリングで練習しておく。（60分）	実際の生活の場で試してみる。誤解や思い込みのないコミュニケーション力を身に付ける。（60分）
13	テキスト（ソーシャルスキル編）第3章「上手に断るー相手を傷つけないように」トレーニングシート3（P27,28）を実践・発表する。	① ② ③			テキストP56～59を読み、トレーニングシートP27の課題1,2に意見を書く。（60分）	相手の期待に応えられず上手に断るポイントを学び、応用してみる。（60分）
14	テキスト（ソーシャルスキル編）第4章「感情をコントロールするスキル」トレーニングシート4（P29,30）を実践・発表する。	① ② ③			テキストP60～63を読み、トレーニングシートP29,30に意見や考えを書く。（60分）	自分の苦手な場面で冷静に感情をコントロールする方法を学び、応用してみる。（60分）
15	テキスト（ソーシャルスキル編）第5章「うまく問題を解決するスキル」のモデル（例題）について、国語力・文章表現力を生かし論文を作成し、提出する。	① ② ③			テキストP65のモデルについて、解決策を400字程度にまとめておく。（60分）	事前学習の下書きを参考に、自身の問題解決のスキルと文章表現力を自己評価する。（60分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
①テキストとトレーニングシートに基づき必ず事前学習を行い、授業に臨むこと【授業に対する意欲】40% ②定期試験【日本語表現力、ソーシャルスキルの習得と定着】60%						
使用教科書						
看護系学生のための日本語表現トレーニング / 野呂幾久子/渡辺弥生/味木由佳〔編著〕。--三省堂, 2013年, 978-4-385-36328-8						
参考図書						
必要に応じて授業中に紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	①トレーニングシートの提出→完成度（授業に対する意欲・知識の定着）の確認 ②課題文の提出→問題解決のスキルと文章力の確認					
備考	質問は随時受け付けます。学習相談等があれば、授業時間の前後に対応したいと思います。時間を要する内容については口頭ではなく文章にして渡してください。次の授業で極力回答したいと思います。					

授業科目名		担当教員				
コミュニケーション学		近藤 ひろえ				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。		近藤ひろえ（人材育成研修講師）自治体・企業・大学など含めコンスタントに年間、100件以上の研修を行う。日本認知療学会正会員、産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント、メンタルヘルスマネジメント検定、心理相談専門員、NLPプラクティショナー資格、など資格多数				
授 業 概 要						
・コミュニケーションの重要性を理解する。 ・自分自身のコミュニケーションのスキルについて深く振り返り、医療現場において、患者さん・医療スタッフとの間でよりよい人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身につける。 ・グループディスカッション、ペアワークなど体験、実践を中心とした講義を行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる ②年代が違う人への挨拶、返事など、日常的なコミュニケーションができる ③自分の気持ち・考えなどを明確に相手に伝えることができる ④相手の言葉の背景にある気持ちや考えを想像しコミュニケーションすることができる ⑤医療現場におけるコミュニケーションの重要性と求められているスキルを学ぶ						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	・この授業の目的・到達目標について知る ・コミュニケーションの重要性とトレーニング方法について学ぶ	① ② ③ ④ ⑤				授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
2	・信頼関係の重要性を学び、信頼関係を築くスキルを学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			自分の反応するスキルについて振り返る(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
3	・相手の本当に伝えたいことを受けとめるための聴き方について学ぶ	② ④ ⑤			自分は普段どのような聴き方をしているか考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
4	コミュニケーションに欠かせない他者への興味・関心力の重要性を知り、興味・関心を示すことができるような質問力について学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			初対面の人と会話するときに困っていることを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
5	・コミュニケーションスキルを知っていてもなぜ使えないのか、その仕組みについて学ぶ ・相手の気持ちを受けとめるための柔軟な考え方にする方法を学ぶ	② ④ ⑤			日常生活でどんなつぶやきをしているかをまとめる(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
6	・自分自身への思い込みの影響を学ぶ ・否定的な自己イメージを変える方法を学ぶ	③ ④ ⑤			どうしてそのつぶやきをするのか、その背景あるものを考えてみる(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
7	なぜミスコミュニケーションが起こるのか、仕組みを学ぶ。どのように説明することが必要かを学ぶ	③			自分の伝えるスキルで改善したいところを考える(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
8	前回の授業の続きとして、具体的な伝え方のスキルを体験しながら学ぶ	③			学科の説明を1分間にまとめて発表できるようにする(30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)
9	前回の授業の続きとして、実際に説明する場面を想定してロールプレイングをする。自分の良い点や今後の課題を見つける ・緊張しないためのトレーニング方法を学ぶ	③			プレゼンの練習をしてくる(60分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	・自分の気持ちを伝える、相手に言いにくいことを伝える時の表現方法を学ぶ	③ ⑤			言いにくいことを相手に伝える場合、自分はどのような伝え方をしているか考える (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する (30分)
11	・医療スタッフとして知っておかなければならない、敬語・クッション言葉などの接遇用語を学ぶ	② ③ ④ ⑤			敬語・接遇表現で知りたいことを考える (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する (30分)
12	・医療現場でのコミュニケーションの重要性を学ぶ ・医療スタッフと患者さんとのギャップについて学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			医療現場でのコミュニケーションの重要さについて考える (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する (30分)
13	・チームワークとは何かを学び、良いチームワークを発揮するためのマインド、スキルを学ぶ	① ② ③ ④ ⑤			チームでコミュニケーションを取る時に自分が何をしているか振り返る (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する (30分)
14	医療場面のケーススタディを考えることで今まで学んできたことの復習をする	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する (30分)
15	医療場面のケーススタディを考えることで今まで学んできたことの復習をする	① ② ③ ④ ⑤			今までの授業を振り返って、質問したいことを考える (30分)	授業で習得したスキルを日常生活で実践する (30分)
	定期試験 無し					
評価基準・評価方法						
・授業態度（授業への関わり方） 60% ・レポートの内容（複数回レポート提出） 40%						
使用教科書						
コミュニケーション学 ワークブック 2023年版 / 近藤ひろえ。--非売品、						
参考図書						
・授業の進行に伴って、その都度紹介する。 ・適宜、教材として使用するプリントなども配付する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	・コメント、口頭でフィードバック					
備考	・自分のコミュニケーションの問題・悩みなどなんでもいいので課題をもって授業に臨んでください。 ・Eメールアドレスは、初回講義時間内にお知らせします。					

授業科目名		担当教員				
英語Ⅰ（教養英語）		長尾 裕子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1) 作業ディプロマポリシー(1) (3) 視機能ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
本講義では英語の読解能力を向上させることをねらいとする。身近なトピックスを題材を使ったテキストを使用し、英語の語彙、語法、表現等を学ぶことにより大学レベルの読解力を養うことを目指します。						
学 修 の 到 達 目 標						
辞書を引くことにより ①インターネットなどで英語検索をした文章が読める ②自分の分野の論文が読めるようになる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション					
2	Weather	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
3	The Internet	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
4	Animals	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
5	Friends	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
6	Helping Others	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
7	Traveling	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
8	Collections and Gifts	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）
9	Careers	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（30分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	European Cultures	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (30分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (30分)
11	Gifted Children	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (30分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (30分)
12	Restaurants	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (30分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (30分)
13	Transportation	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (30分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (30分)
14	Homes	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (30分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (30分)
15	Space	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (30分)	今までに学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (60分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
授業参加度 40%、筆記試験 60% を総合的に判断する						
使用教科書						
Reading Links 2 / Andrew E. Bennett. -- 南雲堂, 978-4-523-17923-8						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。試験に関しても質問に応じる。					
備考						

授業科目名		担当教員			
英語Ⅱ（日常英会話）C		長尾 裕子			
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態		
選択	1年 後学期	1単位 (30時間)	講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員			
全学ディプロマポリシー(1) 作業ディプロマポリシー(1) (3) 視機能ディプロマポリシー(1) (3) の達成に寄与している。					
授 業 概 要					
本講義は英語のコミュニケーション能力を高めるための授業で、英会話能力を養うことを目的とする。身近で起こることを英語で表現したり、ペアで会話練習をしたりすることにより、英語で話すことの楽しさを味わえるようにしたいと思います。					
学 修 の 到 達 目 標					
①友達と簡単な会話が英語のできる ②英語の質問に即答できるようになる					
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習 事後学習
1	I'm a student. Self Introduction	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
2	What' your phone number?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
3	That's my wallet.	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
4	Review	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
5	Do you like K-pop?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
6	What do you do for fun?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
7	Can you speak Chinese?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
8	Review	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
9	What's she wearing?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分) 学習したことを復習し、会話練習をする (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Are there any chairs?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
11	The bank is on the corner.	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
12	Review	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
13	Do we have any coffee?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
14	Where were you yesterday?	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
15	What did you do? Review	① ②			教科書を読んで 内容を理解し声に出してよんでくること (30分)	学習したことを復習し、会話練習をする (30分)
	定期試験（口頭試問）					
評価基準・評価方法						
授業中の応答40%、口頭試問60%を総合的に判断する						
使用教科書						
Smart Choice fourth edition, Starter / Ken Wilson ほか. --Oxford Univ. Press, 978-0-19-406174-2						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。試験に関しても質問に応じる。					
備考						

授業科目名		担当教員			
英語Ⅲ（専門英語）		ミルボト セイト モハマト			
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態		
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員			
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。					
授 業 概 要					
本講義では、ホスピタル・イングリッシュによるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。発音や聞き取りの練習により、スピーキングやリスニングの能力を育成する。「読む」「聞く」「話す」という3つの技能を育て、英語の運用能力を総合的に養う。					
学 修 の 到 達 目 標					
毎回さまざまな医療に関する言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることを目指す。 ①正しい発音と適切なパターンで発話することができる。 ②医療英語によるコミュニケーションに必要なリスニング力を身につけ、状況の聞き取りができる。					
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習 事後学習
1	オリエンテーション	①			その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
2	Lesson 1: Reception Desk（救急外来受付）	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
3	Lesson 2:Examination Room（診察室）	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
4	Lesson 3: Giving Injection（注射をする）	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
5	Lesson 4: Explanation to a Family Member（患者の家族への説明）	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
6	Lesson 5:Self-Introduction and First Meal（自己紹介と初めての食事）	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
7	Lesson 6: Orientation to the Ward（入院病棟を案内する）	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
8	Lesson 7: Asking Height, Weight, and Temperature（身長、体重、体温を尋ねる）	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）
9	Lesson 8: Obtaining the Patient's History（患者歴をとる）小テスト	① ②		前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく（45分）	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく（45分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Lesson 9: Checking the Patient's Condition (患者の状態をチェックする)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
11	Lesson 10: Blood Test Explanation (血液検査の説明)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
12	Lesson 11: Drawing a Blood Sample (採血)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
13	Lesson 12: Explaining about the Operation : Basic Procedures (手術についての説明: 基本的手順)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
14	Lesson 13: Explaining about the Operation: Anesthesia (手術についての説明: 麻酔)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
15	Lesson 14: Taking the Patient into Surgery (手術室への搬送)	① ②			前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (45分)	その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく (45分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
授業参加態度・小テスト・・・40%, 理解度判定・・・60%						
使用教科書						
Essential English For Nurses 5th Edition (学生版) / Paul Zito & Masako Hayano. --日総研, 978-4-7760-1861-2						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法						
備考		皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。 学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。				

授業科目名		担当教員				
ドイツ語		安藤 彰浩				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。		安藤彰浩（ドイツ語通訳）				
授 業 概 要						
ドイツ語における初級の基礎知識の習得を目指す。インターネット（動画サイトYou Tube 等でニュース放送を見る）を活用して、ドイツ人の話す生のドイツ語に触れる機会を設ける。ドイツ社会における時事的、文化的話題を提供して、ドイツの歴史や文化に対する興味を喚起する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①ドイツ語の基本的な表現に親しむ。 ②ドイツ語学習を通じて言葉の感覚を磨き、自分をより正確に表現する力を身に付ける。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	発音。数字0～12。挨拶	①			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
2	自己紹介。 — 動詞の現在人称変化 ich/Sie	①			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
3	自己紹介。 — 動詞の現在人称変化 du	①			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
4	第三者の紹介。 — 動詞の現在人称変化 三人称単数 er/sie	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
5	身の回りのもの。 — 格変化：主格（1格）。複数形	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
6	買い物・家族。直接目的格（4格）。 — 所有冠詞	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
7	お土産。間接目的語（3格）。 — 人称代名詞	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
8	趣味。時間表現。曜日 — 不規則動詞の現在人称変化	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
9	道をたずねる。 — 前置詞の格支配1、命令形	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	Eメール。月と季節 — 前置詞の格支配2	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
11	手紙。時間表現2 — イントネーションと文アクセント	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
12	料理・レストラン — 会話表現	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
13	ドイツ鉄道 — 分離動詞・非分離動詞、zu不定詞	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
14	ベルリンへの旅 — 話法の助動詞	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
15	ドイツの歴史、文化について。 — 文法のおさらい	① ②			次に扱うテキストの内容に目を通す。 (30分)	授業内容の復習 (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
理解度、積極参加を重視 定期試験（60％）、小試験（20％）、授業への取り組み（20％）						
使用教科書						
シュピッツェ1 コミュニケーションで学ぶドイツ語 / 朝日出版社, 978-4-255-25422-7						
参考図書						
必要に応じて紹介						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	課題の習得を総合的に評価してコメントする。					
備考	毎回、動画サイトを使って、ドイツ人の生活や文化を紹介する。					

授業科目名		担当教員				
中国語		橋本 永貢子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
現代中国語の初歩を学ぶ。基礎的な中国語の習得を通じて、中国語が一言語としてどのような特徴を持っているのかを学び、また、中国人とコミュニケーションをとる場合に必要な知識や中国語の背景にある中国の文化や社会についても理解を深める。これにより、将来医療従事者になった場合にも役に立つ教養を身に付ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①発音記号が読め、中国語の発音を習得する ②簡単な挨拶言葉を習得する ③基礎的な文法を習得し、日常会話ができるようにする						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	中国語の概要、声調	①			テレビやラジオ、インターネット等で、中国語の音を聞いてみる。(30分)	声調練習を行い、マスターする(30分)
2	母音(1)	①			声調の復習をする。(30分)	単母音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
3	子音	①			単母音の復習をする。(30分)	子音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
4	母音(2)	①			子音の復習をする。(30分)	複母音・鼻母音の発音練習を行い、マスターする。(30分)
5	発音のまとめ	①			複母音・鼻母音の復習をする。(30分)	ピンインの書き方と発音の仕方を覚える。(30分)
6	挨拶のしかた	① ②			ピンインの書き方と発音の仕方の復習をする。(30分)	中国語での挨拶の仕方を練習しマスターする。(30分)
7	動詞述語文(1)	① ②			中国語での挨拶の仕方を復習する(30分)	教科書第2課本文の発音練習を行う。(30分)
8	動詞述語文(2)、連体修飾語と疑問文(1)	① ②			教科書第2課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。(30分)	教科書第3課の本文の発音練習を行う。(30分)
9	連体修飾語と疑問文(2)	① ②			教科書第3課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。(30分)	教科書第1課から第3課の復習をする。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	存在を表す文 (1)	① ②			教科書第1課から第3課の復習をする。 (30分)	教科書第4課の本文の発音練習を行う。 (30分)
11	存在を表す文 (2) 、所在を表す文 (1)	① ②			教科書第4課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	教科書第5課の本文の発音練習を行う。 (30分)
12	所在を表す文 (2)	① ②			教科書第5課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	教科書第4課と第5課の復習をする。 (30分)
13	助動詞を用いた文 (1)	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行う。 (30分)	教科書第6課の本文の発音練習を行う。 (30分)
14	助動詞を用いた文 (2)	① ②			教科書第6課の本文の発音練習を行い、練習問題を解く。 (30分)	会話練習に必要な表現を復習する。 (30分)
15	実践的な中国語会話練習	① ②			会話練習に必要な表現を発音練習する。 (30分)	教科書第1課から第3課の復習をする。 (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
発音とリスニングを重視する。毎回の授業における理解度や発音の状況 (20%) と学期中数回行う小テスト (30%) 、および期末テストの結果 (50%) から総合的に評価する。						
使用教科書						
医療系学生のための初級中国語 / 山田眞一. --白帝社, 978-4-89174-979-8						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	課題に対しては、次の授業の際に点検あるいは採点したものを返却しまた解説する。					
備考	連絡先メールアドレス : ran@gifu-u.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
解剖学Ⅰ（骨・筋肉・循環・内分泌・消化器系等）		江村 正一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
医学の基礎である人体解剖学の基礎知識を学習する。人体の構造と機能を理解することは、今後の専門分野の科目を学ぶための基礎となる。解剖学Ⅰでは、細胞と組織・運動器・循環器・呼吸器・消化器・内分泌腺・泌尿器・生殖器について学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 細胞と組織・運動器・循環器・呼吸器・消化器・内分泌腺・泌尿器・生殖器の各器官について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	解剖学総論	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
2	骨の構造Ⅰ / 上肢・下肢骨について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
3	骨の構造Ⅱ / 脊柱・骨盤・頭蓋骨について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
4	筋の構造Ⅰ / 上肢・下肢の筋について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
5	筋の構造Ⅱ / 体幹の筋について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
6	循環器系Ⅰ / 心臓について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
7	循環器系Ⅱ / 動脈について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
8	循環器系Ⅲ / 静脈・門脈・リンパ管について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
9	呼吸器系 / 鼻・喉頭・気管・肺について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	消化器系Ⅰ / 口腔・食道・胃・小腸・大腸について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
11	消化器系Ⅱ / 肝臓・胆嚢・膵臓について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
12	内分泌腺 / 視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・副腎について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
13	尿生殖器Ⅰ / 泌尿器について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
14	尿生殖器Ⅱ / 生殖器について 発生・男女生殖器について	①			授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分)	事前学習で疑問に思った事を納得できるようにする。(120分)
15	期間中解剖見学実習	①			事前に人体の各器官の位置関係を学習しておく。(120分)	見学実習で学んだことを教科書で確認しておく。(120分)
	筆記試験					
評価基準・評価方法						
筆記試験結果 (100%)						
使用教科書						
系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学 / 坂井建雄・岡田隆夫 著, --第11版--医学書院, 2022年, 978-4-260-04687-9						
参考図書						
適宜、参考資料を配布する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	試験に対する質問をメールでも受け付ける。 E-mail s.emura@heisei-iryuu.ac.jp					
備考						

授業科目名		担当教員				
解剖学Ⅱ（神経系）		松井 康樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
解剖学Ⅱ（神経系）では、神経系を中心に学習する。神経系は脳（大脳、小脳、脳幹）と脊髄からなる中枢神経系と中枢からの指令を筋肉などの臓器に伝えたり、末梢からの情報（視覚、聴覚）を中枢に伝える末梢神経系（脳神経、脊髄神経）に分けられる。視能訓練士は、視覚システムの障害を検査する仕事であり、神経系について理解をすることが必要である。この科目では、脳と神経、視覚系のシステムについて学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①脳（大脳、小脳、脳幹）の構造と機能についてわかる。 ②12神経について知っている。 ③中枢神経と末梢神経についてわかる。 ④視覚系（膝状体視覚系と膝状体外視覚系）についてわかる。 ⑤視覚に関する神経細胞、神経系について判る。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	神経細胞の種類、構造、機能 ニューロンとグリア、中枢神経系、末梢神経系 P3-P9	①			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
2	中枢神経系、末梢神経系、脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳基底核、大脳皮質、辺縁系、脳室、髄膜、神経解剖学用語 P10-P23	② ③			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
3	中枢神経系の構造的・機能的構成 P24-37	① ③			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
4	中枢神経系の構造的・機能的構成 P38-48	① ③			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
5	中枢神経系の血管と脳脊髄液 P49-69	①			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
6	体性感覚 脊髄の機械受容感覚 体性感覚 脊髄の痛覚、温度覚、かゆみ 三叉神経系 P70-125	①			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
7	聴覚系 味覚と臭覚 P146-180	① ② ③			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
8	下行性運動路と脊髄運動機能 P182-202、脳神経運動核 P205-220	① ② ③			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）
9	前庭系と動眼系 P221-P238	① ② ④			図を理解する（30分）	用語を覚える（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	前庭系と動眼系 P221-P238	① ② ④			図を理解する (30分)	用語を覚える (30分)
11	小脳P240-261、大脳基底核 P263-283、	①			図を理解する (30分)	用語を覚える (30分)
12	視床下部と生体機能調節、辺縁系と大脳神経回路 P284-334	①			図を理解する (30分)	用語を覚える (30分)
13	視覚系 (網膜から大脳後頭葉皮質まで) P127-138	① ④ ⑤			図を理解する (30分)	用語を覚える (30分)
14	視覚系 大細胞系と小細胞系 P139-145	① ④ ⑤			図を理解する (30分)	用語を覚える (30分)
15	眼運動系 (瞳孔運動)	① ④ ⑤			図を理解する (30分)	用語を覚える (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験60%、小テスト40%						
使用教科書						
マーティン カラー神経解剖学 テキストとアトラス / ジョン・H・マーティン 著.--第4版--西村書店, 2015年, ISBN978-4-89013-460-1						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	小テスト、課題を返却しフィードバックする					
備考						

授業科目名		担当教員				
生理学Ⅰ（動物的機能）		川島 卓				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
生理学の外界に対して反応する機能（動物的機能）全般について講義する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①末梢神経系と中枢神経系の働きを学び人の感覚情報をもとにいかに関運動が起こされるかを理解する。 ②正常な生理機能の理解をもとに、神経障害などに伴う各種病態症状についての原因を正しく理解する。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	生理学について 細胞機能の基礎 体液組成、細胞の構造、細胞の物質移動	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
2	細胞の興奮発生 神経細胞 興奮移動 膜電位 興奮の伝導	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
3	筋の収縮 骨格筋の構造 筋肉の収縮 筋収縮力学 筋のエネルギー発生のメカニズム	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
4	シナプス伝達 神経筋伝達 平滑筋・中枢神経系の情報伝達 神経伝達物質 シナプスの可塑性	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
5	自立神経系 交感神経・副交感神経の内臓諸器官への作用（散瞳・縮瞳との関連性）	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
6	脊髄 脳幹 脊髄反射 誘発筋電図 脳幹の姿勢反射（視覚との関連性）	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
7	小脳① 小脳の神経回路（視覚や眼球運動との関連） 小脳と大脳の協調 小脳学習	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
8	小脳②大脳基底核 小脳障害（眼球運動との関連等） 基底核の神経経路 基底核障害	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）
9	大脳 運動の起動と出力 運動野 大脳の眼球運動領域 体性感覚	① ②			教科書とプリントに目を通す（30分）	授業の要点をまとめる（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感覚 味覚 臭覚 聴覚 前庭感覚	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
11	視覚① 眼球の光学系 網膜と視物質	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
12	視覚② 網膜 視物質 視覚の中樞	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
13	視覚③ 眼球運動 視覚誘発電位	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
14	脳の高次機能 1 大脳神経回路と機能 連合野機能 (特に視覚との関連) 言語機能	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
15	脳の高次機能 2 大脳辺縁系 視床下部 記憶 睡眠 脳波 学習	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
学期末定期試験の成績による (100%)。						
使用教科書						
生理学テキスト / 大地陸男 .--第9版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-0231-3						
参考図書						
・標準理学療法学・作業療法学 生理学 岡田隆夫、長岡正範 医学書院 ・新版 生理学 (メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ) 著／桑名俊一 荒田晶子 編著／理工図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法						
備考	教科書以外に、関連項目のプリントを適宜配布する。					

授業科目名		担当教員				
生理学Ⅱ（植物的機能）		川島 卓				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
生理学の生命維持に関する機能（植物的機能）全般について講義する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①生命機能維持にはどうしても必要な人体の植物的機能の知識と理解を深める。 ②病態症状の原因を正確に理解すること。 専門科目習得のための基礎知識となる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	血液①／血漿と血漿タンパク質 赤血球	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
2	血液②／白血球 免疫 血液型 血小板 血液 凝固 線維素溶解	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
3	心臓①／心臓の構造 心臓内伝導系 自律神経 による調節	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
4	心臓②／心筋の収縮 心電図 心臓の収縮	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
5	循環①／血管系の区分 血圧調節	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
6	循環②／静脈系の循環 動脈血圧 循環調節 特殊部位の循環	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
7	呼吸①／呼吸のメカニズム	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
8	呼吸②／肺のガス交換 呼吸運動の調節	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)
9	消化と吸収①／消化管の構造と神経支配 消化 管運動	① ②			教科書とプリントに 目を通す (30分)	授業の要点をまとめ る (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	消化と吸収②／消化液の分泌 栄養素の分解吸収	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
11	内分泌①／ホルモン 視床下部 下垂体	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
12	内分泌②／甲状腺 副腎 膵臓 性ホルモン	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
13	生殖／男性・女性生殖生理 妊娠	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
14	腎機能／ネフロン of 構造 糸球体ろ過 体液調節	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
15	代謝と栄養／日常の生理学	① ②			教科書とプリントに目を通す (30分)	授業の要点をまとめる (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
期末定期試験成績による (100 %)。						
使用教科書						
生理学テキスト / 大地睦男 著.--第9版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-0231-3						
参考図書						
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 岡田隆夫、長岡正範 医学書院 ・新版生理学 (メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ) 桑名俊一 荒田晶子 編著／理工図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法						
備考						
教科書以外に、関連項目のプリントを適宜配布する。						

授業科目名		担当教員				
人間発達学		大森 周太郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
人間の胎生期から老年期までの身体的発達と心理的発達の主要な現象を取り上げ講義する。新生児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、中年期、老年期の基本的な特徴について、生物学的な面のみならず社会とのかかわりの中で複雑に発達していく過程に関する理解を深め、医療関係者として必要な知識、応用技術を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①人間の発達段階の特徴を理解する ②小児期の重要性を広く理解する ③発達と環境、文化との関連を正しく認識する ④青年期の特徴と重要性について理解を深める ⑤中年期～老年期の変化の実態を把握する ⑥学んだ知識を実生活ならびに医療関連の仕事に生かす						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	人間の発達の特徴	① ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
2	人間の本能と行動	① ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
3	胎生期から誕生へ	① ②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
4	乳幼児の発育と発達	① ② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
5	子どもの身体発育発達に影響する因子	② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
6	身体発育の指標	① ② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
7	子どもの心の発達	① ② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
8	幼児～学童の運動機能	① ②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
9	小児栄養	① ② ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	小児期の発達障害、疾病	① ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
11	青年期の身体的、心理的発達	① ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
12	中年期における心身の変化と人間としての成長、発達	① ⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
13	老年期における心身の変化と日常生活	⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
14	老化の進展と健康	① ⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
15	超高齢社会の人間発達学	① ⑤ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	授業内容を復習し、配布プリント類は最新のデータの意味を理解するようにする。(30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
評価基準：専門的な知識の修得と講義内容の理解を重視。専門用語を用いて現象を理解し、説明する能力を評価する。従って、試験問題には、記述問題を半数出題する。 評価方法：筆記試験ならびに適時提出を求める課題（レポート）によって行う。評価割合はそれぞれ90%、10%						
使用教科書						
人間発達学 ヒトはどう育つのか / 竹下研三 著。--中央法規出版，2009年，978-4-8058-3096-3						
参考図書						
その都度、講義時間に紹介する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考						
修得すべき知識が多いので、個々の知識を体系化し、相互に関連づけて記憶するように努めること。課題や試験問題に対する解説はその都度行う。在学時の質問は随時、受け付ける。メール等による質問も歓迎するが、学務課経由でお願いしたい。						

授業科目名		担当教員				
保育学		今村 光章				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 前学期	2単位 (30時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
テーマ：子どもの発達過程や子どもを取り巻く状況について理解する。 乳幼児の心身の発達の過程について総合的に学ぶとともに、子どもとのコミュニケーションの取り方を学ぶ。また、現代社会に特有の子どもを巡る様々な問題についても理解する。とくに、将来、医療関係者となり、それぞれの困難さを抱えた親子に対応するという立場で、子ども自身の姿を理解し、その困難さに対応していくための基礎知識と態度を身につける。子どもの理解だけではなく、子どもの生活そのものに関わる全ての領域について理解するために視野を広げていく。本授業では子どもを取り巻く様々な領域の学びから子どもとその保護者を温かいまなざしで包みこみながら治療していける医療人になることを視野に入れながら、子ども学を総合的に学んでいく。						
学 修 の 到 達 目 標						
①子どもの心と体や健康、それらの発達・発育の過程について理解を深める。就学前教育機関の意義と歴史、幼児教育・保育の思想についての知識を得る。 ②一人ひとりの子どもや保護者などの心に寄り添った対応ができるコミュニケーション・スキルを学び実践する。 ③子どもに関わる現場で、実地に視能訓練に関わる実習を体験し、早期発見・治療・予防の観点からの視機能スクリーニングの在り方を学び実践できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	はじめに (オリエンテーション) 育てていただいたことを振り返る	① ②		演習	自分が育ててもらった人や環境について振り返る (120分)	グループワークを通じて、自分が育ててもらった人や環境について振り返る (120分)
2	子ども概念と保育の語義、子どもとのコミュニケーションのとりかたについて	① ②		講義	子どもとは何かを辞書や事典で調べるとともに、概念規定を書く。 (120分)	授業で学んだ子ども概念と保育の語義について、その他の異説を調べ保育の理念についてまとめる。 (120分)
3	子どもの基本的人権と保育の理念:エラスムス、エレン・ケイ、子どもの権利条約に至る過程をめぐって	①		講義	高等学校家庭科で学習した子どもの権利条約について調べる (120分)	授業で学んだ保育の理念がどのように保育所で生かされているか、保育所の理念等を検討する (120分)
4	保育学という学問の性格:保育の哲学・科学・実践学について	①		講義	フレーベルとペスタロッチについて調べる (120分)	保育の哲学、保育の科学、保育の実践学で説明した内容をノートで復習し、反省的実践家という概念について調べる (120分)
5	家庭教育と就学前教育施設での集団保育および、フレーベルを中心とした保育思想について	②		講義	自分が通園した保育所・幼稚園等の就学前教育施設について、その概要をまとめる。 (120分)	授業で説明した保育所・幼稚園のほかに、認定こども園について調べる (120分)
6	乳児期の子どもの認知・思考の発達・情緒の発達・対人関係の形成などについて:アタッチメントを中心として	① ②		講義	事前に配布したプリントで0歳から3歳までの発達の特徴を学ぶ。 (120分)	授業で説明した0歳から3歳までの発達の特徴を復習する。 (120分)
7	幼児期の子どもの認知・思考の発達・情緒の発達・社会性の発達などについて:ピアジェを中心として	① ②		講義	事前に配布したプリントで3歳から6歳までの発達の特徴を学ぶ。 (120分)	授業で説明した3歳から6歳までの発達の特徴を復習する。 (120分)
8	学童期の子どもの(思考の発達・学童期ならではの発達課題などについて:小1プロブレムを取り上げながら就学前教育機関と小学校の接続を考える	① ②		講義	事前に配布したプリントで6歳から12歳までの発達の特徴を学ぶ。 (120分)	授業で説明した7歳から12歳までの発達の特徴を復習する。 (120分)
9	遊びとはなにか:ホイジンガとカイヨワを中心として	②		GWT 講義	子ども時代にした遊びについてノートにまとめる。 (120分)	遊びの変化について学んだことをまとめる。 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	「遊びこむ」とはどういうことか：教育的意義と有用性に還元されない遊びをめぐって	②		講義	中学校・高等学校で学んだ遊びの教育的意義についてまとめる。(120分)	授業で取り上げた有用性に還元されない遊びについてのプリントを読み、要約するとともに感想を書いて提出する。(120分)
11	子どもが育つ自然環境とその変化	②		講義	子ども時代の自然体験についてまとめる。(120分)	授業で紹介した幼児期の自然体験活動について、その内容をまとめる。(120分)
12	保育現場での実習計画の立案	③		講義	事前配布したプリントに基づき、保育計画について予習をする。(120分)	保育実習計画を立案する。(120分)
13	保育現場での実地実習(A班・B班に分かれて実施)視機能スクリーニングの在り方を学び実践する。	① ② ③		実習	保育計画を丹念に読み、当日の行動について予習する。(120分)	保育実習の感想と反省を書く。(120分)
14	実習でのふりかえり	① ③		演習	保育実習のなかで、自分が学んだことを書く。(120分)	グループ交流をする中で学んだことを書く。(120分)
15	保育者になるために	③		講義 演習	将来、子どもを持つ親になった場合、どのような子育てをしたいか書く。(120分)	グループ交流を踏まえて、どのような子育てが理想的であるかをまとめ、提出する。(120分)
	定期試験(筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験(70%)・レポート(20%)・授業の取り組み(10%)などを総合的に評価する。						
使用教科書						
使用しない。その都度、プリント等を配布する。						
参考図書						
待井和江、『保育原理』、ミネルヴァ書房、2018.						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	レポート課題については、コメントを記して返却する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
病理学概論		松井 永子				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		松井永子（医師）				
授 業 概 要						
病気を引き起こす原因を、病気の捉え方の歴史的移り変わりとともに概論する。ついで、病気の状態を、退行性病変、進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫、炎症、感染症、腫瘍、放射線障害、老化、先天異常に分類し、それぞれの病的状態にみられる変化を解説する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①この講義により、担当する患者さんの病態を理解し、より効果的な作業療法、視機能訓練につながることを目標とする。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	病理学概論および病因論	①			教科書第1章に目を通しておく。(120分)	病理学とは何かが理解できているか確認(120分)
2	細胞の異常 病気の本態	①			教科書第2章に目を通しておく。(120分)	細胞の構造についての理解を深める(120分)
3	先天異常	①			教科書第3章に目を通しておく。(120分)	染色体、遺伝子、DNA等の知識を再確認する(120分)
4	循環障害①	①			教科書第4章に目を通しておく。(120分)	体循環、肺循環の理解を深めるとともに異常をきたす機序を理解する(120分)
5	循環障害②	①			教科書第4章に目を通しておく。(120分)	出血、止血機構に関する理解を深める(120分)
6	代謝異常①	①			教科書第5章に目を通しておく。(120分)	糖代謝、脂質代謝につき理解を深める(120分)
7	代謝異常②	①			教科書第5章に目を通しておく。(120分)	タンパク代謝、電解質代謝等につき理解を深める(120分)
8	老化	①			教科書第6章に目を通しておく。(120分)	細胞の老化、個体の老化につき理解を深める(120分)
9	感染と感染症	①			教科書第7章に目を通しておく。(120分)	病原体と宿主の免疫につき理解する(120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	免疫と免疫異常①	①			教科書第8章に目を通しておく。(120分)	生体の防御機構(自然免疫と獲得免疫)を理解する(120分)
11	免疫と免疫異常②	①			教科書第8章に目を通しておく。(120分)	アレルギーについて理解する(120分)
12	炎症	①			教科書第9章に目を通しておく。(120分)	炎症とは何かを十分に理解する(120分)
13	腫瘍①	①			教科書第10章に目を通しておく。(120分)	悪性腫瘍に関して理解する(120分)
14	腫瘍②	①			教科書第10章に目を通しておく。(120分)	癌遺伝子、癌抑制遺伝子について理解する(120分)
15	腫瘍③	①			教科書第10章に目を通しておく。(120分)	治療について理解を深める(120分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
期末試験(100%)で成績評価を行う。						
使用教科書						
なるほど なっとく! 病理学病態形成の基本的なしくみ / 小林正伸 著.--第2版--南山堂, 2019年, 978-4-525-15162-1						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出された答案用紙は評価後返却する					
備考						

授業科目名		担当教員				
健康と保健		三品 弘司・皮野 さよみ・古田 弥生・岩瀬 桃子・森岡 菜穂子・林 宗典 (代表教員 三品 弘司)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		三品 (看護師・保健師) 皮野 (看護師・助産師) 古田 (看護師) 岩瀬 (看護師) 森岡 (看護師) 林 (看護師)				
授 業 概 要						
学生が自身の“からだ”と“こころ”に関心を持ち、健康的な学生生活を送るための具体的方法を学習する。さらには、大学生が罹患しやすい疾患について学ぶことで、医療人を目指す者に必要な基礎的知識を身に着ける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①日頃の生活習慣を見直し、健康管理の具体的方法について説明できる。 ②心身の健康に影響を及ぼす諸要因について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	健康について 日本の医療制度	① ②	古田	講義	テキスト第1章「健診について」、第6章「日本の医療制度」を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
2	健康的な生活習慣について (生活習慣と病気)	① ②	古田	講義	テキスト第2章「健診的な生活習慣」を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
3	大学生のための病気の知識① (肺・心臓・腎臓・血液・消化器)	① ②	林	講義	テキスト第5章「大学生のための病気の知識」の第1節～第5節を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
4	大学生のための病気の知識② (内分泌・神経・膠原病・アレルギー・皮膚・口腔)	① ②	森岡	講義	テキスト第5章「大学生のための病気の知識」の第6節～第11節を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
5	大学生のための病気の知識③ (感染症・LGBT)	① ②	岩瀬	講義	テキスト第5章「大学生のための病気の知識」の第12節、第15節を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
6	大学生のための病気の知識④ (性感染症・月経トラブル)	① ②	皮野	講義	テキスト第5章「大学生のための病気の知識」の第13節、第14節を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
7	大学生のこころの健康① (ストレスとストレス反応、発達危機)	① ②	三品	講義	テキスト第4章「大学生のこころの健康」の第1節～第3節、第5節を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
8	大学生のこころの健康② (摂食障害、不安障害、境界性パーソナリティ障害、物質関連障害)	① ②	三品	講義	テキスト第4章「大学生のこころの健康」の第4節、第6節～第8節を読むこと (120分)	テキストの該当範囲および配布資料を見直し、講義内容を理解すること。 (120分)
	定期試験 (筆記)					

評価基準・評価方法	
筆記試験（100％）で評価します。	
使用教科書	
大学生の健康ナビ―キャンパスライフの健康管理 / 山本真由美監修. ―岐阜新聞社, 2023年,	
参考図書	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	この講義は、オムニバスになります。質問等は、授業終了後もしくはメールにて受け付けております。
備考	

授業科目名		担当教員				
幾何光学		仲澤 和馬				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 後学期	1単位 (30時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
近視や乱視の検査や、緑内障や白内障などの眼疾患に接し、眼底の写真を撮影する際に、光（目に見える可視光）がどのように振る舞うかについての知見は、大きな強みになる。講義では、まず光の反射・散乱・屈折の基本を理解し、鏡や球面レンズ、また複数枚重ねたレンズでできる像の位置を知る方法を修得する。その後、乱視の原因でもある収差について学修し、最後に光学顕微鏡で拡大して観察できる原理について理解を深める。すべての回の講義で演習を課し、その結論について議論していただきます。						
学 修 の 到 達 目 標						
①光の特徴・性質を理解できる。 ②反射・散乱・屈折の性質を述べることができる。 ③鏡、球面レンズや複数枚重ねたレンズを通してできる像の位置を求めることができる。 ④収差の性質について説明できる。 ⑤光学顕微鏡のレンズの組み合わせから拡大して見えることを説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	光の色と明るさ（波動光学との相違・波長/振幅）、単位の乗数、平面角、立体角および三角関数 [基礎・導入]	①	仲澤	講義 演習		次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする（1時間）
2	光の定量測定、視感度、片対数・両対数グラフの読み方	①	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)
3	光の反射（フェルマーの原理）・散乱と像の作り方（平面鏡、凸面鏡、凹面鏡）	②	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)
4	Snellの法則、全反射	②	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)
5	反射の利用、プリズム、点光源	②	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)
6	球面での屈折（実光源、虚光源、実像、虚像）	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)
7	凸球面による屈折・結像、第1・第2焦点、レンズの公式	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)
8	レンズの公式・作図法と演習	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)
9	Vergenceの基本式と演習	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする(10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする(50分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	凹面鏡による屈折・結像・焦点	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする (10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする (50分)
11	薄いレンズの組合せによる屈折と結像Ⅰ（凸レンズ+凸レンズ）	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする (10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする (50分)
12	薄いレンズの組合せによる屈折と結像Ⅱ（凸レンズ+凹レンズ、凹レンズ+凹レンズ）	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする (10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする (50分)
13	組み合わせレンズ まとめ	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする (10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする (50分)
14	六主要点、厚いレンズによる屈折と結像、像の倍率（[縦・横・角]倍率）	③	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする (10分)	次回の復習小テストに備えて、関連事項や講義の復習をする (50分)
15	ザイデル5収差，色収差，顕微鏡の構造	④ ⑤	仲澤	講義 演習	テキストの関連するところを読み、疑問点を明らかにする (10分)	定期試験に備え，関連事項や講義の復習をする（50分）
	定期試験（筆記）					最後の復習小テストは，定期試験より前に返却します
評価基準・評価方法						
定期試験（60％），復習小テスト（40％）の成績で判断して評価する。						
使用教科書						
新しい眼光学の基礎 / 西信元嗣. --金原出版，2008年，978-4-307-35130-0						
参考図書						
随時，提示する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	2回目の講義以降毎回実施する復習小テストで課題が見られた場合には，次回講義の返却時に解説する。また数回目以降の小テスト実施直後に解答例を配布するので，復習に役立てること。 質問等：講義時間中あるいは終了後に受け付ける。また，講義終了時に講義内容に関する質問・要望を記入する用紙を配布するので，提出すること。次回の講義開始前に回答する。					
備考	電子メールアドレス：nakazawa.kz@gmail.com					

授業科目名		担当教員				
医療統計学		山田 雅博				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 前学期	1単位 (30時間)		講義・演習		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
この授業では、資料の整理や読み、分析などの初歩から学習を行う。後半は、具体的事例をもとに様々な推定や検定について学ぶ。毎回、毎時間においてプリントを配布し、前半は講義形式で、後半はプリントを用いた問題演習を行う。資料を分析しやすいように整理して、代表値を用いて吟味する方法について学ぶ。また、一部のサンプルをもとに全体の状況を推測する方法についても学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
まず、様々な統計用語の意味について、着実に理解することを目標とする。また、授業ノートを見ながら、実践において活用出来る技術が身に付くことを目指す。 知識：①統計用語について理解している。 技術：②代表値や統計量を求めることが出来る。また、それらを用いて資料を分析できる。 技術：③具体的な推定や検定が出来る。 態度：④主体的に参加し、対話的な協働学習を行い、深い学びを追究する態度を身に付ける。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	統計学の概要、度数分布表	① ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
2	代表値、平均値	① ② ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
3	標準偏差	① ② ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
4	相関係数	① ② ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
5	確率の基礎について	① ② ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
6	同時確率分布	① ② ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
7	平均の推定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
8	比率の推定、標準偏差の推定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
9	平均の検定、比率の検定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	片側検定による平均の検定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
11	等平均の検定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
12	適合度の検定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
13	独立性の検定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
14	相関係数の推定、検定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
15	相関の有無の検定	① ③ ④		講義 演習	シラバスを事前に確認し、教科書の該当箇所を熟読する。 (30分)	授業ノートとプリントを用いて、プリントの問題に取り組む (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
授業中の演習問題における習熟の状態（30%），期末試験結果（70%）をもって総合的に判断する。 知識・理解，試行・判断を特に重要視し，態度については「授業中の演習問題における習熟の状態」において見届ける。						
使用教科書						
新統計入門 / 小寺平治 著.--裳華房，1996年，ISBN978-4-7853-1099-8						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポートや小テストは，課さない。					
備考	メールによる質問は，yamada33@gifu-u.ac.jp へお願いします。 また，対面での質問等を希望する場合は，先のアドレスへ連絡を下さい。時間を調整します。 授業中に電卓を使用させるが，どのような物を用意するかは，第1回目の授業において指示します。					

授業科目名		担当教員				
一般臨床医学		近藤 直実・横井 達夫・田辺 久美子・山本 容正・長瀬 典子・加藤 里菜・熊田 ますみ (代表教員 近藤 直実)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)		講義 オムバス		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		近藤直実 (医師)、横井達夫 (医師)、田辺久美子 (医師)、長瀬典子 (医師)、加藤里菜 (医師)、熊田ますみ (看護師)				
授 業 概 要						
眼科の疾患の中には、内科的疾患が原因で眼に現れるものや、めまい眼振など耳鼻科と関係しているもの、また子供や高齢者の患者さんも多く、小児の病気、高齢者特有の疾患についての知識が必要になる事もある。また斜視になると頭を傾けて物を見る事もあり、これが首の筋肉の硬直で起こっているのか斜視によるものなのかを確認する事もある。そのために整形外科的知識も必要となる。さらには眼科手術は勿論、子供の検査には眠らせて行う場合もあり麻酔についての知識も必要である。このように臨床を行うにあたり、眼科領域以外にも幅広い知識が必要となるため、ここでは各専門分野の講師がそれぞれの基礎的内容を分かり易く説明し、眼科学以外の知識を身につける。						
学 修 の 到 達 目 標						
①授業で修得した疾患と病態に関して理解し、病状・診断・治療法等に関して具体的に説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	総論①	①	熊田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
2	総論②	①	熊田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
3	総論③ (老年看護を含む)	①	熊田		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
4	小児病学① 成長発達、新生児、脳神経疾患、代謝疾患	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
5	小児病学② 呼吸・循環器疾患、運動器疾患、アレルギー疾患など	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
6	内科学・老年医学① 循環器疾患、呼吸器疾患、代謝・内分泌疾患	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
7	内科学・老年医学② 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、アレルギー疾患、膠原病、免疫病 など	①	近藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
8	整形外科学① 整形基礎	①	横井		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)
9	整形外科学② 斜頸について	①	横井		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	耳鼻咽喉学① 耳鼻咽喉科総論：眼科との境界領域とは	①	長瀬		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 (30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 (30分)
11	耳鼻咽喉学② 頭頸部外科総論：大切な機能を守る頭頸部腫瘍新治療	①	加藤		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 (30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 (30分)
12	麻酔科学① 麻酔の基礎知識、全身麻酔	①	田辺		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 (30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 (30分)
13	麻酔科学② 局所麻酔、ショック	①	田辺		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 (30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 (30分)
14	感染症及び感染対策① 感染症と病原体	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 (30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 (30分)
15	感染症及び感染対策② 感染症の発症と防御機構、感染対策	①	山本		教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。 (30分)	授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。 (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験（100%）						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 / 第6版--医学書院，2023年，978-4-260-05013-5 適宜、必要な資料を配布する。						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	小テストなどにコメントして返却など					
備考	資料、PCにて補足説明を行う。					

授業科目名		担当教員				
神経内科学		木村 暁夫・下畑 享良・山田 恵・吉倉 延亮・竹腰 顕・國枝 顕 二郎・大野 陽哉・山原 直紀 (代表教員 木村 暁夫)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5)の達成に寄与している。		下畑享良(医師)、木村暁夫(医師)、山田恵(医師)、吉倉延亮(医師)、竹腰顕(医師)、國枝顕二郎(医師)、大野陽哉(医師)、山原直紀(医師)				
授 業 概 要						
①神経内科で扱う神経疾患の病態・診断・治療法について学び、理解を深める。 ②個々の神経疾患における障害部位・認められる神経学的異常所見・異常検査所見に関し理解を深める。 ③個々の神経疾患の治療の現状およびリハビリテーションの意義・注意点を理解する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①個々の神経疾患の疾患名と病態に関し理解し、診断・治療法に関して具体的に説明できる。 ②個々の神経疾患におけるリハビリテーションの必要性和施行時の注意点を理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	神経変性疾患Ⅰ(パーキンソン病)	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
2	神経変性疾患Ⅳ(運動ニューロン疾患)	① ②	下畑		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
3	神経変性疾患Ⅱ(パーキンソン関連疾患)	① ②	山田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
4	神経変性疾患Ⅲ(脊髄小脳変性症)	① ②	山田		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
5	認知症(アルツハイマー型認知症)	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
6	認知症(非アルツハイマー型認知症)	① ②	吉倉		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
7	免疫性神経疾患(重症筋無力症など)	① ②	木村		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
8	免疫性神経疾患(多発性硬化症など)	① ②	木村		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
9	末梢神経障害Ⅰ	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	末梢神経障害Ⅱ	① ②	竹腰		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
11	筋疾患Ⅰ	① ②	國枝		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
12	筋疾患Ⅱ	① ②	國枝		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
13	頭部外傷・脊髄損傷	① ②	大野		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
14	脳腫瘍	① ②	山原		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
15	脳炎・脳症	① ②	木村		使用教科書の該当箇所 で事前学習する (30分)	講義配布資料と教科書 で事後学習する。 不明な点は参考図書 で学習する (30分)
	定期試験 筆記		木村			
評価基準・評価方法						
定期試験（80％）、授業への取り組み姿勢（20％）など総合的に判断						
使用教科書						
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 / 鎌倉矩子ほか編集。--第5版--医学書院, 2019年, 978-4-260-03817-1						
参考図書						
・臨床のための脳局所解剖学（中外医学社） ・神経内科ハンドブック 鑑別診断と治療第5版（医学書院） ・全ての内科医が知っておきたい神経疾患の診かた、考え方とその対応（羊土社）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法						
備考	理学療法士 作業療法士国家試験問題解答と解説（医師薬出版編）					

授業科目名		担当教員				
精神医学		宮地 幸雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	2単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		宮地幸雄（臨床心理士）				
授 業 概 要						
精神疾患についての基本的知識並びに精神疾患を罹患した人との基本的な援助方法を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①精神医学の基礎的な部分について理解を深める。 ②精神疾患の症例を理解することができる。 ③臨床場面で援助方法の基本が活用できるようになる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	人が生きるということについてを考える。	①			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
2	自殺について	①			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
3	精神医学の歴史について	①			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
4	こころの発達と防衛機制について	① ③			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
5	臨床心理検査について	① ③			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
6	よくみられる精神症状についてーその 1	② ③			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
7	よくみられる精神症状についてーその 2	② ③			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
8	統合失調症についてーその 1	② ③			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)
9	統合失調症についてーその 2	② ③			教科書の該当部分を 確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師が まとめをするので、それを復習する。 (120分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	感情障害について	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
11	心因性精神障害について	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
12	知的障害・発達障害について	② ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
13	心理療法について	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
14	チームアプローチについて	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
15	医療従事者の姿勢について	① ③			教科書の該当部分を確認する。(120分)	授業の最後に毎回講師がまとめをするので、それを復習する。(120分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験(100%)で評価する						
使用教科書						
精神医学テキスト―精神障害の理解と治療のために / 上島国利ほか.―改訂第4版―南江堂, 2017, 978-4-524-25942-7						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	随時質問を受け付け回答及びコメントをする。					
備考	講師は臨床心理士。非医師であるが、精神科病院での事例を提示し臨床現場の話をしてみたい。					

授業科目名		担当教員				
臨床心理学		高橋 晋也				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
臨床心理学とは、精神疾患をはじめとする心理的問題やその結果としての不適応行動の予防・改善・援助、あるいはより一般的に人々の精神的健康の増進を追求する応用心理学の一領域であるが、本科目では、とくに視能訓練医療に関わりの深い諸問題に焦点を絞り、将来的に医療現場での実践に役立つ知識の習得と人間の理解を目指す。医療従事者と患者の関係に加え、視能訓練医療で頻出する患児とその親を含めた三者間関係に適切に向き合うために理解しておくべき基礎的問題を中心に学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①乳幼児期を中心とした人間の発達の諸側面について理解し、相互に関連づけることができる。 ②生得的動機と習得的動機の特徴、とくに人間行動における両者の関係について適切に述べることができる。 ③不適応の日常的事例と、その対処行動の特徴について適切に述べることができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	導入ならびに発達（１）：発達の定義、発達段階区分、人間の発達の特徴	①			資料に当たらず、自分なりに発達の定義を考えてみる。 (30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)
2	発達（２）：認知発達	①			「ピアジェの認知発達説」について調べておく。(30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)
3	発達（３）：運動機能の発達、言語発達	①			「原始反射」、「初語」について調べておく。(30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)
4	発達（４）：感情の発達、遊びの発達、親子関係の発達	①			「社会的微笑」、「人見知り」について調べておく。(30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)
5	発達（５）：視覚発達の理論（乳幼児の視覚能力測定法）	①			「選好注視法」の実施方法について調べておく。(30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)
6	発達（６）：視覚発達の実際（空間分解能・コントラスト感度・分光感度・調節機能）	①			乳幼児の視覚発達に関する資料（データ）を探してみる。 (30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)
7	発達（７）：高齢者の心理と臨床場面での留意点	①			臨床現場で高齢者と接した場面を想定し、その際の留意点を考える。(30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)
8	発達（８）：過去の国家試験における発達心理学関連の出題	①			前回までの学習内容を振り返っておく。 (30分)	配付資料中の、授業時間内に取り組まなかった問題を解く。 (30分)
9	動機（１）：マズローの動機階層説、生得的動機（生理的動機・性動機）	②			「マズローの動機階層説」について調べておく。(30分)	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	動機（２）：内発的動機（好奇動機・操作動機・感覚動機）、習得的動機（社会的動機・獲得性動機）	②			「マレーの社会的動機リスト」について調べておく。（30分）	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。（30分）
11	適応と不適応（１）：課題対処行動という視点から見た適応・不適応・擬似適応	③			「適応する／している」とはどういうことか、自分なりに考えてみる。（30分）	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。（30分）
12	適応と不適応（２）：欲求不満、葛藤、ストレス	③			「欲求不満」、「葛藤」、「ストレス」について調べておく。（30分）	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。（30分）
13	適応と不適応（３）：フロイトの心的装置説	③			「イド」、「自我」、「超自我」について調べておく。（30分）	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。（30分）
14	適応と不適応（４）：自我防衛機制	③			「自我防衛機制（適応機制）」について調べておく。（30分）	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。（30分）
15	適応と不適応（５）：心身症、神経症、精神病	③			「心因性視能障害」の特徴について調べておく。（30分）	学修内容の要点を自分の言葉200字程度でまとめる。（30分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
講義内容の理解度を測定する期末試験の成績（100%）により評価する。期末試験では一切の持ち込みを認めない。						
使用教科書						
使用しない。（プリント資料を配付する。）						
参考図書						
授業中に適宜紹介する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	期末試験の評価について質問があれば、個別に対応する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
視器の解剖と生理学Ⅰ（眼球・眼球付属器他）		丹沢 慶一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
授業科目「視器の解剖と生理学Ⅰ」は、視覚について初めて学ぶ科目で、3年間の専門科目学習の基礎となる大切な科目である。視覚器および脳と神経を中心において構造や機能を分かりやすく講義していく。類似の課題は学年進捗とともに多くの専門科目で繰り返し学習することを念頭に置いて、ごく基本的な知識を修得することが大切である。						
学 修 の 到 達 目 標						
①眼球、眼球付属器の構造と機能について、理解し、説明することができる。 ②視覚伝導路について、理解し、説明することができる。 ③視覚に関わる脳と神経について、理解し、説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼球および眼球外膜（角膜、強膜）の構造と機能 視能学P2～P4	①		講義	該当ページを読む。 (60分)	眼球外膜（角膜、強膜）の構造と機能を理解する。（180分）
2	眼球中膜（虹彩、毛様体、脈絡膜）の構造と機能 視能学P4～P7	①		講義	該当ページを読む。 (60分)	眼球中膜（虹彩、毛様体、脈絡膜）の構造と機能を理解する。（180分）
3	眼球内膜（網膜）の構造と機能 視能学P7～P11	① ②		講義	該当ページを読む。 (60分)	眼球内膜（網膜）の構造と機能を理解する。（180分）
4	眼球内容（硝子体、水晶体、眼房、隅角）の構造と機能 視能学P11～P14	①		講義	該当ページを読む。 (60分)	眼球内容（硝子体、水晶体、眼房、隅角）の構造と機能を理解する。（180分）
5	眼球付属器（眼瞼、眉毛、結膜、涙器）の構造と機能 視能学P14～P17	①		講義	該当ページを読む。 (60分)	眼球付属器（眼瞼、眉毛、結膜、涙器）の構造と機能を理解する。（180分）
6	眼球付属器（外眼筋、眼窩）の構造と機能 視能学P17～P19	① ③		講義	該当ページを読む。 (60分)	眼球付属器（外眼筋、眼窩）の構造と機能を理解する。（180分）
7	視覚伝導路 視能学P19～P20、P25～P29	②		講義	該当ページを読む。 (60分)	視覚伝導路について理解する。（180分）
8	眼の血管系、眼の発生、脳と神経 視能学P21～P24、P28～P30	① ③		講義	該当ページを読む。 (60分)	眼の血管系、眼の発生、脳と神経を理解する。（180分）
	定期試験 筆記					

評価基準・評価方法	
講義主体となるため知識の理解、定着を測定するため、小テスト、筆記試験にて判定する。 定期試験60%、小テスト40%にて総合評価とする。	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他. --第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 現代の眼科学 第13版 / 所敬監修. --吉田晃敏、谷原秀信--金原出版, 2018年, 978-4-307-35168-3	
参考図書	
適宜紹介する。 必要時にはプリントを配布する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストを行い知識の定着度を確認し、講義時に総評を口頭にて行う。
備考	講義主体で行う。毎回の講義の復習を欠かすことなく着実に自分の知識にしていくこと。 質問は、オフィスアワーを活用し、自主的に学ぶこと。

授業科目名		担当教員				
視器の解剖と生理学Ⅱ（視路・眼運動系他）		丹沢 慶一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
眼球運動系、眼の自律神経・瞳孔・調節・輻輳、眼圧・房水 および 涙液 に係る視覚器の構造と機能について学ぶ。 本科目で学習した知識は、後発して開講される視機能療法学分野の科目の理解に必要である。 授業は講義形式で、教科書に沿って進行する。 講義中は重要なポイントを図説・解説し、必要だと思われる情報を適宜加える。 授業後は自身でも教科書を精読し、関連する事柄について成書等で調べ、その中から情報を拾い上げ整理するといった復習が必須である。この復習のプロセスは、知識の定着とともに、論理的思考力の育成を目的としている。 復習実施の程度を測るために、小試験を適宜行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各眼球運動が発現するために必要な神経機構について論理的に述べることができる。 ②大脳皮質、大脳辺縁系から眼球効果器に至る自律神経系の機構について論理的に述べることができる。 ③瞳孔・調節・輻輳の機構について論理的に述べることができる。 ④眼圧・房水・涙液の機能および特性について論理的に述べることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼球運動系における核上性中枢の神経機構 【教科書pp30-35】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
2	眼球運動系における眼球運動神経の機構 【教科書pp35-36】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
3	眼球運動系における末梢神経および開眼・閉眼運動の機構 【教科書pp37】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
4	眼効果器に至る自律神経の機構 【教科書pp38-40】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
5	瞳孔・調節・輻輳の機構と機能（1） 【教科書pp40-44】	③			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
6	瞳孔・調節・輻輳の機構と機能（2） 【教科書pp40-44】	③			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
7	眼圧の機能および特性，房水の機能および特性 【教科書pp45-46】	④			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
8	涙液の構造、性状および機能 【教科書pp47-49】	④			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
【定期試験】60％ 【小試験】40％	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他. --第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
・現代の眼科学 改訂第13版 ・図書館で最適な成書を探して参考図書として用いること.	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	各小試験の実施後に解答・解説をおこなう.
備考	

授業科目名		担当教員				
視器の病理学		大庭 紀雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		大庭紀雄（医師）				
授 業 概 要						
視機能矯正や視機能訓練を遂行するために必要な眼疾患の病理や病態の基本知識を身につける。重要な疾病の病理的成因を学ぶ。「眼疾病学」や「神経眼科学」や「眼薬理学」を（学習するための基盤となる知識を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①眼疾患の病因、成因、病態の特徴点を説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼の器官発生 P21-P25 眼瞼の病理・生理 P84-P91	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	発生段階ごとの疾患について判る（30分）
2	涙器の病理・生理 P94-P99	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）
3	結膜の病理・生理 P102-P111	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）
4	角膜と強膜の病理・生理 P114-P133	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）
5	ぶどう膜の病理・生理 P136-P163	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）
6	ぶどう膜の病理・生理 P136-P163	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）
7	網膜硝子体の病理・生理 P168-P218	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）
8	網膜硝子体の病理・生理 P168-P218	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）
9	網膜硝子体の病理・生理 P168-P218	①			範囲を目を通しておくこと（30分）	各疾患について判る（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	水晶体の病理・生理 P228-P242	①			範囲を目を通しておくこと (30分)	各疾患について判る (30分)
11	緑内障の病理 P244-P258	①			範囲を目を通しておくこと (30分)	各疾患について判る (30分)
12	視神経の病理・生理 P264-P281	①			範囲を目を通しておくこと (30分)	各疾患について判る (30分)
13	眼窩疾患の病理 P322-P334	①			範囲を目を通しておくこと (30分)	各疾患について判る (30分)
14	全身疾患の病理 P338-P350 外傷の病理 P354-P366	①			範囲を目を通しておくこと (30分)	各疾患について判る (30分)
15	主訴から考える眼疾患と検査 P28-P37	①			範囲を目を通しておくこと (30分)	疾患ごとの検査と結果について判る (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験の成績 (60%)、小テスト (40%)						
使用教科書						
現代の眼科学 改定第13版 / 所 敬、吉田 晃敏、谷原 秀信--金原出版株式会社, 2018年, 978-4-307-35168-3 視能学 第3版 / 丸尾 敏夫、久保田 伸枝、深井小久子--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	小テストを返却しフィードバックする					
備考						

授業科目名		担当教員				
視覚生理学Ⅰ（基礎）		松井 康樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
ヒトが外界から得る情報の80％は視覚から得ていると言われている。「視覚生理学」では、視覚、つまり「見る」システムの基本的な知識を学ぶ。眼球の中の網膜にうつった光が電気信号に変換され、大脳の視中枢に至る視覚伝導路の生理、網膜と視覚中枢内での階層的な構造と機能に基づく形態覚、色覚、光覚、立体視、運動視といった各種属性の神経機構に加えて、視野、電気生理学の基本的なことについて学ぶ。 「視覚生理学Ⅰ」では、視覚生理の基礎について学び、形態覚と視野についてディスカッションしながら学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①光と光の明るさの単位が判る ②明るさの感覚に関する閾値と感度について判る ③視覚心理について判る ④眼運動系について判る ⑤見るシステムについて判る ⑥視力（形態覚）について視力の種類や測定方法について判る ⑦視野の概念や測定方法についてわかる ⑧視野異常について判る						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	視覚生理の基礎 視能学P52-54	① - ④			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
2	視覚の成り立ち 視能学P54	⑤			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
3	視力（形態覚） 評価法、種類、影響する因子、視能学P55, 56, 61-63	⑥			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
4	視力（形態覚） 網膜部位と視力、コントラスト感度 視能学P63	⑥			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
5	視力（形態覚） 視力検査法、視能学P57-61	⑥			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
6	視野 概念、動的と静的測定、中心暗点検査、対座検査、閾値 視能学P64-68	⑦			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
7	視野 視野異常1 視能学P68-71	⑧			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
8	視野 視野異常2 視野影響する因子 視能学P71-73	⑧			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
	筆記試験					

評価基準・評価方法	
定期試験60%、小テスト40%	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他. --第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 現代の眼科学 第13版 / 所 敬監修. --金原出版, 2018年, 978-4-307-35168-3 プリントも配布します	
参考図書	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストを実施し返却する
備考	予習復習をしてください。そして不明な点は質問しなくすこと。 休み時間やオフィスアワーを活用し、自主学習にも力を注いで理解してください。

授業科目名		担当教員				
生理光学Ⅰ（基礎）		四之宮 佑馬				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		四之宮佑馬（視能訓練士）				
授 業 概 要						
本科目は視機能療法学の学問体系における 基礎視能矯正学（生理光学） として 生理光学の基礎的知識と屈折・調節に関連する計算式 を学ぶ。本科目で得た知識は、後発して開講される 視機能療法学分野の科目の 演習・講義 の理解に必要である。 授業は講義形式で、教科書に沿って進行する。講義中は重要なポイントを図説・解説し、必要だと思われる情報を適宜加える。 授業後は自身でも教科書を精読し、関連する事柄について成書等で調べ、その中から情報を拾い上げ整理するといった復習が必須である。この復習のプロセスは、知識の定着とともに、論理的思考力の育成を目的としている。復習実施の程度を測るために、小試験を適宜行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①光の性質・幾何光学の概要、レンズの定義を説明できる。 レンズの収差、プリズムフィルタ、ミラー、波動工学の定義を説明できる。 ③眼光学系の特徴を説明できる。 ④屈折調節の光学の定義を説明と関連する計算ができる。 ⑤屈折調節に関連する計算式を用いて、屈折調節を正確にすることができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	光の性質、幾何光学、球面レンズ、円柱レンズの定義 【教科書100-102】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
2	レンズの収差、プリズム、フィルタ、ミラー、波動工学の定義 【教科書103-104】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
3	眼球光学の特徴 【教科書104-105】	③			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
4	模型眼とその名称、屈折の光学（正視、近視、乱視） 【教科書106-107】	③ ④			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
5	眼鏡レンズと眼の光学、調節の光学 【教科書108-110】	④			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
6	符号の約束、屈折の法則と反射の法則、屈折率、プリズム偏角、プリズムジオプトリー 【教科書155-156】	⑤			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
7	レンズのプリズム効果、バーゼンス、レンズの屈折力、厚いレンズの主要点、バーゼンスによるレンズ屈折力と結像式、面屈折力 【教科書157-159】	⑤			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
8	乱視とトーリックレンズ、度数変換、遠点と矯正原理、レンズの効率、矯正効果、調節、倍率、眼鏡レンズによる拡大と縮小、反射鏡の屈折力、視力とlogMAR、頂点間距離の補正 【教科書160-163】	⑤			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	次回の小試験に備えた復習：195分
	試験					

評価基準・評価方法	
【定期試験】100%	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
・必要に応じて配布する。 ・図書館で最適な成書を探し, 参考図書として用いること。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	各小試験の実施後に解答・解説をおこなう。
備考	授業は、受講生の習熟度を考慮して進行します。講義欠席者はその内容について、必要に応じて確認に来てください。

授業科目名		担当教員				
視機能検査学概論		四之宮 佑馬				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		四之宮佑馬（視能訓練士）				
授 業 概 要						
視能訓練士の業務の中で視機能検査は重要な位置を占める。医学の進歩とともに眼科領域でもさまざまな疾患の治療が可能となって来た。早期発見早期治療には視能訓練士の精度の高い検査結果が不可欠である。この講義では多岐にわたる視機能検査の種類とその内容、視機能検査をするための機器について知っておくべきことを学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視機能検査の概要が判る。 ②視機能検査機器の規格が判る。 ③データ処理と管理の仕方が判る。 ④機器の安全管理、メンテナンス等が判る。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	視機能検査機器について P258-261	② ③ ④			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
2	光学系検査の種類と概要	①			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
3	光覚・色覚・視野検査の種類と概要	①			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
4	電気生理学検査の種類と概要	①			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
5	角膜・涙液・超音波・眼底検査の種類と概要	①			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
6	症例検討Ⅰ	①			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
7	症例検討Ⅱ	①			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
8	症例検討③	①			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
	筆記試験					

評価基準・評価方法	
定期試験 (100%)	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他. --第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 現代の眼科学 / 所 敬監修. --第13版--金原出版, 2018年, 978-4-307-35168-3	
参考図書	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	授業時間内に口頭にてフィードバックする
備考	講義主体で行う。毎回の講義の復習を欠かすことなく着実に自分の知識にしていくこと。 質問は、オフィスアワーを活用し、自主的に学ぶこと。

授業科目名		担当教員				
視機能検査学Ⅰ（眼科一般検査）		四之宮 佑馬				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		四之宮佑馬（視能訓練士）				
授 業 概 要						
眼科検査で一般的に実施される各種検査の目的、原理、検査法、疾病への適応を学び、視機能検査の基礎知識を修得することを目的とする。医学の発展に伴い、眼科領域においても多種多様の検査が実施され、診断や治療方針決定のための重要な役割を果たしている。精度の高い検査を行うためには、正しい知識を身につけ、検査に臨む必要がある。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視機能検査の基礎知識を修得し、実践に応用することができる。 ②視機能検査の目的、原理、限界、方法を理解し、説明することができる。 ③測定手順、測定上の注意点を理解し、応用することができる。 ④視機能検査の疾病への適応を理解し、測定結果について説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	外眼部検査：視能学P216～P217	① ② ③ ④			眼瞼の構造について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。(120分)
2	細隙灯顕微鏡：視能学P217～P220	① ② ③ ④			前眼部の構造について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。(120分)
3	角膜検査、涙液検査：視能学P221～P223	① ② ③ ④			角膜、涙器の構造について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。(120分)
4	眼圧検査、隅角検査：視能学P223～P229	① ② ③ ④			隅角の構造、房水流出路について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を実践に応用できるように復習しておくこと。(120分)
5	眼底検査（倒像鏡、直像鏡、細隙灯顕微鏡検査）：視能学P229～P231	① ② ③ ④			眼底の構造について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。(120分)
6	眼底画像検査（FA、IA）：視能学P231～P234	① ② ③ ④			眼底の構造について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を実践に応用できるように復習しておくこと。(120分)
7	眼底画像検査（光干渉断層計）：視能学P234～P238	① ② ③ ④			網膜の構造、神経線維の走行について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。(120分)
8	中心暗点計（Amsler Charts・M-CHARTS）、臨界融合頻度検査：視能検査学P154～P157、P160～P164	① ② ③ ④			網膜の構造について復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。(120分)	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。(120分)
	定期試験 筆記					

評価基準・評価方法	
講義主体となるため知識の理解、定着を測定するため小テスト、筆記試験にて判定する。 定期試験80%、小テスト20%にて総合評価とする。	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 眼科検査ガイド 第3版 / 根本昭監修.--飯田知弘、近藤峰生、中村誠、山田昌和--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5609-5 視能学エキスパート 視能検査学 第2版 / 和田 直子、小林 昭子、中川 真紀、若山 暁美--医学書院, 2023年, 978-4-260-05043-2	
参考図書	
適宜紹介する。 また、必要時にはプリントを配布する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストを行い知識の定着度を確認し、講義時に総評を口頭にて行う。
備考	講義主体で行う。毎回の講義の復習を欠かすことなく着実に自分の知識にしていくこと。 質問は、オフィスアワーを活用し、自主的に学ぶこと。

授業科目名		担当教員				
視機能検査学Ⅱ（眼位検査）		四之宮 佑馬				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		四之宮佑馬（視能訓練士）				
授 業 概 要						
眼科検査で一般的に実施される各種検査の目的、原理、検査法、疾病への適応を学び、視機能検査の基礎知識を修得することを目的とする。医学の発展に伴い、眼科領域においても多種多様の検査が実施され、診断や治療方針決定のための重要な役割を果たしている。精度の高い検査を行うためには、正しい知識を身につけ、検査に臨む必要がある。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視機能検査の基礎知識を修得し、実践に応用することができる。 ②視機能検査の目的、原理、限界、方法を理解し、説明することができる。 ③測定手順、測定上の注意点を理解し、応用することができる。 ④視機能検査の疾病への適応を理解し、測定結果について説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	超音波検査：視能学P238～P242	① ② ③ ④			検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
2	眼軸長検査、眼窩画像検査：視能学P243～P244	① ② ③ ④			検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
3	静的視野検査 1：視能検査学P128～P138	① ② ③ ④			前期開講の視覚生理学で学んだ視野の範囲を復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
4	静的視野検査2：視能検査学P148～P150	① ② ③ ④			前期開講の視覚生理学で学んだ視野の範囲を復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
5	動的視野検査 1：視能検査学P139～P144	① ② ③ ④			前期開講の視覚生理学で学んだ視野の範囲を復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
6	動的視野検査2：視能検査学P139～P144	① ② ③ ④			前期開講の視覚生理学で学んだ視野の範囲を復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
7	色覚検査：視能検査学P189～P194	① ② ③ ④			前期開講の視覚生理学で学んだ色覚の範囲を復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
8	網膜電図（ERG）：視能検査学P201～P205	① ② ③ ④			前期開講の視覚生理学で学んだ網膜電図（ERG）の範囲を復習しておくこと。検査の目的・原理・検査機器・検査方法について予習しておくこと。（120分）	修得した知識を演習に応用できるように復習しておくこと。（120分）
	定期試験 筆記					

評価基準・評価方法	
講義主体となるため知識の理解、定着を測定するため小テスト、筆記試験にて判定する。 定期試験80%、小テスト20%にて総合評価とする	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--文光堂--第3版, 2022年, 978-4-8306-5608-8 眼科検査ガイド 第3版 / 根本昭監修.--飯田知弘、近藤峰生、中村誠、山田昌和--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5609-5 視能学エキスパート 視能検査学 第2版 / 和田 直子、小林 昭子、中川 真紀、若山 暁美--医学書院, 2023年, 978-4-260-05043-2	
参考図書	
適宜紹介する。 必要時にはプリントを配布する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストを行い知識の定着度を確認し、講義時に総評を口頭にて行う。
備考	講義主体で行う。毎回の講義の復習を欠かすことなく着実に自分の知識にしていくこと。 質問は、オフィスアワーを活用し、自主的に学ぶこと。

授業科目名		担当教員				
視機能検査学Ⅲ（両眼視機能検査）		野原 尚美・枝川 宏（代表教員 野原 尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、枝川宏（医師）				
授 業 概 要						
視能訓練士が最も理解しておかなければならないことは、斜視弱視の各型に対して、どのような検査をし、どう治療をしていくのかである。ここでは、患者の主訴から何を考え、どのような検査をし、どのような斜視・弱視なのかを判断し、どのような治療をする必要があるのかを模擬症例を提示しながら、理解を深める。つまり、視能矯正分野で学んだ内容を、症例を通じて関連付けて考えることが出来ることを目的とする。 まず、患者の主訴から、考えられる斜視・弱視の各型を列挙する。各型を判断するために必要な視力・屈折・眼位・両眼視機能検査を選択する。それらの結果を分析し、斜視・弱視の各型を正しく判断する。そして、治療として観血療法・非観血療法・視能訓練の方法を考えることが出来るようにする。「思考力」、「判断力」を育成するために、グループワークやディスカッション形式の講義も取り入れる。 また、過去よりスポーツと視覚に関する研究がおこなわれている。アスリート以外に、スポーツを行う子供は多く、視能訓練士として今後この分野についての知識は必要となる。そこでスポーツ眼科で豊富な経験を持つ眼科専門医が、最新の研究に触れながらより確かなスポーツと視覚について講義を展開する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①斜視の各型の特徴・治療法が理解できる。 ②主訴から斜視弱視の各型を判定するために適切な検査を選択することが出来る。 ③眼科カルテ上に記載されている視能矯正分野での英語表記が理解できる。 ④検査結果から斜視弱視の各型の判定ができる。 ⑤斜視弱視の各型によって、適切な治療法、訓練方法が選択できる。 ⑥スポーツ眼科について理解できる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	斜視・弱視の各型と治療法について	①	野原		斜視・弱視の分類・屈折異常並びに調節と斜視・治療法について復習しておくこと30分	次回講義の模擬症例についての課題に取り組む30分
2	斜視の模擬症例①（検査と結果について）	① ② ③	野原		必要な検査について検査法・正常値など理解しなおす30分	模擬症例について課題に取り組む30分
3	斜視の模擬症例①（診断・今後の経過・治療）	① ② ③ ④ ⑤	野原		斜視の診断と治療について見直す30分	模擬症例について課題に取り組む30分
4	斜視の模擬症例②（検査と結果について）	① ② ③	野原		必要な検査について検査法・正常値など30分	模擬症例について課題に取り組む30分
5	斜視の模擬症例②（診断・今後の経過・治療）	① ② ③ ④ ⑤	野原		斜視の診断と治療について見直す30分	模擬症例について課題に取り組む30分
6	斜視の模擬症例③（検査と結果について）	① ② ③	野原		必要な検査について検査法・正常値など30分	模擬症例について課題に取り組む30分
7	斜視の模擬症例③（診断・今後の経過・治療）	① ② ③ ④ ⑤	野原		斜視の診断と治療について見直す30分	模擬症例について課題に取り組む30分
8	弱視の模擬症例①（検査と結果について）	① ② ③	野原		必要な検査について検査法・正常値など30分	模擬症例について課題に取り組む30分
9	弱視の模擬症例①（診断・今後の経過・治療）	① ② ③ ④ ⑤	野原		斜視の診断と治療について見直す30分	模擬症例について課題に取り組む30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	麻痺性斜視の模擬症例①（検査と結果について）	① ② ③	野原		必要な検査について検査法・正常値など 30分	模擬症例について課題に取り組む30分
11	麻痺性斜視の模擬症例①（診断・今後の経過・治療）	① ② ③ ④ ⑤	野原		麻痺性斜視の診断と治療について見直す 30分	模擬症例について課題に取り組む30分
12	動体視力	⑥	枝川		指定教科書や、専門図書を使用して動体視力について調べる 30分	講義の内容をまとめる30分
13	視機能とスポーツ選手	⑥	枝川		指定教科書を読む。疑問点を挙げ講義の際に質問できるよう準備をしておく30分	講義内容をまとめる30分
14	スポーツ眼科1	⑥	枝川		指定教科書を読む。疑問点を挙げ講義の際に質問できるよう準備をしておく30分	講義内容をまとめる30分
15	スポーツ眼科2	⑥	枝川		指定教科書を読む。疑問点を挙げ講義の際に質問できるよう準備をしておく30分	講義内容をまとめる30分
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
筆記試験にて判定する。 定期試験80%、課題の取り組み20%にて総合評価とする。						
使用教科書						
視能学 第3版 / 小林義治他. -- 文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 スポーツパフォーマンスと視覚—競技力と眼の関係を理解する— / 日本スポーツ視覚研究会. -- ナップ, 978-4-905168-60-7						
参考図書						
視能学エキスパート視能訓練学 日本視能訓練士協会. 医学書院 ISBN978-4-260-03223-0 必要時にはプリントを配布する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回の講義開始時に課題の解説を加えフィードバックする					
備考	図書館を利用し多くの参考図書で調べる事が望ましい。必要に応じて文献検索などできるとより理解が深まる。課題担当となった学生は、講義が始まる前に、課題の解答を黒板（ホワイトボード）に記載して説明ができるように準備を整えておくこと。					

授業科目名		担当教員				
公衆衛生学		大森 正英				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
公衆衛生学は社会や集団を対象とした医学であり、個人の心身の疾病予防、健康の保持増進に止まらず、高齢社会対策、社会福祉、環境保全ならびに環境汚染防止など、社会全体、時に全地球をも対象とした多岐にわたる内容から構成されている。個人の健康を対象とした臨床医学とはまた異なる面からも人間および社会と健康との関わりについて考えるとともに、その実践に必要な知識と技術を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①公衆衛生学とは何か、その内容と適応範囲について理解する。 ②近代社会になぜ公衆衛生学が必須なのか理解する。 ③日本の健康の現状を知り、公衆衛生学が時代とともに変化、発展していくことを学ぶ。 ④疾病の予防について公衆衛生学の面から考える。 ⑤環境問題について環境衛生学の立場から理解を深める。 ⑥健康増進活動の実態と効果について公衆衛生学的な視野からの考え方を身に付ける。 ⑦公衆衛生学で学んだことを実生活や実務に役立てる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	公衆衛生学概論 公衆衛生学とは何か？	①			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
2	健康の概念 健康の定義、健康の指標	②			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
3	健康阻害要因 社会の変化と人間の健康	② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
4	健康の現状 疾病構造の変化と健康の現状	③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
5	人口と寿命 平均寿命、平均余命、高齢化	② ③			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
6	疫学(1) 疾病予防と疫学、疫学の手法	① ② ③ ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
7	疫学(2) 感染症の特徴とその予防対策	① ② ③ ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
8	疫学(3) 慢性感染症の予防：S T D、結核他	① ② ③ ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
9	疫学(4) 難病対策、歯科疾患他	① ③ ④			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	環境衛生学 (1) 大気、水	② ⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
11	環境衛生学 (2) 廃棄物処理、環境汚染の現状と防止対策	② ⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
12	環境衛生学 (3) 食環境—食品衛生学と栄養学	② ③ ⑤			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
13	生活習慣と健康 飲酒、喫煙習慣と健康他	② ④ ⑥			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
14	生活習慣病の特徴とその予防対策	② ③ ⑥ ⑦			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
15	公衆衛生活動の展開、健康増進医学	① ② ③ ⑦			素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)	素早い書写能力を鍛え、充実したノートを作成する。(30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
評価基準：公衆衛生学に関する基礎的知識、理解度および公衆衛生学的思考法の確立の度合いを評価する。 評価方法：筆記試験ならびに適時提出を求める課題（レポート）によって行う。評価割合はそれぞれ90%、10%						
使用教科書						
イラスト 公衆衛生学 / 石川哲也 他著.--第5版5刷—東京教学社, 978-4-8082-6055-2						
参考図書						
適時、紹介する						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考						
課題や試験問題に対する解説はその都度行う。授業中の質問は随時、受け付ける。メール等による質問も歓迎するが、教務経由でお願いしたい。						

授業科目名		担当教員				
社会福祉学		竹内 章郎				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。						
授業概要						
現在、社会福祉を含む社会保障全体が、大きな転換点にある。それは、社会保障を支える福祉国家体制それ自体の「危機」という大きな問題からくるものであるが、同時に、社会保障の基盤である社会権（法）の基本的理解の問題や資本主義市場と社会保障との関係などにも及ぶ問題から生じていることもある。この講義ではそうした大きな問題を、社会福祉の現場実践と関係づけて捉えることを通じて、社会福祉・社会保障の本質を解明したい。事前学習については、毎回、次回講義のための事前学習の範囲を指定する。						
学修の到達目標						
①社会福祉を含む社会保障の現実を、その基礎に立ち返って理解する。 ②大きな制度的問題と社会福祉実践の現実とを結び付けて理解する。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス（全体の進行について）、社会福祉と社会保障との関連について（善き生存としての福祉を中心に）、翻訳の問題など	①			既配布の資料全体に目を通しておく（120分）	左記の講義内容とこれに関わる資料の再読（120分）
2	日本の社会保障・社会福祉の基礎：憲法25条（13条との関連）：プログラム規定・義務規定/行政裁量の理解、措置と契約、福祉の民営化・市場化など	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
3	権利としての社会保障（1）：権利理解の初発、市民権と社会権との相違、私的所有と市民権、社会保障の権利としての社会権など	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
4	権利としての社会保障（2）：社会権の基礎、憲法14条との関連、社会権実現のための市民権の一定の制限など	①			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
5	優生思想・優生学と社会保障・社会福祉との関連：社会保障制度の中に優生思想、社会福祉創始達の優生思想など	①			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
6	貧困問題の大きさと生活保護制度、社会保障・社会福祉の財源問題	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
7	障がい者福祉（障害者総合支援法を中心に、障害者差別解消法等との関連させて）、社会福祉事業法の「改正」としての社会福祉法	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
8	高齢者「福祉」（公的介護保険法を中心に、老人福祉法及び高齢者雇用促進法などとも関連させて）	②			予め指定する左記の内容に関わる範囲の資料の熟読（120分）	講義内容とこれに関わる左記の範囲資料の再読（120分）
評価基準・評価方法						

最終のレポートによって評価する。講義内容の正確な理解に加えて、内容を表現する文章力も評価の対象とする。	
使用教科書	
教科書は使用せず、竹内が作成したレジュメ及び資料にそって講義を行う。	
参考図書	
必要に応じて、講義中に紹介する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義中に、適宜、質疑応答を行う。
備考	資料及びレジュメは、すべて、最初の講義時に配布する。

授業科目名		担当教員				
医療安全管理論		三品 弘司・皮野 さよみ・出口 睦雄・村上 秀和（代表教員 三品弘司)				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3)視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5)の達成に寄与している。		皮野さよみ（看護師・助産師）、三品弘司（看護師・保健師）、出口睦雄（看護師）、村上秀和（看護師）				
授 業 概 要						
医療の質と安全の確保は、患者、医療従事者をはじめとする多くの国民が願っていることである。近年、医療の安全確保に対する人々の関心が高くなり、医療安全は医療界の最優先課題となっている。作業療法の主要な業務である治療や指導及び援助は、障がいのある対象が主体的な生活の獲得の為に重要である一方、医療事故を起こすリスクを持ちながらの業務でもある。作業療法士にとって、医療安全や医療事故防止について修得することは必須である。まず医療安全管理を学ぶ意義を理解し、そのうえで人間がおこすエラーについての理解し、作業療法と医療事故との関連を学び、国、組織、個人における医療事故防止対策について学ぶ。医療事故やインシデントの分析手法を理解し、作業療法におけるKYTを行うことで、医療事故防止の感性を養う。また、多くの作業療法に関連した医療事故やインシデントを知ること、臨場感のある医療事故防止について学ぶ。また、感染防止対策も医療事故防止の一つとして学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
知識：①医療安全の基本的考え方と医療事故防止について述べることができる。 技術：②医療事故の分析手法やKYTを活用し、考察することができる。 態度：③医療安全管理に興味を持ち、取り組む姿勢を持つことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	医療事故とは	① ③	皮野	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
2	医療事故の考え方	① ③	皮野	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
3	組織的な安全管理体制	① ③	皮野	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
4	医療機能評価機構の取り組み	① ③	皮野	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
5	ヒューマンエラーの理論と防止対策	① ③	三品	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
6	ヒューマンエラーと作業能力	②	三品	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
7	療養上の世話の事故防止	① ③	三品	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
8	診療の補助と事故防止	① ③	三品	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
9	医療安全と5s活動	① ③	三品	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療安全とコミュニケーション	②	出口	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
11	KYTについて	②	三品	講義		授業プリントを用いて、講義の内容を復習すること（60分）
12	医療安全-演習①	②	三品 村上	講義 演習		KYTをまとめる（60分）
13	医療安全-演習②	②	三品 村上	講義 演習		KYTをまとめる（60分）
14	医療安全-演習③	②	三品 村上	講義 演習		KYTをまとめる（60分）
15	医療安全-演習④	②	三品 村上	講義 演習		KYTをまとめる（60分）
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
提出レポート（20%）、履修態度（10%）、筆記試験（70%）での総合評価						
使用教科書						
参考図書						
系統看護学講座 総合分野 医療安全（医学書院） 医療安全とリスクマネジメント（ヌーヴェルヒロカワ）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	レポートは、次回講義にて返却します。 質問等は、講義中や講義後にするようにしてください。					
備考	教科書は特別使用しないが、必要時書籍紹介する。授業は毎回、パワーポイント使用して進める。関連する教科と結び付けて学習し、単に知識に止まらず実践的能力として身につけてほしい。よって、積極的に学び取る姿勢で臨んでほしい。グループワークなどの演習も取り入れ出来るだけ参加型授業形態をとる。					

授業科目名		担当教員				
医学概論		千田 隆夫				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。						
授 業 概 要						
「医学概論」では、医療に携わる様々な職種の人たちが共通して知っていなければならない人体の知識や、医学・医療の発達の過程を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①医学・医療の歴史の概略と現状を説明できる。 ②人体の構造と機能の概略を説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	医学概論で何を学ぶか	①	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
2	医学の歴史—古代・中世の医学	①	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
3	医学の歴史—近世・近代・現代の医学	①	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
4	ヒトのからだの基本的な成り立ち	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
5	骨と関節	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
6	筋	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
7	消化器	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
8	呼吸器	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)
9	泌尿生殖器	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する(30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	心臓と血管とリンパ管	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する (30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する (30分)
11	内分泌腺	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する (30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する (30分)
12	感覚器と皮膚	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する (30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する (30分)
13	リンパ性器官	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する (30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する (30分)
14	脳と脊髄	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する (30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する (30分)
15	末梢神経	②	千田	講義	指定教科書の該当ページを通読する (30分)	講義で配布し、記入した資料を通読する (30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
定期試験（100％）で評価する。						
使用教科書						
56のクエスチョンでひも解くヒトのからだ / 千田隆夫・山口 瞬・小川名美.--アドスリー，2022年，978-4-910513-11-9 医療系学生のための解剖見学実習ノート / 千田隆夫・小村一也.--アドスリー，2020年，978-4-904419-96-0						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	試験の正解例を掲示する					
備考						

授業科目名		担当教員				
障害者概論		舟橋 和宏				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義・実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		舟橋和宏（小・中・特別支援学校教員）				
授 業 概 要						
障がいのある人々について最小限知っておくべき障がいの種類と程度、ライフサイクルに応じた支援の概要を知る。 障がい児の療育や教育の現場を見学し、障がい児の実情を肌で感じレポートにまとめる。 具体例を通して考え、交流することで、障がいのある人々の問題を自分とのかかわりでとらえる。						
学 修 の 到 達 目 標						
障がいの種類や特性についての理解を深めるとともに、障がいのある人々への適切な支援や対応を心がけることができる。 知識：①障がいの種類や特性について理解を深めることができる。 技能：②考えをまとめ、発表することができる。周りの考えを知ること、考えを深めることができる。 態度：③障がいのある人との適切な対応を心がけることができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	障がいについて 「障害」と「障がい」を考える、用語から	①		講義		・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
2	障がいの理解の動向 障がい種別と程度、A校長の対応を考える、「障害者分類」から「生活機能分類」に	① ②		講義	配付の新聞記事(2008.10)を読み、感想(気付いたこと、疑問)をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
3	障がい児・者① Aさんが通う学校について考える、視覚障がいと聴覚障がいの基礎知識、理解と支援	① ②		講義	配付資料①②③を読み、感想をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
4	身体障がい児・者② 池江さんのツイート文から考える、肢体不自由と病弱の基礎知識、理解と支援	① ②		講義	配付資料①を読み、感想をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
5	知的障がい児・者 知的障がいの基礎知識、知的障がい児の教科書を考える、理解と支援	① ②		講義	知的障がい特別支援学校・特別支援学級の教科書について調べる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
6	発達障がい児・者 発達障がいの基礎知識、女子大生殺人事件を考える、DSM-5における発達障がい、理解と支援	① ②		講義	配付の新聞記事(2015.5)を読み、感想(気付いたこと、疑問)をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
7	障がい者に関わる福祉関連法 主な福祉関連法の概要、現福祉関連法の背景を考える、「障害者差別解消法」について	① ②		講義	配付資料「障害者の権利に関する条約」を読み、感想をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
8	障がい児・者と人権 人権とは、Aさんについて考える、障がい者に関する人権問題(岐阜市人権啓発Cの出前講座を含む)	① ②		講義	配付の新聞記事(2020.7)を読み、感想(気付いたこと、疑問)をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)
9	合理的配慮と基礎的環境整備 A議員の国会初質問から考える、合理的配慮とは、合理的配慮の背景	① ②		講義	配付の新聞記事(2019.11)を読み、感想(気付いたこと、疑問)をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	施設見学・障がい者の就労と高齢化に対する支援 施設見学の注意事項、レポートの書き方 ・障がい者雇用問題を考える、ライフサイクル、就労者支援、高齢化問題	① ②		講義	配付の新聞記事(2018.10)を読み、感想(気付いたこと、疑問)をまとめる。(30分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。(30分)
11	施設見学① 岐阜県立岐阜盲学校 見学レポート	② ③		実習	「施設見学の注意事項」に目を通し、見学に必要なものを準備する。(60分)	
12	施設見学① 岐阜県立岐阜盲学校 見学レポート	② ③		実習		・施設見学を終えてのレポートを書く。(90分)
13	施設見学② 岐阜市立岐阜特別支援学校 見学レポート	② ③		実習	「施設見学の注意事項」に目を通し、見学に必要なものを準備する。(60分)	
14	施設見学② 岐阜市立岐阜特別支援学校 見学レポート	② ③		実習		・施設見学を終えてのレポートを書く。(90分)
15	医療従事者論 山本おさむ「どんぐりの家」から、障がい者大量殺害を考える、バーンアウトとその対応	① ②		講義	回覧の「どんぐりの家」を読み、気付いたことや疑問点をメモする。(90分)	・授業のまとめを読む。 ・キーワードを文章にまとめる。(30分)
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
筆記試験（80％）と施設見学のレポート（20％）で評価する。						
使用教科書						
教科書 なし 毎回レジュメを配布						
参考図書						
全国特別支援学校長会編著「フィリア」 ジアース教育新社2020 宮本信也他監修「特別支援教育の基礎」(改訂版) 東京書籍2017 山本おさむ「どんぐりの家」 小学館1993 「どんぐりの家」のデッサン 岩波書店2018						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	個々のレポートの誤りの訂正、疑問への回答などを添削し、4段階評価し返却する。 各回の授業終了時に、本時のキーワードを使用した箇条書きのまとめの発表を取り入れる。					
備考						

授業科目名		担当教員				
視覚障害リハビリテーション		棚橋 公郎・池谷 尚剛・川瀬 和秀（代表教員 棚橋 公郎）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		棚橋公郎（視覚障害リハビリテーション指導者）、池谷尚剛（視覚障害リハビリテーション指導者）、川瀬和秀（医師）				
授 業 概 要						
医療の発達により高齢社会となっている現在、生活習慣病や疾病により、中途視覚障害が増加している。そのため、眼科においてこの視覚障害者（ロービジョン）に対してのケアの重要度も増している。この視覚障害リハビリテーションでは、視覚入力系のしくみや視覚以外の情報の取り入れを理解し、視覚障害者（全盲・弱視）のリハビリテーション、ロービジョンケアのあり方、眼鏡の基礎と支援の在り方を学習する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視覚障害者・児の現状を理解し、医学的見地から視覚障害の課題を理解できる。 ②重複障害における検査の留意点を理解できる。 ③点字を学習することにより視覚障害の理解を深められる。 ④視覚障害者・児を取り巻く福祉・教育の制度について理解し、医学リハの基本を習得できる。 ⑤制度における補装具や日常生活用具について理解できる。 ⑥視覚障害（弱視）疑似体験を通じて、医療現場における視覚障害当事者への支援の在り方を理解できる。 ⑦視覚障害に関係する施設の見学と視覚障害当事者の心理を理解できる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ロービジョンケアの実際①	①	川瀬		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
2	ロービジョンケアの実際②	②	川瀬		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
3	点字学習①	③	棚橋		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
4	点字学習②	③	棚橋		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
5	視覚障害の制度①	④	池谷		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
6	視覚障害の制度②	④	池谷		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
7	視覚障害の制度③	⑤	棚橋		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
8	視覚障害の制度④	⑤	棚橋		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
9	視覚障害者・児の支援法①	⑥	池谷		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	視覚障害者・児の支援法②	⑥	池谷		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
11	視覚障害者・児の支援法③	⑥	池谷		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
12	視覚障害者・児の支援法④	⑥	池谷		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
13	社会資源の理解①	⑦	棚橋		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
14	社会資源の理解②	⑦	棚橋		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
15	社会資源の理解③	⑦	棚橋		新聞等で、視覚障害者の記事に注意を配ること。(30分)	配付資料の理解に努めるとともに、課題レポートを作成する。(30分)
	課題提出					
評価基準・評価方法						
課題提出（50%）、レポート及び小テスト（50%）で総合的に評価する。						
使用教科書						
講師が適宜配布する。						
参考図書						
同行援護従業者養成研修テキスト（中央法規出版）						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法						
備考						

授業科目名		担当教員				
視機能療法学概論		野原 尚美				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）				
授 業 概 要						
視機能療法学(視能矯正学)の学問体系と視能訓練士の倫理・教育・資質についての知識の修得をおこなう。講義は指定教科書に沿っておこなう。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視能矯正の理念について理解できる ②視能矯正の歴史が理解できる ③視能訓練士の定義、位置づけ、業務について説明することが出来る ④視能訓練士の倫理・教育・資質について理解することが出来る。 ⑤視能訓練士になるために必要な人間性とは何かを述べる事が出来る						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	視能矯正の理念 P198-201	①			教科書の該当ページを読み内容をまとめること 120分	講義後に与えられた課題を次回の講義までに実施すること 120分
2	視能矯正の歴史 P201-204	②			教科書の該当ページを読み内容をまとめること 120分	講義後に与えられた課題を次回の講義までに実施すること 120分
3	視能矯正の展開 1 P204-209	③			教科書の該当ページを読み内容をまとめること 120分	講義後に与えられた課題を次回の講義までに実施すること 120分
4	視能矯正の展開 2 P204-209	③			教科書の該当ページを読み内容をまとめること 120分	講義後に与えられた課題を次回の講義までに実施すること 120分
5	視能訓練士の倫理 P209-212	④			教科書の該当ページを読み内容をまとめること 120分	講義後に与えられた課題を次回の講義までに実施すること 120分
6	視能訓練士の教育、資質と適正 P212-214	④			教科書の該当ページを読み内容をまとめること 120分	講義後に与えられた課題を次回の講義までに実施すること 120分
7	視能訓練士の活躍の場	⑤			授業計画の内容について調べ学習すること 120分	講義後に与えられた課題を次回の講義までに実施すること 120分
8	診療報酬と保険点数について	⑤			授業計画内容について調べ学習をする 120分	講義後に与えられた課題を実施すること 120分
	定期試験					

評価基準・評価方法	
レポート100%	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
適宜紹介する。 必要時にはプリントを配布する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	課題を通してフィードバックを行う
備考	

授業科目名		担当教員				
基礎視機能矯正学Ⅰ（眼球運動、他）		丹沢 慶一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
外眼筋の作用と眼球運動、および開散輻輳と屈折、調節、AC/A比に係る機構機能について学ぶ。本科目で学習した知識は、後発して開講される視機能療法学分野の科目の理解に必要である。 授業は講義形式で、教科書に沿って進行する。講義中は重要なポイントを図説・解説し、必要だと思われる情報を適宜加える。 授業後は自身でも教科書を精読し、関連する事柄について成書等で調べ、その中から情報を拾い上げ整理するといった復習が必須である。この復習のプロセスは、知識の定着とともに、論理的思考力の育成を目的としている。復習実施の程度を測るために、小試験を適宜行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①外眼筋の作用と眼球運動の機構機能について、論理的に述べることができる。 ②輻輳・開散と屈折、調節、AC/A比の機構機能について、論理的に述べることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	外眼筋の単独作用（眼球模型作成）【教科書pp179】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
2	単眼運動とその法則、両眼共同運動（眼球模型作成）【教科書pp182】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
3	共同筋と拮抗筋【教科書pp183】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
4	外眼筋の神経支配、固視微動、自己受容器、筋の興奮と収縮【教科書pp184-187】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
5	輻輳開散、調節の種類【教科書pp188-192】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
6	輻輳開散、調節の測定【教科書pp192-193】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
7	輻輳開散、調節の障害【教科書pp194-195】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
8	AC/A比【教科書pp195-197】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：30分	復習：195分
	定期試験（筆記試験）					

評価基準・評価方法	
【定期試験】60% 【小試験】40%	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他. --第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
・視能学エキスパート 視能訓練学 ・図書館で適切な成書を探し, 参考書として用いること.	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小試験の実施後に解答解説をおこなう.
備考	

授業科目名		担当教員				
基礎視機能矯正学Ⅱ（眼位、両眼視）		丹沢 慶一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
物を見るときには両眼の視線をそろえ対象物をとらえることが大切である。そして両眼で捉えた画像を脳で同時に受け取り、一つにすることで物が立体的に見える。では、もし両眼の視線がそろわなくなった場合どうなるであろうか。ここでは、正常な眼位、両眼視機能を理解し、さらには眼位、両眼視機能の異常までを学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
① 正常両眼視機能について説明することができる ② 両眼視機能の異常について考えることができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	両眼視の定義、正常両眼視機能 視能学ページ：171－172	①			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
2	ホロプタ円、Panum融像圏 視能学ページ：172－173	①			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
3	同時視、融像、深径覚 視能学ページ：173－174	①			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
4	両眼視機能の発達、両眼視機能成立のための条件 視能学ページ：174	①			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
5	眼位、複視の種類 視能学ページ：169－170、175	②			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
6	眼位と複視の起こり方 視能学ページ：174-176	②			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
7	斜視における両眼視機能の異常 視能学ページ：177	②			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
8	網膜対応異常 視能学ページ：177-178	②			教科書の該当ページを読んで理解できない用語の意味を調べておくこと (120分)	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと (120分)
	定期試験（筆記試験）					

評価基準・評価方法	
講義主体となるため知識の理解、定着を測定するための小テスト、筆記試験にて判定する。 定期試験（筆記）60%、小テスト40%にて総合評価とする。	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他. --第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
適宜紹介するが、自身でも図書館で探し参考にすること。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義の中で課題の開設を加えたり、小試験の解説を加えフィードバックする。
備考	事前事後学習でノートを作成する際は、講義中に書き取ったノートの写しだけでなく、調べ学習を取り入れたノートにすることが望ましい。例えば、講義で出てきた内容に関係することや、分からなかったところなどを図書室を利用して専門書で調べ、その内容を加えて書くと授業内容がさらに深められる。

授業科目名		担当教員				
視覚生理学Ⅱ（応用）		松井 康樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
ヒトが外界から得る情報の80％は視覚から得ていると言われている。「視覚生理学」では、視覚、つまり「見る」システムの基本的な知識を学ぶ。眼球の中の網膜にうつた光が電気信号に変換され、大脳の視中枢に至る視覚伝導路の生理、網膜と視覚中枢内での階層的な構造と機能に基づく形態覚、色覚、光覚、立体視、運動視といった各種属性の神経機構に加えて、視野、電気生理学の基本的なことについて学ぶ。「視覚生理学Ⅱ」では、色覚、光覚、電気生理について発展的にディスカッションしながら学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①色の特性について判る ②色覚異常の種類と特徴について判る ③色覚検査について判る ④光覚について判る ⑤暗順応検査と夜盲症について判る ⑥眼科の電気生理学的検査の種類と適応等が判る ⑦ERGの種類と測定方法、異常波形と疾患が判る ⑧VEPの種類と測定方法、結果について判る ⑨EOGの種類と測定方法、異常の種類と疾患について判る ⑩ENGの種類と測定方法、異常の種類と疾患について判る ⑪EMGの種類と測定方法、異常の種類と疾患について判る						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	限界フリッカ値、色覚、色についての基礎知識、メカニズムと生理、P74-78	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
2	色覚異常 P78-82	③			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
3	色覚検査法 P82-85	③			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
4	光覚 網膜の光化学、分光視感度 明順応、昼盲、暗順応、夜盲、P86-89	④ ⑤			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
5	電気生理学 必要な基礎知識 P90-91	⑥			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
6	電気生理学 ERG P91-98	⑦			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
7	電気生理学 VEP 視能学P98-101	⑧			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
8	電気生理 EOG、ENG、EMG P101-105	⑨ ⑩ ⑪			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
	筆記試験					

評価基準・評価方法	
筆記試験60% 小テスト40%	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 現代の眼科学 / 所 敬監修.--金原出版, 978-4-307-35168-3	
参考図書	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストを返却しフィードバック
備考	

授業科目名		担当教員				
生理光学Ⅱ（眼球光学）		四之宮 佑馬				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(15時間)	講義・演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマ・ポリシー(2)(3) 視機能ディプロマ・ポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		四之宮佑馬（視能訓練士）				
授 業 概 要						
本科目は視機能療法学の学問体系における 基礎視能矯正学（生理光学）として 屈折・調節の検査、屈折・調節の矯正 および 屈折・調節に関連する計算式 を学ぶ。本科目で得た知識は、後発して開講される 視機能療法学分野の科目の 演習・講義 の理解に必要である。 授業は講義形式で、教科書に沿って進行する。講義中は重要なポイントを図説・解説し、必要だと思われる情報を適宜加える。 授業後は自身でも教科書を精読し、関連する事柄について成書等で調べ、その中から情報を拾い上げ整理するといった復習が必須である。この復習のプロセスは、知識の定着とともに、論理的思考力の育成を目的としている。復習実施の程度を測るために、小試験を適宜行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
<学修の到達目標> ①屈折・調節の異常について論理的に述べることができる。 ②屈折・調節の検査について論理的に述べることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	近視，遠視，乱視 【(1)教科書pp117-122】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
2	不同視・不等像視，老視 【(1)教科書pp122-125】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
3	オートレフラクトメーター，検影法 【(1)教科書pp126-130，(2)80-88，(3)54-67	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
4	自覚的屈折検査・レンズ交換法（雲霧法）【(2)教科書57-61，(3)74-79】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
5	自覚的屈折検査・レンズ交換法（クロスシリンダー法）【(2)教科書pp61-62，(3)82-87】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
6	オフサルモメーター，角膜形状解析，調節検査【(1)教科書pp131-140，(2)135-143，(3)89-93】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
7	レンズメーター，眼鏡【(1)教科書pp141-147，(2)106-108】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
8	コンタクトレンズ，眼内レンズ，屈折矯正手術【教科書pp147-158】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
	定期試験					

評価基準・評価方法	
【定期試験】100%	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 視能学エキスパート 視能検査学 第2版 / 公益財団法人 日本視能訓練士協会 (監修).--和田直子他--医学書院, 2023年, 978-4-260-05043-2 眼科検査ガイド 第3版 / 根木昭 (監修).--飯田知弘他--文光堂, 978-4-8306-5609-5	
参考図書	
図書館で最適な成書を探し, 参考図書として用いること.	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	各小試験の実施後に解答・解説をおこなう.
備考	

授業科目名		担当教員				
生理光学Ⅲ（屈折・調節）		磯谷 尚輝				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		磯谷尚輝（視能訓練士）				
授 業 概 要						
視能訓練士の外来業務の遂行に必要な光学・眼光学の知識を修得する。講義は指定教科書に沿ったスライドを作成し、問題形式で講義を進める。また講義後にスライド資料の配布を行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視能訓練士の業務遂行に必要な光学・眼光学に関して、解説することができる。 ②視能訓練士の業務遂行に必要な光学・眼光学の計算を正確におこなうことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼光学検査機器①	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
2	眼光学検査機器②	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
3	眼光学検査機器③	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
4	収差①	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
5	収差②	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
6	調節検査	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
7	近視治療	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
8	屈折矯正手術	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)
9	眼鏡	① ②			教科書の該当箇所(30分)	教科書及び講義資料の見返し(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	ソフトハードコンタクトレンズ	① ②			教科書の該当箇所 (30分)	教科書及び講義資料 の見返し (30分)
11	特殊コンタクトレンズ	① ②			教科書の該当箇所 (30分)	教科書及び講義資料 の見返し (30分)
12	眼内レンズ度数計算①	① ②			教科書の該当箇所 (30分)	教科書及び講義資料 の見返し (30分)
13	眼内レンズ度数計算②	① ②			教科書の該当箇所 (30分)	教科書及び講義資料 の見返し (30分)
14	眼内レンズ①	① ②			教科書の該当箇所 (30分)	教科書及び講義資料 の見返し (30分)
15	眼内レンズ②	① ②			教科書の該当箇所 (30分)	教科書及び講義資料 の見返し (30分)
	定期試験 筆記					
評価基準・評価方法						
〔定期試験〕90%, 〔各講義問題〕10%						
使用教科書						
視能学エキスパート 光学・眼鏡 / 日本視能訓練士協会監修.--医学書院, 2023年, 978-4-260-05044-9						
参考図書						
屈折異常とその矯正 (金原出版) 第7版 2019/1/29 ISBN4307351703 978-4307351706 必要時にはプリントを配布する。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎講義の前に前回の講義について質問の時間を設け、各講義においては十分な解説時間を設ける。講義のスライドについては各生徒に回答させるような問題形式で作成し知識の定着を図る					
備考						

授業科目名		担当教員				
薬理学		中村 信介				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		中村信介（薬剤師）				
授 業 概 要						
薬理学は、薬がどこに作用してどのようなメカニズムで効果を発揮するかを研究する学問であり、生理学、解剖学、生化学などの基礎的な知識とともに病態生理、薬物治療に関連する重要な科目である。まずは体の仕組み、各臓器や器官の働きを理解し、その上で生体内のホルモン・神経伝達物質・オータコイドなどの物質の働き、それらの刺激を受容する受容体を理解し、薬物による作用・拮抗作用について学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①薬の基本的な性質、作用、概念を説明できる ②自律神経系・感覚神経系による神経支配が説明できる。 ③免疫とアレルギーについてが説明できる。 ④生体の恒常性（ホメオスタシス）ならびにそれを維持するための薬物療法が説明できる。 ⑤眼科領域で使用する薬の作用機序ならびに副作用が説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	薬理学の基礎： 薬物とは、薬物療法	①			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
2	薬理学の基礎： 受容体・作用薬・拮抗薬	①			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
3	薬理学の基礎： 神経伝達物質・ホルモン・オータコイド	① ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
4	薬理学の基礎： 用量反応曲線、作用薬と拮抗薬の作用点・作用機序	①			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
5	薬理学の基礎： 体内動態、薬物の効果に影響を及ぼす要因	① ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
6	薬理学の基礎： 薬物の適用方法、副作用、処方箋、新薬開発の流れ、ジェネリック医薬品	① ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
7	末梢神経系： 神経とは、静止膜電位、活動電位の発生、神経興奮の伝導、シナプス	② ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
8	末梢神経系： コリン作動薬、局所麻酔薬の作用機序	② ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）
9	末梢神経系まとめ、抗がん薬	② ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。（30分）	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	免疫系： 免疫とは	③ ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。(30分)	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。(30分)
11	免疫系： 抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬	③ ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。(30分)	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。(30分)
12	免疫系： 感染症とは	③ ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。(30分)	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。(30分)
13	免疫系： 抗感染症薬、抗菌点眼薬	③ ④			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。(30分)	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。(30分)
14	眼科用薬	④ ⑤			教科書の該当箇所を事前に目を通しておくこと。(30分)	教科書およびプリント記載内容を復習すること。記述式テスト用に対策ノートを作ると良い。(30分)
15	総復習	① ～ ⑤			1回～14回までの授業プリントを再度見直しておくこと。(30分)	定期試験に向けて暗記ポイントをまとめる。(30分)
	定期試験 筆記	① ～ ⑤				
評価基準・評価方法						
中間試験（50％）と期末試験（50％）を用いて評価する。 8回の講義が終了した時点で中間テストを実施する。 15回の講義が終了した時点で期末テストを実施する。 ※新型コロナウイルス感染症等、状況によってはレポート課題に変更し、それに基づいて評価する。						
使用教科書						
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 / 吉岡 ほか. --第15版--医学書院, 2022年, 978-4-260-04716-6						
参考図書						
解剖生理学がわかる 飯島治之著 技術評論社						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	必要に応じて講義あるいはメールで対応する。					
備考	外部講師のため、質問などはメールにて連絡ください。その際は件名に「平成医療短期大学視能訓練学科薬理学」についてと記してください。メールは携帯のメールアドレスではなく、大学のメールアドレスから送信すること。本講義を受講して、薬の作用と副作用の概論、点眼薬の目的と作用・副作用を理解すること。 メールアドレス：nakamuras@gifu-pu.ac.jp					

授業科目名		担当教員				
基礎視機能矯正学特論Ⅰ（解剖と生理、視覚生理）		松井 康樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
最終学年となって、視能訓練士に必要な知識と技術をより確実なものにするために、視機能障害に対し、病態を把握し視機能検査、視機能訓練ができることを目指す。双方向で行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
1. 解剖と生理、視器の発達が解る。 2. 視覚生理、視機能検査、薬理学等を関連づけた知識としてある。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	視覚器の構成、眼球、現代の眼科学P2-5	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
2	眼球、視路、現代の眼科学P5-11	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
3	眼球附属器、眼の血管系、現代の眼科学 P11-17	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
4	眼の生理、眼の発生、現代の眼科学P17-27	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
5	眼科診療の手順、視力、視野 現代の眼科学 P28-49	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
6	色覚、現代の眼科学P49-53	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
7	光覚、眼の屈折、調節、輻輳開散、眼精疲労、現代の眼科学P53-69	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
8	瞳孔 ロービジョン、現代の眼科学P69-83	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）
9	眼瞼疾患、涙器疾患、現代の眼科学P84-101	① ②			関係することを学習する（30分）	知識を確実にするために理解し覚える（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	結膜、角膜、強膜疾患、現代の眼科学P102-135	① ②			関係することを学習する (30分)	知識を確実にするために理解し覚える (30分)
11	ぶどう膜疾患、現代の眼科学P136-167	① ②			関係することを学習する (30分)	知識を確実にするために理解し覚える (30分)
12	網膜硝子体疾患、現代の眼科学P168-193	① ②			関係することを学習する (30分)	知識を確実にするために理解し覚える (30分)
13	網膜硝子体疾患、現代の眼科学P193-227	① ②			関係することを学習する (30分)	知識を確実にするために理解し覚える (30分)
14	水晶体疾患、緑内障、視神経・視路疾患、現代の眼科学P228-285	① ②			関係することを学習する (30分)	知識を確実にするために理解し覚える (30分)
15	外眼筋疾患、眼窩疾患、全身疾患と眼、外傷、点眼、現代の眼科学P306-374	① ②			関係することを学習する (30分)	知識を確実にするために理解し覚える (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験100%						
使用教科書						
現代の眼科学 / 所 敬監修.--第13版--金原出版, 2018年, 978-4-307-35168-3 視能学 / 丸尾敏夫他.--第2版--文光堂, 978-4-8306-5539-5						
参考図書						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	授業内でフィードバックする					
備考						

授業科目名		担当教員				
基礎視機能矯正学特論Ⅱ（生理光学）		野原 尚美・丹沢 慶一（代表教員 野原 尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
基礎視機能矯正特論Ⅱでは、3年間で学んだ知識と臨地実習Ⅰ、Ⅱで学んだ臨床力を結びつけ、視能訓練士として必要な問題提議、並びに解決能力を高めることを目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①3年間の専門知識を結び付けて考えることが出来る ②何が問題で、どうすれば解決できるのかを考えることが出来る						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	生理光学の基礎	① ②	野原		今までに学んだ内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
2	屈折と調節の異常と検査 視能学P111～P138	① ②	野原		今までに学んだ内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
3	屈折と調節の矯正 視能学P139～P154	① ②	野原		今までに学んだ内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
4	屈折・調節に関連する計算式 視能学P155～P163	① ②	野原		今までに学んだ内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
5	視覚機能の基礎① 社会と医療P448～471	① ②	野原		該当ページを読み内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
6	視覚機能の基礎② ロービジョンと視能心理学P472～495	① ②	野原		該当ページを読み内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
7	視覚機能の基礎③ 眼科と基礎医学P496～507	① ②	野原		該当ページを読み内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
8	斜視の基本知識 視能学P312～P318	① ② ③	野原		該当ページを読み内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分
9	斜視の検査 視能学P319～P326	① ②	丹沢		該当ページを読み内容を復習しておくこと 30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと 30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	両眼視機能検査 視能学P335～P342	① ②	丹沢		該当ページを読み内容を復習しておくこと30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと30分
11	眼球運動検査 視能学P343～P354	① ②	丹沢		該当ページを読み内容を復習しておくこと30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと30分
12	斜視の各型 視能学P335～P366	① ② ③	丹沢		該当ページを読み内容を復習しておくこと30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと30分
13	斜視の治療 視能学P387～P409	① ② ③	丹沢		該当ページを読み内容を復習しておくこと30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと30分
14	弱視の基本知識 視能学P410～P419	① ② ③	丹沢		該当ページを読み内容を復習しておくこと30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと30分
15	弱視の検査と治療 視能学P420～P436	① ② ③	丹沢		該当ページを読み内容を復習しておくこと30分	講義内容を見直し分からない問題について解決しておくこと30分
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
筆記試験100%						
使用教科書						
視能学 第2版 / 小林義治 他--文光堂, 978-4-8306-5539-5 視能学エキスパート 視能訓練学 / 若山曉美 他--医学書院, 978-4-260-03223-0						
参考図書						
適宜紹介する						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	課題は予習・復習とし、講義内で質問等によりフィードバックする。					
備考	講義主体で行う。毎回の講義の復習を欠かすことなく着実に自分の知識にしていくこと。 質問は、オフィスアワーを活用し、自主的に学ぶこと。					

授業科目名		担当教員				
視機能療法学実験研究		丹沢 慶一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択必修	2年 通年	1単位 (30時間)	演習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマ・ポリシー(2) (3) 視機能ディプロマ・ポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
本科目は、視機能療法学領域の研究テーマを見つけ、データ収集・分析、プレゼンテーション、論文作成に至るまでの過程から論理的科学的思考を学ぶ。 授業にはディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、問題解決型学習および双方向授業の要素を取り入れて進行する。 なお、自主性・主体性を重要視する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視機能療法学領域の研究テーマを見つけることができる。 ②研究計画を立案することができる。 ③研究計画を基に、実験をおこなうことができる。 ④研究データを分析し、プレゼンテーションすることができる。 ⑤研究を論文としてまとめることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	研究の意義，倫理，利益相反，インフォームド・コンセント，個人情報の保護，不正行為，守秘義務	① ②			倫理，利益相反，インフォームド・コンセント，個人情報の保護，不正行為，守秘義務についての意味を調べる。30分	復習30分
2	研究テーマの選定①，文献検索の手法	①			一般的なインターネットの使用方の予習30分	復習30分
3	研究テーマの選定 ， 文献収集	①			検索テーマを考える。30分	復習30分
4	研究計画の立案①，文献抄読①	②			抄読論文の検索30分	復習30分
5	研究計画の立案	②			研究テーマを考える30分	まとめ30分
6	研究データ収集①	③			実験機器の準備30分	データまとめ30分
7	研究データ収集	③			実験機器の準備30分	データまとめ30分
8	研究データ統計の概要，研究データ中間分析	④			エクセルの使用方の確認30分	復習30分
9	研究データ収集③	③		講義	実験機器の準備30分	復習30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	研究データ収集④	③		講義	実験機器の準備30分	復習30分
11	研究データ分析④、プレゼンテーションの作成方法	④		講義	パワーポイントの使用 方法の確認30分	復習30分
12	研究データまとめ、プレゼンテーションでの報告	④		講義	報告の練習30分	復習30分
13	研究論文作成 緒言および方法	⑤		講義	緒言および方法の下 書き30分	論文加筆修正30分
14	研究論文作成 結果	⑤		講義	結果の下書き30分	論文加筆修正30分
15	研究論文作成 考按および結論	⑤		講義	考按および結論の下 書き30分	論文の加筆修正30分
	レポート提出					
評価基準・評価方法						
【レポート】40%（論文で評価） 【プレゼンテーション】30% 【受講態度・その他】30%（授業での積極性，協調性）						
使用教科書						
参考図書						
講義中に適宜示す。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	正課外時間に適宜対応する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
医療情報学		大庭 紀雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択必修	3年 後学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		大庭紀雄 (医師)				
授 業 概 要						
視能訓練士としての業務を実践するため必要な医療情報の獲得の方法、分析の方法、整理の方法と情報の評価の方法、発信の方法に必要な知識と技法を学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①医療情報の一般情報とは異なる側面について説明することが出来る。 ②医の倫理、医学研究の倫理を踏まえた医療情報獲得の方法を理解し、応用することが出来る。 ③診療情報の特殊性を熟知し、情報の獲得、記録、分析、利用に必要な知識と能力を身に付けることが出来る。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	この授業科目のシラバス（目標、計画）、進め方（学習ノート充実度点検、演習講義）、専用ノートの活用を説明する。	①		講義	パソコン、多機能携帯端末の使用に習熟しておくこと (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
2	医の倫理（ヘルシンキ宣言、リスボン宣言）患者との情報交換、医療面接、眼疾患主訴の特徴、検査情報	②		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
3	診療録Ⅰ．診療情報の守秘義務、診療録の保存と活用、電子カルテ（診療録に関係する医療法規）	②		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
4	診療録Ⅱ．診療録（電子カルテ）の書き方、読み方、視機能検査所見（視力、屈折、視や、眼位）の標準的記載法	②		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加パソコン、多機能携帯端末の使用に習熟しておくこと (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
5	視能訓練士と医師、看護師、医療従事者との情報交換	②		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
6	医療情報の取得（受信）Ⅰ．日本視能訓練士協会：日本視機能矯正学会。関連学会（弱視斜視学会、神経眼科学会）	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
7	医療情報の取得（受信）Ⅱ．雑誌（視能矯正学、眼科学）、関連国際雑誌、医療情報の国際化（小テスト、ノート点検）	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
8	医療情報の受信Ⅲ．データベース：医学中央雑誌、PubMed、Google scientific	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)
9	医療情報の受信Ⅳ．医学情報の質的評価：open study、randomized controlled trial（臨床治験、二重盲検試験）	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医学、医療情報のデータベース化：情報の検索法、整理法、分析と考察	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。(30分)
11	医療における日本語と英語：文献の検索法、文献の読み方	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。(30分)
12	視能訓練士が必要とする専門用語（和文、英文）：視能矯正、視能訓練関連用語集	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。(30分)
13	視能矯正、視能訓練関連 専門英語の語源、略語	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。(30分)
14	情報の発信Ⅰ、各種報告書の書き方、研究会、学会における発表（プレゼンテーション：展示発表、講演発表）	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。(30分)
15	情報の発信Ⅱ、学術論文（日本語、英語）のまとめ方と書き方、出版の方法。（小テスト、ノート点検）	③		講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する。(30分)
	授業計画終了直後：ノートの充実度評価、テイク試験（筆記試験、客観試験、選択5肢、ノート持ち込み可）					
評価基準・評価方法						
授業形態が講義主体だから、知識と理解の到達度の測定を評価基準とする。授業計画中に3回の小テスト、2回のノート点検を行うが、いずれも授業改善の参考にするための形成的意義を持つものである。課目の成績は、授業系アック終了後の「定期試験結果評価点：60%配分」および「学修ノートの充実度評価点（40%配分）」を総合評価下結果とする。						
使用教科書						
特になし						
参考図書						
特になし						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法						
備考		視能訓練士としての業務の現場に必要な医学・医療の情報の取得（受信）、分析と解釈、報告（発信）について説明する。 授業形態は講義とし、具体的事例を提示する。板書とハンドアウト（配布印刷物）を活用する。				

授業科目名		担当教員				
視覚生理学演習Ⅰ（視野検査他）		丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・野原 尚美・松井 康樹（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、野原尚美（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
各検査項目について、講義で学んだ知識をもとに、演習形式によって診療で実際に使用される検査機器を用いて、具体的な使用方法を確認した上で検査を実施し、得られた結果の分析と解釈をおこなうことで、各種視機能検査についての理解を深めることを目的とする。 加えて、各視機能検査の実施によって、明らかになった疑問点、改善点等を総括時にプレゼンテーションまたは質疑応答として積極的に発表することで意見を発信する力を向上させること、専攻内における互いの立場に応じた適切なコミュニケーションを身に付けることについても目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の原理を理解し、説明することができる。 ②各検査の方法を理解し、実施することができる。 ③検査の目的を理解し、常に考えながら実施することができる。 ④礼儀・礼節を備え、専攻内における互いの立場に応じた適切な言葉遣いと態度で演習に取り組むことができる。 ⑤各検査の正常値を理解し、実施した検査結果の分析を行うことができる。 ⑥総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ゴールドマン視野計Ⅰ（V/4e・Ⅰ/4e）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
2	ゴールドマン視野計Ⅰ（V/4e・Ⅰ/4e）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
3	ゴールドマン視野計Ⅰ（V/4e・Ⅰ/4e）	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
4	ハンフリー視野計Ⅰ	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
5	ハンフリー視野計Ⅰ	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
6	ハンフリー視野計Ⅰ	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
7	ERG	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
8	ERG	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
9	ERG	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	色覚検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
11	色覚検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
12	色覚検査	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
13	遠見・近見自覚的視力屈折検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
14	遠見・近見自覚的視力屈折検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
15	遠見・近見自覚的視力屈折検査	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
	実技試験		全員			
評価基準・評価方法						
課題40%、演習態度30%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）、実技試験30%で総合判定する。						
使用教科書						
眼科検査ガイド / 根木 昭.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5609-5 視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 視能学エキスパート 視能検査学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院, 978-4-260-05043-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。					

授業科目名		担当教員				
視覚生理学演習Ⅱ（電気生理）		丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・野原 尚美・松井 康樹（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
選択	2年 前学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、野原尚美（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
各検査項目について、講義で学んだ知識をもとに、演習形式によって診療で実際に使用される検査機器を用いて、具体的な使用方法を確認した上で検査を実施し、得られた結果の分析と解釈をおこなうことで、各種視機能検査についての理解を深めることを目的とする。 加えて、各視機能検査の実施によって、明らかになった疑問点、改善点等を総括時にプレゼンテーションまたは質疑応答として積極的に発表することで意見を発信する力を向上させること、専攻内における互いの立場に応じた適切なコミュニケーションを身に付けることについても目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の原理を理解し、説明することができる。 ②各検査の方法を理解し、実施することができる。 ③各検査の正常値を理解し、実施した検査結果の分析を行うことができる。 ④検査の目的を理解し、常に考えながら実施することができる。 ⑤臨地実習を視野に入れた手技、誠実な態度、コミュニケーション能力が身についている。 ⑥総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ゴールドマン視野計（正常視野）／オクルージョンテスト	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
2	ゴールドマン視野計（正常視野）／オクルージョンテスト	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
3	ゴールドマン視野計（正常視野）／オクルージョンテスト				検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
4	ハンフリー視野計Ⅱ	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
5	ハンフリー視野計Ⅱ	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
6	ハンフリー視野計Ⅱ				検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
7	AC/A比	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
8	AC/A比	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
9	AC/A比				検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	眼位・眼球運動Ⅱ（正切尺法・maddox正切尺法・red filter test・PAT）	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
11	眼位・眼球運動Ⅱ（正切尺法・maddox正切尺法・red filter test・PAT）	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
12	眼位・眼球運動Ⅱ（正切尺法・maddox正切尺法・red filter test・PAT）				検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
13	VEP	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
14	VEP	① ～ ④			授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
15	VEP				検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
	実技試験					
評価基準・評価方法						
課題40%、演習態度30%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）、実技試験30%で総合判定する。						
使用教科書						
眼科検査ガイド 第3版 根木昭 文光堂 ISBN978-4-8306-5609-5						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考						

授業科目名		担当教員				
生理光学演習Ⅰ（屈折検査）		丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・野原 尚美・松井 康樹（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 前学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、野原尚美（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
各検査項目について、講義で学んだ知識をもとに、演習形式によって診療で実際に使用される検査機器を用いて、具体的な使用方法を確認した上で検査を実施し、得られた結果の分析と解釈をおこなうことで、各種視機能検査についての理解を深めることを目的とする。 加えて、各視機能検査の実施によって、明らかになった疑問点、改善点等を総括時にプレゼンテーションまたは質疑応答として積極的に発表することで意見を発信する力を向上させること、専攻内における互いの立場に応じた適切なコミュニケーションを身に付けることについても目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の原理を理解し、説明することができる。 ②各検査の方法を理解し、実施することができる。 ③検査の目的を理解し、常に考えながら実施することができる。 ④礼儀・礼節を備え、専攻内における互いの立場に応じた適切な言葉遣いと態度で演習に取り組むことができる。 ⑤各検査の正常値を理解し、実施した検査結果の分析を行うことができる。 ⑥総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	自覚的屈折検査 雲霧法	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
2	自覚的屈折検査 雲霧法	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
3	自覚的屈折検査 雲霧法	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
4	検影法	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
5	検影法	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
6	検影法	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
7	自覚的屈折検査 クロスシリンダー法	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
8	自覚的屈折検査 クロスシリンダー法	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
9	自覚的屈折検査 クロスシリンダー法	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	自覚的調節検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
11	自覚的調節検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
12	自覚的調節検査	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
13	レンズメーター（単焦点）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
14	レンズメーター（単焦点）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
15	レンズメーター（単焦点）	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
	実技試験		全員			
評価基準・評価方法						
課題40%、演習態度30%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）、実技試験30%で総合判定する。						
使用教科書						
眼科検査ガイド 第3版 / 根木昭（監修）.--飯田知弘，他--文光堂，2022年，978-4-8306-5609-5 視能学エキスパート 視能検査学 第2版 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院，2023年，978-4-260-05043-2 視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂，2022年，978-4-8306-5608-8						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。					

授業科目名		担当教員				
生理光学演習Ⅱ（屈折矯正）		野原 尚美・國武 実里・丹沢 慶一・四之宮 佑馬・松井 康樹（代表教員 野原 尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
課題として示される症例の主訴をもとに、診断に結びつけるために必要な視機能検査を論理的に組み立てた後、各検査を実施、各検査結果の評価から明らかになった症例の病態をレポートとしてまとめる。主訴に応じた疾患の想起、論理的な鑑別方法の習得とともに、症例レポートの作成方法を学ぶ。また、各症例に対応するコミュニケーション手法についても学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①主訴に応じた疾患の想起ができる。 疾患の鑑別に必要な検査を論理的に組み立てることができる。 ③各症例に対する適切なコミュニケーションをもって正確な視機能検査が実施できる。 ④検査結果から症例の病態を把握できる。 ⑤症例レポートとしてまとめることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	課題 症例1 検査の組み立て	①	全員		これまでの講義・演習で学んだ視機能検査の目的・検査原理、疾患の病態をまとめる。：50分	主訴から想起される疾患の病態と診断に必要な検査をまとめる。：10分
2	課題 症例1 検査の実施	③	全員		各疾患の診断・病態評価に必要な検査の手法をまとめる。：50分	症例の検査結果をまとめる。：10分
3	課題 症例1 症例レポート作成	④ ⑤	全員		症例レポートの記載方法の確認。：10分	提出した症例レポートの指摘された点について加筆修正を加える。：50分
4	課題 症例2 検査の組み立て	①	全員		これまでの講義・演習で学んだ視機能検査の目的・検査原理、疾患の病態をまとめる。：50分	主訴から想起される疾患の病態と診断に必要な検査をまとめる。：10分
5	課題 症例2 検査の実施	③	全員		各疾患の診断・病態評価に必要な検査の手法をまとめる。：50分	症例の検査結果をまとめる。：10分
6	課題 症例2 症例レポート作成	④ ⑤	全員		症例レポートの記載方法の確認。：10分	提出した症例レポートの指摘された点について加筆修正を加える。：50分
7	課題 症例3 検査の組み立て	①	全員		これまでの講義・演習で学んだ視機能検査の目的・検査原理、疾患の病態をまとめる。：50分	主訴から想起される疾患の病態と診断に必要な検査をまとめる。：10分
8	課題 症例3 検査の実施	③	全員		各疾患の診断・病態評価に必要な検査の手法をまとめる。：50分	症例の検査結果をまとめる。：10分
9	課題 症例3 症例レポート作成	④ ⑤	全員		症例レポートの記載方法の確認。：10分	提出した症例レポートの指摘された点について加筆修正を加える。：50分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	課題 症例4 検査の組み立て	①	全員		これまでの講義・演習で学んだ視機能検査の目的・検査原理、疾患の病態をまとめる。：50分	主訴から想起される疾患の病態と診断に必要な検査をまとめる。：10分
11	課題 症例4 検査の実施	③	全員		各疾患の診断・病態評価に必要な検査の手法をまとめる。：50分	症例の検査結果をまとめる。：10分
12	課題 症例4 症例レポート作成	④ ⑤	全員		症例レポートの記載方法の確認。：10分	提出した症例レポートの指摘された点について加筆修正を加える。：50分
13	課題 症例5 検査の組み立て	①	全員		これまでの講義・演習で学んだ視機能検査の目的・検査原理、疾患の病態をまとめる。：50分	主訴から想起される疾患の病態と診断に必要な検査をまとめる。：10分
14	課題 症例5 検査の実施	③	全員		各疾患の診断・病態評価に必要な検査の手法をまとめる。：50分	症例の検査結果をまとめる。：10分
15	課題 症例5 症例レポート作成	④ ⑤	全員		症例レポートの記載方法の確認。：10分	提出した症例レポートの指摘された点について加筆修正を加える。：50分
	試験の実施はしない。					
評価基準・評価方法						
症例レポート70%, Progress note30%.						
使用教科書						
眼科検査ガイド / 根木 昭 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5609-5 視能学 第3版 / 丸尾敏夫, 他--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 視能学エキスパート 視能検査学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院, 978-4-260-03258-2 視能学エキスパート 視能訓練学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院, 978-4-260-03223-0 現代の眼科学 改訂第13版 / 所敬 (監修) .--谷原秀信, 他--金原出版, 978-4-307-35168-3						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	提出されたレポートに記載する。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。					

授業科目名		担当教員				
眼薬理学		大庭 紀雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		大庭紀雄 (医師)				
授 業 概 要						
眼科の診療や視能矯正や視能訓練の対象となるさまざまな疾病や病態の検査・診断・治療のために用いられる薬剤、薬物のあらましを学習する。具体的には、各種点眼薬、内服薬、注射薬に加えて各種の検査に用いられる薬剤の薬理や薬効、投与方法、副作用について講義する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①点眼薬の作用、使用法の特徴について説明することができる。 ②散瞳薬、調節麻痺薬の代表的薬剤の作用機序、点眼方法、薬効、適応疾患、副作用を述べることができる。 ③点眼、結膜下注射、眼内注射、球後注射による薬剤投与方法の調書・短所、適応疾患を説明することができる。 ④点眼麻酔薬の代表的薬剤、適応を述べる事が出来る。 ⑤検査薬を理解し、その適応について述べる事が出来る。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	シラバスの説明、眼疾患における薬剤投与Ⅰ、局所投与（点眼、局所注射）	①			授業の開始時に「学習ノート」を配布する	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（60分）
2	眼疾患における薬剤投与Ⅱ、全身投与	①			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
3	瞳孔薬（自律神経薬）：眼底検査と散瞳薬：トロピカミド、エピネフリン	②			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
4	屈折・調節検査と薬剤（自律神経薬）：塩酸シクロペントラート、硫酸アトロピン：副作用	②			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
5	眼圧下降薬：ベータブロッカー：プロスタグランディン製剤：炭酸脱水酵素阻害薬：高浸透薬	③			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
6	抗菌薬、抗ウイルス薬（アシクロビル）。抗アレルギー薬、副腎皮質ステロイド薬、非ステロイド系抗炎症薬	③			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
7	代謝拮抗薬、免疫抑制薬、抗血管因子増殖薬	③			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
8	麻酔薬：塩酸オキシプロカイン、生体染色用薬剤：フロレセイン染色、ローズベンガル染色	④			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
9	蛍光眼底造影検査：フルオレセインナトリウム、インドシアニングリーン	⑤			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	演習講義：瞳孔薬、調節麻痺薬	④			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する (30分)
11	演習講義：眼圧降下薬、抗菌薬、抗ウイルス薬	④			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する (30分)
12	薬効評価、臨床試験、薬剤の副作用、有害効果	④			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する (30分)
13	薬剤の処方、投薬のコンプライアンス	④			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する (30分)
14	環境汚染物質と眼	④			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する (30分)
15	薬物の副作用について	④			前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加 (30分)	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する (30分)
	授業終了時に「学習ノート」の点検評価、定期試験（筆記）を行う。					
評価基準・評価方法						
折にふれて形成的評価を行って学習成果の向上をはかる。講義終了時には、単位認定試験として眼の薬理学や主要な薬剤について十分に理解しているかどうかを評価する。試験はノート持ち込み可能で、客観式問題を出題する。試験の範囲は講義で扱った部分に限る。「学習ノート」の評価・(40%) 定期試験の成績 (60%)						
使用教科書						
特になし						
参考図書						
特になし						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法						
備考		上記の授業計画に基づいて、薬剤の効果、作用機序、適応となる検査や病態、副作用を学習する。講義のキーとなる内容は板書する。この科目の「学習ノート」に講義内容をノートすることが大切である。箇条書きではなく、独自の文章を作成すること。自分だけのノートを創作したいものである。				

授業科目名		担当教員				
視機能検査学演習Ⅰ（眼科一般検査）		丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・野原 尚美・松井 康樹（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、野原尚美（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
各検査項目について、講義で学んだ知識をもとに、演習形式によって診療で実際に使用される検査機器を用いて、具体的な使用方法を確認した上で検査を実施し、得られた結果の分析と解釈をおこなうことで、各種視機能検査についての理解を深めることを目的とする。 加えて、各視機能検査の実施によって、明らかになった疑問点、改善点等を総括時にプレゼンテーションまたは質疑応答として積極的に発表することで意見を発信する力を向上させること、専攻内における互いの立場に応じた適切なコミュニケーションを身に付けることについても目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の原理を理解し、説明することができる。 ②各検査の方法を理解し、実施することができる。 ③検査の目的を理解し、常に考えながら実施することができる。 ④礼儀・礼節を備え、専攻内における互いの立場に応じた適切な言葉遣いと態度で演習に取り組むことができる。 ⑤各検査の正常値を理解し、実施した検査結果の分析を行うことができる。 ⑥総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	外眼部検査（瞼裂幅・眼瞼挙筋機能・眼球突出度）・眼圧検査	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）
2	外眼部検査（瞼裂幅・眼瞼挙筋機能・眼球突出度）・眼圧検査	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）
3	外眼部検査（瞼裂幅・眼瞼挙筋機能・眼球突出度）・眼圧検査	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
4	細隙灯顕微鏡検査、涙液検査	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）
5	細隙灯顕微鏡検査、涙液検査	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）
6	細隙灯顕微鏡検査、涙液検査	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
7	眼底カメラ（無散瞳）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）
8	眼底カメラ（無散瞳）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）
9	眼底カメラ（無散瞳）	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	光干渉断層計 (OCT)、Amslerチャート、M-CHARTS、臨界融合頻度検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)
11	光干渉断層計 (OCT)、Amslerチャート、M-CHARTS、臨界融合頻度検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)
12	光干渉断層計 (OCT)、Amslerチャート、M-CHARTS、臨界融合頻度検査	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
13	超音波検査 (Aモード、Bモード)、光学式眼軸長検査、角膜内皮検査、ケラトメーター	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)
14	超音波検査 (Aモード、Bモード)、光学式眼軸長検査、角膜内皮検査、ケラトメーター	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)
15	超音波検査 (Aモード、Bモード)、光学式眼軸長検査、角膜内皮検査、ケラトメーター	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
	実技試験		全員			
評価基準・評価方法						
課題40%、演習態度30%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）、実技試験30%で総合判定する。						
使用教科書						
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 眼科検査ガイド 第3版 / 根木昭監修.--飯田知弘、近藤峰生、中村誠、山田昌和--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5609-5						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。					

授業科目名		担当教員				
視機能検査学演習Ⅱ（両眼視機能検査）		丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・野原 尚美・松井 康樹（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(30時間)	演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、野原尚美（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
各検査項目について、講義で学んだ知識をもとに、演習形式によって診療で実際に使用される検査機器を用いて、具体的な使用方法を確認した上で検査を実施し、得られた結果の分析と解釈をおこなうことで、各種視機能検査についての理解を深めることを目的とする。 加えて、各視機能検査の実施によって、明らかになった疑問点、改善点等を総括時にプレゼンテーションまたは質疑応答として積極的に発表することで意見を発信する力を向上させること、専攻内における互いの立場に応じた適切なコミュニケーションを身に付けることについても目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の原理を理解し、説明することができる。 ②各検査の方法を理解し、実施することができる。 ③検査の目的を理解し、常に考えながら実施することができる。 ④礼儀・礼節を備え、専攻内における互いの立場に応じた適切な言葉遣いと態度で演習に取り組むことができる。 ⑤各検査の正常値を理解し、実施した検査結果の分析を行うことができる。 ⑥総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼位・眼球運動Ⅰ（角膜反射・定性検査・定量検査）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
2	眼位・眼球運動Ⅰ（角膜反射・定性検査・定量検査）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
3	眼位・眼球運動Ⅰ（角膜反射・定性検査・定量検査）	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
4	両眼視機能検査（網膜対応・立体視）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
5	両眼視機能検査（網膜対応・立体視）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
6	両眼視機能検査（網膜対応・立体視）	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
7	大型弱視鏡（同時視・融像・立体視）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
8	大型弱視鏡（同時視・融像・立体視）	①～④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
9	大型弱視鏡（同時視・融像・立体視）	④～⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	HESS赤緑試験・大型弱視鏡9方向・眼球運動検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
11	HESS赤緑試験・大型弱視鏡9方向・眼球運動検査	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
12	HESS赤緑試験・大型弱視鏡9方向・眼球運動検査	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
13	注視野検査（単眼・両眼）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
14	注視野検査（単眼・両眼）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
15	注視野検査（単眼・両眼）	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
	実技試験		全員			
評価基準・評価方法						
課題40%、演習態度30%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）、実技試験30%で総合判定する。						
使用教科書						
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 眼科検査ガイド 第3版 / 根本昭監修.--飯田知弘、近藤峰生、中村誠、山田昌和--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5609-5 視能学エキスパート 視能検査学 第2版 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院, 2023年, 978-4-260-05043-2 視能学エキスパート 視能訓練学 第2版 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院, 2023年, 978-4-260-05040-1						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。					

授業科目名		担当教員				
視機能検査学演習Ⅲ（眼位検査）		丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・野原 尚美・松井 康樹（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、野原尚美（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
各検査項目について、講義で学んだ知識をもとに、演習形式によって診療で実際に使用される検査機器を用いて、具体的な使用方法を確認した上で検査を実施し、得られた結果の分析と解釈をおこなうことで、各種視機能検査についての理解を深めることを目的とする。 加えて、各視機能検査の実施によって、明らかになった疑問点、改善点等を総括時にプレゼンテーションまたは質疑応答として積極的に発表することで意見を発信する力を向上させること、専攻内における互いの立場に応じた適切なコミュニケーションを身に付けることについても目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の原理を理解し、説明することができる。 ②各検査の方法を理解し、実施することができる。 ③検査の目的を理解し、常に考えながら実施することができる。 ④礼儀・礼節を備え、専攻内における互いの立場に応じた適切な言葉遣いと態度で演習に取り組むことができる。 ⑤各検査の正常値を理解し、実施した検査結果の分析を行うことができる。 ⑥総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼位・眼球運動Ⅲ（向き眼位定量・BHRT）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
2	眼位・眼球運動Ⅲ（向き眼位定量・BHRT）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
3	眼位・眼球運動Ⅲ（向き眼位定量・BHRT）	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)
4	眼鏡処方（遠見）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
5	眼鏡処方（遠見）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
6	眼鏡処方（遠見）	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)
7	回旋偏位定量（シノプト・Maddox double rod test・new cyclo test）・γ角定量	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
8	回旋偏位定量（シノプト・Maddox double rod test・new cyclo test）・γ角定量	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
9	回旋偏位定量（シノプト・Maddox double rod test・new cyclo test）・γ角定量	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	眼鏡処方（近見）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
11	眼鏡処方（近見）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
12	眼鏡処方（近見）	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)
13	縞視力・乳幼児の視力検査・対数視力・コントラスト	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
14	縞視力・乳幼児の視力検査・対数視力・コントラスト	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。（5分）
15	縞視力・乳幼児の視力検査・対数視力・コントラスト	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること、検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)
	実技試験		全員			
評価基準・評価方法						
課題40%、演習態度30%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）、実技試験30%で総合判定する。						
使用教科書						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。					

授業科目名		担当教員				
視機能検査学演習Ⅳ（眼運動系検査）		野原 尚美・丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・松井 康樹（代表教員 野原 尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
第1回から9回までは、これまでの各講義で学んだ内容を元に、演習形式によって診療で実際に使用される検査機器を用いて、各種視機能検査についての理解を深める。各機械の使用手法、検査結果の分析と解釈を習得することを目的とする。 第10回から12回は平野総合病院眼科において、視能訓練士実務の見学と患者への検査を実施から、視能訓練士業務の実践を学ぶ。 第13回から15回車椅子を使用する患者の誘導や検査の方法について学ぶ。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の原理を理解し、説明することができる。 ②各検査の方法を理解し、実施することができる。 ③検査の目的を理解し、常に考えながら実施することができる。 ④礼儀・礼節を備え、専攻内における互いの立場に応じた適切な言葉遣いと態度で演習に取り組むことができる。 ⑤各検査の正常値を理解し、実施した検査結果の分析を行うことができる。 ⑥総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。 ⑦視能訓練士の業務の実践を知り、自身に不足する能力を上げることができる。 ⑧車いす利用者の誘導介助を実施することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ゴールドマン視野計（異常視野）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
2	ゴールドマン視野計（異常視野）	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
3	ゴールドマン視野計（異常視野）	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
4	自覚的視力・屈折検査の臨床的手法	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
5	自覚的視力・屈折検査の臨床的手法	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
6	自覚的視力・屈折検査の臨床的手法	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）
7	大型弱視鏡訓練	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
8	大型弱視鏡訓練	① ～ ④	全員		授業計画にある検査項目について、関連講義の復習と教科書を用いた事前学習を行い、演習当日にスムーズに演習に取りかかることができるよう、知識をまとめておくこと。（55分）	検査結果をまとめておくこと。（5分）
9	大型弱視鏡訓練	④ ～ ⑥	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。（5分）	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。（55分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	平野総合病院眼科見学実習	④ ⑦	全員		これまでに学習した検査理論と手技をまとめておくこと。 (30分)	見学・実習によって学んだ事柄をまとめておくこと。 (30分)
11	平野総合病院眼科見学実習	④ ⑦	全員		これまでに学習した検査理論と手技をまとめておくこと。 (30分)	見学・実習によって学んだ事柄をまとめておくこと。 (30分)
12	平野総合病院眼科見学実習	④ ⑦	全員		これまでに学習した検査理論と手技をまとめておくこと。 (30分)	見学・実習によって学んだ事柄をまとめておくこと。 (30分)
13	車いす利用者の誘導・介助方法	⑧	全員		車いす利用者の誘導・介助方法を図書館の成書等を用いて予習しておくこと。 (30分)	車いす利用者の誘導・介助方法の演習から学んだことをまとめておくこと。 (30分)
14	車いす利用者の誘導・介助方法	⑧	全員		車いす利用者の誘導・介助方法を図書館の成書等を用いて予習しておくこと。 (30分)	車いす利用者の誘導・介助方法の演習から学んだことをまとめておくこと。 (30分)
15	車いす利用者の誘導・介助方法	⑧	全員		車いす利用者の誘導・介助方法を図書館の成書等を用いて予習しておくこと。 (30分)	車いす利用者の誘導・介助方法の演習から学んだことをまとめておくこと。 (30分)
	実技試験		全員			
評価基準・評価方法						
課題40%、演習態度30%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）、実技試験30%で総合判定する。						
使用教科書						
視能学 第3版 / 丸尾敏夫, 他--文光堂, 978-4-8306-5608-8 視能学エキスパート 視能検査学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院, 978-4-260-03258-2 視能学エキスパート 視能訓練学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院, 978-4-260-03223-0 眼科検査ガイド 第3版 / 根木昭 (監修) .--飯田知弘, 他--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5609-5 適宜配布。						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。 ・第10から第12回までの平野総合病院眼科の出席には、臨地実習ⅠおよびⅡと同様の身だしなみが必須である。					

授業科目名		担当教員			
画像診断学		四之宮 佑馬			
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態		
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)	講義 オムバス		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員			
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		四之宮佑馬（視能訓練士）			
授 業 概 要					
最近の眼科検査機器の進歩は目覚ましく、種々の機器を駆使して眼球を隈なく見ることができ、診断や経過観察に重要な役割を果たしている。本講義では、種々の機器の検査結果から疾患を読み取る能力を身につけることを目的とする。疾患の診断は医師によって行われるが、疾患により測定箇所や測定方法が異なることがあり、各種疾患の検査結果の特徴を知ることによって正確で適切な検査につながると考える。また、画像診断で発見される構造的異常と視力や視野などの機能的異常の関連性についても解説する。必要に応じて検査手法を実践しながら習得する。 本講義では、「思考力」、「判断力」、「表現力」を育成するために、グループワークやディスカッション形式の講義も取り入れる。					
学 修 の 到 達 目 標					
①検査の目的、原理、限界、方法を理解し、説明することができる。 ②正常検査データを理解し、説明することができる。 ③疾患別の検査結果の特徴を理解し、説明することができる。 ④疾患別の測定上の注意点を理解し、応用することができる。					
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習 事後学習
1	光干渉断層計の結果の見方Ⅰ：眼科検査ガイド P500-592	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
2	光干渉断層計の結果の見方Ⅱ：眼科検査ガイド P500-592	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
3	光干渉断層計の結果の見方Ⅲ：眼科検査ガイド P500-592	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
4	光干渉断層計の結果の見方Ⅳ：眼科検査ガイド P500-592	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
5	光干渉断層計の結果の見方Ⅴ：眼科検査ガイド P500-592	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
6	眼底写真と蛍光眼底造影の結果の見方Ⅰ：眼科検査ガイドP594-644	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
7	眼底写真と蛍光眼底造影の結果の見方Ⅱ：眼科検査ガイドP594-644	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
8	異常視野の測定方法と結果の見方Ⅰ：眼科検査ガイドP238-328	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
9	異常視野の測定方法と結果の見方Ⅱ：眼科検査ガイドP238-328	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。 修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	異常視野の測定方法と結果の見方Ⅲ：眼科検査ガイドP238-328	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。	修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
11	前眼部写真の撮影方法と結果の見方Ⅰ（眼位）：視能検査学P253-255	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。	修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
12	前眼部写真の撮影方法と結果の見方Ⅱ（眼振）：視能学P456-462	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。	修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
13	前眼部写真の撮影方法と結果の見方Ⅲ（瞳孔）：視能検査学P165-173	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。	修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
14	前眼部写真の撮影方法と結果の見方Ⅳ（角膜形状解析）：視能検査学P165-173	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。	修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
15	眼窩画像検査：P678-698	① ② ③ ④			視機能検査学Ⅰ・Ⅱで修得した該当項目の基礎知識について復習しておくこと。	修得した知識を実践に活用できるように復習しておくこと。 (30分)
	定期試験					
評価基準・評価方法						
定期試験100%						
使用教科書						
眼科検査ガイド 第3版 / 根木 昭監修.--文光堂, 2022年, ISBN 978-4-8306-5609-5 視能学 第3版 / 丸尾敏夫.--文光堂, 2022年, ISBN 978-4-8306-5608-8 視能検査学 / 和田 直子、小林 昭子、中川 真紀、若山 暁美--医学書院, 2018年, 978-4-2600-3258-2						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストを行い知識の定着度を確認し、講義時に総評を口頭にて行う。					
備考						

授業科目名		担当教員				
眼疾病学Ⅰ（眼球、眼球付属器他）		松井 康樹・内田 英哉・望月 清文（代表教員 松井 康樹）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）、内田英哉（医師）、望月清文（医師）				
授 業 概 要						
1年次の「視器の解剖と生理」で修得した知識に基づいて、視能訓練士としての業務に必要な多種多様の眼疾患の原因、病態検査、診断の全般を学ぶ。特に視機能矯正学や視機能訓練学に直結する疾病を重点的にとりあげる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視力をはじめ視機能の障害をきたす重要な疾病を列挙し、原因、病態、症候、検査、診断、治療を説明することができる。 ②小児期に起こりやすい疾病の検査法や訓練法の特殊性を理解し、検査や訓練の実際を説明することができる。 ③加齢に伴う眼疾患の臨床像、検査、治療を説明することができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	結膜・角膜疾患	① ② ③	望月		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
2	結膜・角膜疾患	① ② ③	望月		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
3	眼瞼・涙器	① ② ③	松井		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
4	結膜疾患	① ② ③	松井		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
5	結膜疾患	① ② ③	松井		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
6	角膜疾患	① ② ③	松井		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
7	角膜疾患	① ② ③	松井		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
8	眼感染症	① ② ③	内田		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）
9	眼感染症	① ② ③	内田		教科書の該当ページに目を通す（30分）	教授された内容を覚え理解すること（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	眼感染症	① ② ③	内田		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解すること (30分)
11	眼感染症	① ② ③	内田		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解すること (30分)
12	水晶体疾患	① ② ③	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解すること (30分)
13	水晶体疾患	②	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解すること (30分)
14	問診と検査	②	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解すること (30分)
15	問診と検査	②	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解すること (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験 (筆記試験) 100%						
使用教科書						
現代の眼科学 第13版 / 所 敬.--吉田晃敏、谷原秀信--金原出版, 978-4-307-35168-3						
参考図書						
プリントを配布する場合あり						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	全体の総評コメントを口頭または掲示にて公開する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
眼疾病学Ⅱ（遺伝性眼疾患、小児眼疾患他）		松井 康樹・内田 英哉・澤田 明（代表教員 松井 康樹）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）、内田英哉（医師）、澤田明（医師）				
授 業 概 要						
1 年次の「視器の解剖と生理」で修得した知識に基づいて、視能訓練士としての業務に必要な多種多様の眼疾患の原因、病態検査、診断の全般を学ぶ。特に視機能矯正学や視機能訓練学に直結する疾病を重点的にとりあげる。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視力をはじめ視機能の障害をきたす重要な疾病を列挙し、原因、病態、症候、検査、診断、治療を説明することができる。 ②小児期に起こりやすい疾病の検査法や訓練法の特殊性を理解し、検査や訓練の実際を説明することができる。 ③加齢に伴う眼疾患の臨床像、検査、治療を説明することができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	問診と眼疾患	① ② ③	内田		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
2	問診と眼疾患	① ② ③	内田		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
3	ぶどう膜疾患	① ③	松井		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
4	ぶどう膜疾患	① ③	松井		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
5	網膜疾患	① ③	松井		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
6	網膜疾患	① ③	松井		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
7	視神経、視路の疾患	① ③	松井		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
8	視神経、視路の疾患	① ③	松井		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）
9	眼圧・緑内障	① ③	澤田		教科書の該当ページ に目を通す（30分）	教授された内容を覚え 理解する（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	眼圧・緑内障	① ③	澤田		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解する (30分)
11	眼圧・緑内障	① ③	澤田		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解する (30分)
12	小児眼疾患	②	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解する (30分)
13	遺伝性眼疾患	②	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解する (30分)
14	遺伝性眼疾患	②	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解する (30分)
15	心因性視覚障害	②	松井		教科書の該当ページに目を通す (30分)	教授された内容を覚え理解する (30分)
	定期試験 (筆記)					
評価基準・評価方法						
定期試験 (筆記試験) 100%						
使用教科書						
現代の眼科学 第13版 / 所 敬.--吉田晃敏、谷原秀信--金原出版, 978-4-307-35168-3						
参考図書						
プリントを配布する場合あり						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	全体の総評コメントを口頭または掲示にて公開する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
神経眼科学		大庭 紀雄・丹沢 慶一（代表教員 大庭 紀雄）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義・演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		大庭紀雄（医師）、丹沢慶一（視能訓練士）				
授業概要						
視能矯正や視能訓練の実践に必要な神経眼科学の知識を学習する。網膜、視神経から視路、第1次視覚野、視覚連合野までの感覚知覚系、眼球運動系、瞳孔調節系の疾病に関わる解剖と生理と病理と検査法と治療法を学ぶ。1年次後学期「解剖（神経系）」に基礎をおいて、2年次「眼疾病学」に繋がる専門科目である。						
学修の到達目標						
①視覚刺激の入力と応答にかかわる視神経、視路、視覚野の構造と機能を説明することができる。 ②眼球運動の発現制御機構、脳神経や外眼筋の構造と機能を説明することができる。 ③瞳孔、調節に関わる自律神経の構造と機能、虹彩や毛様体の構造と機能を説明することができる。 ④眼瞼の運動に関わる神経、筋およびその病態を説明することができる。 ⑤神経眼科疾患の病態、臨床事項について視能訓練士が直面する問題を説明することができる。 ⑥神経眼科学の領域、眼科学における位置を説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	授業計画（シラバス）の説明、学習目標、到達目標、当該科目の医療、特に眼科における位置を説明する。	⑥	丹沢	講義	授業の開始時に「学習ノート」を配布する	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
2	瞳孔の解剖と生理；虹彩の平滑筋、自律神経、対光、近見、精神の各反射経路、Edinger-Westphal 核	③	丹沢	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
3	瞳孔の検査法と瞳孔異常：相対的求心性瞳孔反応異常（RAPD）；瞳孔不同；Horner症候群；瞳孔緊張症	③	丹沢	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
4	視神経の解剖・生理・病理：視神経炎、虚血性視神経症；レーベル遺伝性視神経症、多発性硬化症、視神経脊髄炎	①	丹沢	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
5	視交叉部の解剖・生理・病理： 両耳側半盲（脳下垂体腺腫）	①	丹沢	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
6	視路の解剖・生理・病理：視野検査（同名半盲）、黄斑回避	①	丹沢	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
7	第1次視覚野、連合野の解剖・生理・病理：視覚情報処理の背側経路と腹側経路、	①	丹沢	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
8	演習講義：視覚系異常： 視力、視野、色覚、瞳孔、電気生理学（網膜電図、視覚誘発脳波）、神経画像検査	①	丹沢	演習	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
9	演習講義；眼球運動系の解剖・生理・病理：脳神経（動眼神経、滑車神経、外転神経）、外眼筋	②	大庭	演習	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	演習講義；眼球運動異常 1. 末梢神経障害（核下性麻痺）、麻痺性斜視、大型弱視鏡、Hess 赤緑試験	②	大庭	演習	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
11	演習講義；眼球運動異常 2. 核上性眼球運動障害：注視麻痺（共同運動異常）、Parinaud 症候群	②	大庭	演習	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
12	機械的の眼球運動障害：強度近視性固定斜視、甲状腺眼症、Brown 症候群、眼窩底骨折	②	大庭	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
13	眼瞼の運動に関わる神経、筋	④	大庭	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
14	全身疾患と神経眼科：多発性硬化症、脳血管障害、脳腫瘍、心因性視覚障害	⑤	大庭	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（30分）
15	神経眼科疾患の診断と治療 総括	⑤	大庭	講義	前回学習事項の確認、ノートの点検・整理・加筆・修正、新知識追加（30分）	今回授業において作成したノートを読み返して、文章形式で分かりやすい形式で整理する（60分）
	授業終了直後：ノート充実度点検評価、定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
授業形態は講義である。知識獲得の到達度測定値を評価基準とする。随時行う「演習講義」においては、国試準拠客観試験問題10題ほどを提示、回答を求めてから解説する。いずれも形成的意義をもつものである。単位認定と成績判定には、授業計画終了直後の「学習ノート内容充実度評価点」（40%配分）および「定期試験結果評価点」（60%配分）を総合して行う。						
使用教科書						
今回の講義録そのものが教科書とみなして、独自の教科書を作成する意欲をもって毎回の授業に臨むべきである。						
参考図書						
配布印刷物を参考書とする。国試準拠演習問題（および正解表）などはB 5サイズで配布する。						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法						
備考		「学習ノート」の記述は、単なる項目の羅列ではいけない。授業中に書ききれない部分は加筆、訂正、考察、資料補充を付け加えて文章形式で書き改めて内容の充実を図ることが大切である。レポート作成などは課さない。				

授業科目名		担当教員				
視機能障害学Ⅰ（神経疾患、前眼部疾患他）		松井 康樹				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
視機能障害を起こす疾患は多種多様である。視能療法を行う視能訓練士は、主訴、現病歴、既往歴、症状や所見から原因を考え、鑑別するための検査の選択し、その結果の判定ができることが必要である。その結果から診断がつき、治療をすることになるので、その治療方法についても知る必要がある。視機能障害をきたす疾患について学ぶ。 講義は基本的に視能学で行いますので、該当ページを事前学習してください。現代の眼科学は補助として使いますので持参してください。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各組織の代表的な疾患が判る ②各疾患の概念、原因、自覚症状、眼症状、全身症状、治療が判る ③眼科の主な点眼薬と使用目的が判る						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼瞼、涙器 P272-275	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
2	結膜 P275-276	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
3	角膜、強膜、水晶体 P276-279	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
4	緑内障 P279-281	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
5	ぶどう膜 P281-282	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
6	網膜 P282-284	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
7	網膜、P284-287	① ②			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
8	硝子体、眼窩、眼外傷、全身疾患と眼、加齢と眼 P287-291	③			熟読すること (120分)	必要事項を覚え理解すること (120分)
	筆記試験					

評価基準・評価方法	
筆記試験60%、小テスト40%	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8 現代の眼科学 改定第13版 / 所 敬.--金原出版, 2018年, 978-4-307-35168-3	
参考図書	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	小テストはフィードバックする
備考	

授業科目名		担当教員				
視機能障害学Ⅱ（網脈絡膜疾患、視路疾患他）		丹沢 慶一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	1年 後学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
瞳孔の異常，核上性眼球運動障害 および 視神経・視路の疾患 の 原因，症状，評価 および 治療 について学ぶ。得た知識は，後発して開講される 視機能療法 分野の科目の学習に必要である。 授業は講義形式で，教科書に沿って進行する。講義中は重要なポイントを解説し，必要だと思われる情報を適宜加える。 また，聴講のみで知識を定着させることはできないので，講義後に教科書を読み，関連する事柄について成書等で調べ，その中から情報を拾い上げ整理するといった復習が必要である。 復習による知識の定着度合いを測るために，小試験を適宜行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①瞳孔異常の原因，症状，評価 および 治療 について述べることができる。 ②核上性眼球運動異常の原因，症状，評価 および 治療 について述べることができる。 ③視神経・視路疾患の原因，症状，評価 および 治療 について述べることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	瞳孔偏位，多瞳孔，病的散瞳 【教科書pp292-297】	①		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
2	病的縮瞳 【教科書pp298-300】	①		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
3	対光反射および近見反射異常 【教科書pp300】	①		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
4	相対的瞳孔反射障害の検出 【教科書pp300】	①		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
5	固視の異常，共同運動の異常 【教科書pp302-306】	②		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
6	非共同運動の異常，回旋，耳石器管経路の異常 【教科書pp307-308】	②		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
7	視神経炎，視神経症，うっ血乳頭，遺伝性視神経症 【教科書pp309-314】	③		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
8	視交叉とその近傍，外側膝状体，視放線，後頭葉の疾患 【pp314-318】	③		講義	授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 30分	復習：195分
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
【定期試験】60%：科目全般の内容の定着度と理解度を多肢選択式試験で評価する。 【小試験】40%：前回までの講義内容の復習確認，定着度と理解度を記述式試験で評価する。	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他. --第3版--文光堂，2022年，978-4-8306-5608-8	
参考図書	
・現代の眼科学 改訂第13版 ・図書館で最適な成書を探し，それを参考書として用いること。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	各小試験の実施後に解答・解説をおこなう。
備考	

授業科目名		担当教員				
視機能障害学特論		説田 雅典				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		説田雅典（視能訓練士）				
授 業 概 要						
視機能障害学特論として、3年間の知識を結び、より理解を深め国家試験に対応できる事を目的とする。ここでは、眼疾病、診断に必要な検査、検査結果解析や治療法、また視覚障害に関する知識を深める。特に、臨地実習で習得した知識技術を生かし、患者の主訴や状態から導き出せる疾患や必要な検査、治療を関連づけて理解する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①眼疾病について必要な知識を整理し、特徴ある所見を列挙する事ができる。 ②個々の疾患に必要な検査は何か、またその検査結果、治療法はどうなるのかを導き出す事ができる。 ③国家試験に求められる知識を身につける事ができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	網膜・脳神経の解剖・生理について	① ② ③	説田	講義	網膜や脳神経の解剖を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
2	光学的機器(OCT/IOLマスター)に関する検査について	① ② ③	説田	講義	光学的機器を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
3	眼循環の検査について	① ② ③	説田	講義	全身及び眼循環の解剖を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
4	眼循環障害 1	① ② ③	説田	講義	網膜血管の循環障害を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
5	眼循環障害 2	① ② ③	説田	講義	糖尿病・網膜症を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
6	黄斑部疾患	① ② ③	説田	講義	黄斑部疾患を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
7	角膜疾患 1	① ② ③	説田	講義	角膜や涙液の解剖、生理を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
8	角膜疾患 2	① ② ③	説田	講義	角膜疾患を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)
9	ぶどう膜 解剖	① ② ③	説田	講義	ぶどう膜の解剖を復習しておく(30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	ぶどう膜疾患	① ② ③	説田	講義	ぶどう膜疾患を復習しておく (30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する (30分)
11	視神経疾患	① ② ③	説田	講義	視神経疾患を復習しておく (30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する (30分)
12	小児 発生 疾患	① ② ③	説田	講義	小児 発生 疾患を復習しておく (30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する (30分)
13	ロービジョン	① ② ③	説田	講義	ロービジョンケアを復習しておく (30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する (30分)
14	身体障害者 手帳	① ② ③	説田	講義	身体障害者手帳を復習しておく (30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する (30分)
15	生理光学 調節検査	① ② ③	説田	講義	調節に関する基礎を復習しておく (30分)	授業に関連する国家試験の問題を解き、理解する (30分)
	定期試験 (マークシート)					
評価基準・評価方法						
評価方法は、定期試験 (100%)						
使用教科書						
視能学 / 丸尾敏夫他. --第2版--文光堂, 978-4-8306-5539-5 現代の眼科学 / 所 敬監修. --第13版--金原出版, 2018年, 978-4-307-35168-3						
参考図書						
OCTアトラス 第1版 吉村長久、他著 医学書院 2012 イラスト眼科 第7版 渡辺郁緒、他著 文光堂 2003						
課題 (試験やレポート) に対するフィードバックの方法	定期試験は、国家試験に準じた内容で出題します。授業中に出現する問題をしっかりと理解し、変則問題に対応できるようにしてください。					
備考	授業中に内容が書き取れない場合や、不明な点は授業後に時間を設けます。授業内容は、日程により変わる場合があります。その際は事前に伝えます。					

授業科目名		担当教員				
視機能療法関係法規		大庭 紀雄				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 前学期	1単位(15時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		大庭紀雄（医師）				
授 業 概 要						
この授業では、視能訓練士として業務を行う上で、把握しておくべき法規について学ぶ。また、種々の関連法規を学ぶことにより、医療、社会の中で視能訓練士が担っている役割を理解する。法規は広範囲に及ぶので、丸暗記より、視能訓練士と関連付けて、必要なことを調べ読んで理解していくことを望む。						
学 修 の 到 達 目 標						
知識：①視能訓練士法に定められている視能訓練士の業務を具体的に説明できる。 知識：②視機能療法に関連する他の職種の業務や役割の概要を説明することが出来る。 技術：③医療従事者として必要な医療や福祉についての法規を検索して情報を集めることができる。 知識：④視機能療法を行う上で必要な診療録、医療記録の記載の仕方や保存方法について説明できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	講義の進め方。視機能療法関係法規概要。	① ② ③ ④			視能訓練士の業務に係る検査、訓練の復習および練習問題の回答。（120分）	視能訓練士の業務に係る検査、訓練の復習および練習問題の回答。（120分）
2	医療法、医師法、看護師保健師助産師法：日本の医療がどのように発展してきたかを学ぶ。	②			教科書・授業資料を基に日本の医療の発展について理解する。練習問題への回答（120分）	課題提出：評価10％分（120分）
3	視能訓練士法で定められている視能訓練士の資格や業務を理解する。	①			個々の視能訓練士の検査や訓練の内容を復習しておく。練習問題に回答する。（120分）	課題提出：評価10％分（120分）
4	眼科に係る種々の職種の概要を学ぶ：臨床検査技師、診療放射線技師など	① ②			教科書と資料で授業内容を学習する。練習問題に回答する。（120分）	課題提出：評価10％分（120分）
5	感染症新法、臓器の移植に関する法律、薬事法、母子保健法、高齢者の医療に関する法律	③			教科書と資料で授業内容を学習する。練習問題に回答する。（120分）	課題提出：評価10％分（120分）
6	学校保健安全法、労働安全衛生法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法	③			教科書と資料で授業内容を学習する。練習問題に回答する。（120分）	課題提出：評価10％分（120分）
7	診療録、医療記録	④			教科書と資料で授業内容を学習する。練習問題に回答する。（120分）	課題提出：評価10％分（120分）
8	社会における視能訓練士の役割	① ②			教科書と資料で授業内容を学習する。練習問題に回答する。（120分）	課題提出：評価10％分（120分）
	定期試験（課題）					評価30％分

評価基準・評価方法	
1 回目の課題は、練習も兼ねて、評価には含めない。2回目から8回目までの課題10%×7（70%）、最終課題（30%）	
使用教科書	
視能学 / 丸尾敏夫他. --第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回の課題は原則classroomでフィードバックを行う。提出前に教員への質問もコメント等を用いて可能である。詳しくは初回に説明する。最終課題についてのフィードバックについては学校の方針に従う。
備考	各自、資料と資料上に示した教科書なども参考にし学習すること。学習が終了した後に課題を期限内にオンライン上で提出することで出席とする。課題は、1回目を除いて、各回10%の評価とし、8回の講義終了後の最終課題の評価を30%として評価する。

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学概論		野原 尚美				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）				
授 業 概 要						
斜視の診断は、主訴、現病歴、既往歴を患者に聞くこと（問診）から推測できることが多い。その問診からどのような斜視かを考え、その斜視の原因は何か、そしてどのような検査をすることが必要であるかを考えなければならない。この視機能訓練学概論では斜視の定義・原因・分類などの基本的知識を学び、斜視を診断するために必要な問診ならびに検査についても解説する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①斜視とは何かを理解できる。 ②斜視の原因が理解できる。 ③斜視の分類について言葉の意味が理解できる。 ④斜視を診断するための検査項目が理解できる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	斜視の定義・病因論 視能学P320-322	① ②			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
2	斜視の分類① 視能学P322-324	③			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
3	斜視の分類② 視能学P322-324	③			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
4	斜視の診断① 問診・固視検査 大型弱視鏡 視能学P325-326 P347～354	④			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
5	斜視の診断② 眼位定性検査（角膜反射・カバーテスト）視能学P327 (P330-333)	④			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
6	斜視の診断③ 眼位定量検査 視能学P326 (P328-334)	④			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
7	斜視の診断④ 眼球運動検査 視能学P326 (P334-346)	④			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
8	斜視の診断⑤ 両眼視検査 屈折検査 眼底検査 P326 (P355～367, P264, P329, P126)	④			教科書の該当ページを読んで内容をまとめること120分	講義内容を復習しまとめ、分からないことは次回までに解決しておくこと120分
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験80%、小試験20%にて総合評価する。	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
講義内容が深められる専門書を図書館で探し、参考にすること	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	毎回の講義開始時に、課題の解説と小試験の返却でフィードバックする。
備考	事後学習でノートを作成する際は、講義中に書き取ったノートの写しだけでなく、調べ学習を取り入れたノートにすること。例えば、講義で出てきた内容に関係することや、分からなかったところなどを図書室を利用して専門書で調べ、その内容を加えて書くと授業内容がさらに深められる。

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学Ⅰ（視機能訓練学，基礎）		野原 尚美				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	1年 後学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）				
授 業 概 要						
斜視・弱視を診断するための検査法について学ぶ。この講義では眼位・眼球運動・両眼視機能の検査を詳細に解説する。本科目は、演習と密接に関わり、得た知識は実技を習得するうえで必ず必要となる。 そのため、演習の前には必ず本科目の内容を再確認することが大切である。						
学 修 の 到 達 目 標						
①眼位検査（定性・定量検査）の方法が説明でき、眼位を判定することができる。 ②眼球運動検査の原理・方法が説明でき、眼球運動検査結果が理解できる。 ③両眼視機能検査の原理・方法が説明でき、両眼視機能を判定することができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼位定性検査 P329-332	①			視機能訓練学概論で学んだことを振り返る事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
2	眼位定量検査（角膜反射とプリズムを用いる方法） P328-329, P332	①			指定教科書の該当するページを読み、検査の内容についてまとめる事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
3	眼位定量検査（カバーとプリズムを用いる方法） P328-329, P332	① ②			指定教科書の該当するページを読み、検査の内容についてまとめる事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
4	眼球運動検査・頭位異常の検査 P337-341網	②			指定教科書の該当するページを読み、検査の内容についてまとめる事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
5	Hess赤緑試験・複像検査 P341-344	②			指定教科書の該当するページを読み、検査の内容についてまとめる事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
6	注視野・ひっぱり試験 P344-346	②			指定教科書の該当するページを読み、検査の内容についてまとめる事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
7	網膜対応検査 P359-364	③			指定教科書の該当するページを読み、検査の内容についてまとめる事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
8	立体視検査 P355-359	③			指定教科書の該当するページを読み、検査の内容についてまとめる事120分	講義終了後に課題をだすため次回までに実施し提出すること120分
	定期試験(筆記)					

評価基準・評価方法	
定期試験80%、小試験20%にて総合評価する。	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
講義内容が深められる専門書を図書館で探し、参考にすること	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義の中で課題の解説を加えたり、小試験の解説を加えフィードバックする。
備考	視機能訓練学概論の学習を基に、さらに知識を深める科目です。受講の際は必ず概論の内容を見直すこと。また、事後学習の際は、講義中に書き取ったノートだけを参考にするのではなく、図書館を利用して講義で出てきた内容に関係することや、疑問点などを専門書で調べ、その内容を加えて整理すると授業内容がさらに深められる。

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学Ⅱ（視機能訓練学，斜視）		丹沢 慶一				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)		開講形態		
必修	2年 前学期	1単位 (30時間)		講義		
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2) (3) 視機能ディプロマポリシー(2) (3) (4) (5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）				
授 業 概 要						
眼球運動異常各型，斜視の手術，斜視の光学的矯正，斜視のボツリヌス治療 の原因，症状，評価 および 治療 について学ぶ。本科目で学習した知識は，後発して開講される視機能療法学分野の科目の理解に必要である。 授業は講義形式で，教科書に沿って進行する。講義中は重要なポイントを図説・解説し，必要だと思われる情報を適宜加える。 授業後は自身でも教科書を精読し，関連する事柄について成書等で調べ，その中から情報を拾い上げ整理するといった復習が必須である。この復習のプロセスは，知識の定着とともに，論理的思考力の向上を目的としている。復習実施の程度を測るために，小試験を適宜行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①眼球運動異常の各型の原因，症状，評価 および 治療 について論理的に述べることができる。 ②斜視の手術の評価 および 治療 について論理的に述べることができる。 ③斜視の光学的矯正の評価 および 治療 について論理的に述べることができる。 ④斜視のボツリヌス治療の 評価 について論理的に述べることができる。 ⑤斜視視能矯正の 評価 について論理的に述べることができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	内斜視，外斜視【教科書pp355-362】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
2	交代性上斜位，その他の斜視 【教科書pp362-366】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
3	各眼球運動神経の解剖生理，動眼神経麻痺，滑車神経麻痺，外転神経麻痺，全眼筋神経麻痺【教科書pp367-373】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
4	重症筋無力症，外眼筋ミオパチー，（ミトコンドリアミオパチー）【教科書pp373-375】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
5	甲状腺眼症 【教科書pp376-378】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
6	外眼筋炎，固定斜視 【教科書pp379-381】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
7	上斜筋腱鞘症候群（Brown症候群），general fibrosis syndrome，眼窩吹き抜け骨折【教科書pp382-384】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
8	Duane症候群 【教科書pp385-386】	①			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分
9	斜視手術の適応と禁忌，時期，目標原理 【教科書pp387-389】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して，不明な熟語，漢字，英単語等の意味や読みを調べること： 10分	復習：50分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	斜視の術式 【教科書pp389-392】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：10分	復習：50分
11	斜視手術の方針、定量と「まつわり距離」 【教科書pp392-393】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：10分	復習：50分
12	斜視型別（眼振を含む）の手術，術前術後検査，合併症 【教科書pp394-397】	②			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：10分	復習：50分
13	斜視と屈折異常，屈折矯正 【教科書pp398-399】	③			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：10分	復習：50分
14	屈折矯正後の管理，プリズム治療，ボツリヌス治療 【教科書pp400-407】	③ ④			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：10分	復習：50分
15	斜視視能矯正 【教科書pp407-409】	⑤			授業計画に記載された教科書のページを一読して、不明な熟語、漢字、英単語等の意味や読みを調べること：10分	復習：50分
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
【定期試験】60% 【小試験】40%						
使用教科書						
視能学 / 丸尾敏夫他--文光堂，978-4-8306-5539-5						
参考図書						
・視能学エキスパート視能訓練学 ・図書館で最適な成書を探し，参考書として用いること。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	各小試験の実施後に解答・解説をおこなう。					
備考						

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学Ⅲ（視機能訓練学，弱視）		野原 尚美				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）				
授 業 概 要						
本科目は 視機能療法学 の学問体系において、基礎医学大要、基礎視能矯正学、視能障害学 の分野を基礎とした視能訓練学に属し、弱視、心因性視能障害、眼振 の原因、症状、評価および治療について学ぶ。本科目で得た知識は、後発して開講される 視機能検査学Ⅲや、視機能訓練学特論Ⅰの科目の学修に必要である。						
学 修 の 到 達 目 標						
①弱視の原因、症状、評価および 治療について述べることができる。 ②心因性視能障害の原因、症状、評価および 治療について述べることができる。 ③眼振の原因、症状、評価および 治療について述べることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	弱視の定義，原因，病態，分類 【教科書p427-432】	①			指定教科書の該当ページを読み、内容をまとめておく120分	講義内容を復習し分からないことを解決しておく120分
2	斜視弱視，微小斜視弱視，不同視弱視，屈折異常弱視，経線弱視， 【教科書p433-436】	①			指定教科書の該当ページを読み、内容をまとめておく120分	事前学習の内容に講義内容を追加しまとめる120分
3	弱視の診断，検査 【教科書p437-442】	①			指定教科書の該当ページを読み内容をまとめておく120分	講義内容を復習し分からないことを解決しておく120分
4	弱視の治療方針，治療方法 【教科書p443-450】	①			指定教科書の該当ページを読み内容をまとめておく120分	講義内容を復習し分からないことを解決しておく120分
5	その他の弱視の治療の方法 【教科書p451-452】	①			指定教科書の該当ページを読み内容をまとめておく120分	講義内容を復習し分からないことを解決しておく120分
6	心因性視覚障害の定義，臨床的特徴，原因，診断，治療 【教科書p453-455】	②			指定教科書の該当ページを読み内容をまとめておく120分	講義内容を復習し分からないことを解決しておく120分
7	眼振の定義，病因論，分類，種類 【教科書p456-461】	③			指定教科書の該当ページを読み内容をまとめておく120分	講義内容を復習し分からないことを解決しておく120分
8	眼振の非観血療法，観血療法 【教科書p461-462】	③			指定教科書の該当ページを読み内容をまとめておく120分	講義内容を復習し分からないことを解決しておく120分
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験80%、小試験20%で総合評価する。	
使用教科書	
視能学 / 小林義治 他.--第3版--文光堂, 2022年,	
参考図書	
図書館で最適な成書を探し, それを参考書として用いること。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義の中で課題の解説を加えたり、小試験の解説を加える。
備考	講義中には重要なポイントを解説し、必要だと思われる情報を適宜加える。しかし、聴講のみで知識を定着させることはできないので、講義後科に教書を読み、内容について関連する成書等で調べ、その中から情報を拾い上げ整理し、復習することが望ましい。

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学Ⅳ（視機能訓練学，ロービジョン）		野原 尚美				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）				
授 業 概 要						
医療安全の確保が重要な課題となっている中、視能訓練士においても医療従事者の一員として適切な対応が求められる。また、高齢化の進展に伴い、視覚に障害を持った患者が増加しており、患者のQOL維持・向上のために視覚補助具の選定や、患者心理に配慮した対応、行動が求められる。本講義では、医療安全対策、ロービジョンケア、視能心理学、眼科に関連する基礎医学を学び、医療従事者の一員として適切な行動がとれることを目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視能訓練士法と関係法規を理解することができる ②医療安全対策が理解でき、説明することができる。 ③ロービジョンの定義と範囲について理解し、説明することができる。 ④視覚補助具の選定について理解し、説明することができる。 ⑤視能心理学について理解し、説明することができる。 ⑥眼科と基礎医学について理解し、説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	社会と医療：視能学P464～P472	①			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
2	医療安全対策1：視能学P473～P478	②			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
3	医療安全対策2：視能学P478～P485	②			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
4	ロービジョンの定義と範囲：視能学P486～P492	③			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
5	視覚補助具について：視能学P492～P503	④			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
6	視能心理学：視能学P504～P512	⑤			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
7	眼科と基礎医学1：視能学P513～P515	⑥			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
8	眼科と基礎医学2：視能学P516～P524	⑥			指定教科書の該当ページを読み、理解できない用語の意味を調べておくこと。 (120分)	学んだ内容を説明できるようにまとめておくこと。（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法	
定期試験80%、小テスト20%にて総合評価とする。	
使用教科書	
視能学 第3版 / 小林義治 他.--文光堂, 2022年, 978-4-8306-5608-8	
参考図書	
適宜紹介する。 必要時にはプリントを配布する。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	講義内で課題の解説や小テストの解説を加える。
備考	講義主体で行う。毎回の講義の復習を欠かすことなく着実に自分の知識にしていくこと。 質問は、オフィスアワーを活用し、自主的に学ぶこと。

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学Ⅴ（視機能訓練学，総括）		丹沢 慶一・國武 実里（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士），國武実里（視能訓練士）				
授 業 概 要						
本科目は、3年次後期までに学習した視機能療法学関連の基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の知識を用いて、視機能療法学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題（課題Ⅰ～Ⅷ、各課題は75問で構成され、難易度は等しい） に解答して、視機能療法学の系統的理解を深める。						
学 修 の 到 達 目 標						
①これまでに学習した視機能療法の横断的・統合的知識から，基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の応用課題に正しく答えることができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅰ（40問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
2	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅰ（35問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
3	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅱ（40問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
4	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅱ（35問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
5	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅲ（40問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
6	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅲ（35問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
7	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅳ（40問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
8	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅳ（35問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
9	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅴ（40問）の解答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅴ（35問）の解答	①	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
11	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅵ（40問）の解答	①	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
12	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅵ（35問）の解答	①	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
13	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅶ（40問）の解答	①	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
14	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅶ（35問）の解答	①	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
15	基礎医学大要，生理光学，視覚生理学，基礎視能矯正学，視能障害学，視能検査学および視機能訓練学の 横断的・統合的な応用知識を必要とする課題Ⅷ（75問）の解答	①	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
【定期試験】25%：多肢選択式試験で評価する。 【課題】75%：課題解答の正答率で評価する。						
使用教科書						
視能学 第2版 / 丸尾敏夫，他--文光堂，978-4-8306-5539-5 視能学エキスパート 視能検査学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院，978-4-260-03258-2 視能学エキスパート 視能訓練学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院，978-4-260-03223-0 眼科検査ガイド 第2版 / 根木昭（監修），--飯田知弘，他--文光堂，978-4-8306-5547-0 現代の眼科学 改訂第13版 / 所敬（監修），--谷原秀信，他--金原出版，978-4-307-35168-3						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	正課外時間に適宜対応する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学演習		野原 尚美・丹沢 慶一・四之宮 佑馬・國武 実里・松井 康樹（代表教員 野原 尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	演習 オムニバス			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、國武実里（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
眼科臨床現場における各視機能検査の実践的な手法を、臨地実習Ⅰまでの講義・演習を通して学んだ、疾患の知識と視機能検査の理論を基に、演習形式で習得すること、各視機能検査の実施によって、明らかになった疑問点、改善点等を総括時にプレゼンテーションまたは質疑応答として発表することで、意見を発信する力を向上させること、専攻内における互いの立場に応じた適切なコミュニケーションを身に付けることを目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①各検査の理論、疾患の病態の知識を基とした実践的な手法を実施することができる。 ②各検査の実践的手法の妥当性を、検査の理論と疾患の病態の知識を基に論理的に説明することができる。 ③礼儀・礼節を備え、専攻内における互いの立場に応じた適切な言葉遣いと態度で演習に取り組むことができる。 ④総括での演習実施内容のプレゼンテーション、質疑応答への積極的な参加ができる。						
回	授業計画	到達 目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実践的自覚的視力屈折検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
2	実践的自覚的視力屈折検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
3	実践的自覚的視力屈折検査	② － ④	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)
4	実践的画像診断学的検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
5	実践的画像診断学的検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
6	実践的画像診断学的検査	② － ④	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。 (55分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)
7	実践的視野検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
8	実践的視野検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。 (55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
9	実践的視野検査	② － ④	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。 (55分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	実践的弱視斜視検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
11	実践的弱視斜視検査	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
12	実践的弱視斜視検査	② － ④	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
13	実践的神経眼科学検査、その他	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
14	実践的神経眼科学検査、その他	① － ③	全員		これまでに学習した専門知識をまとめておくこと。(55分)	検査結果をまとめておくこと。(5分)
15	実践的神経眼科学検査、その他	② － ④	全員		検査結果から質問事項をまとめておくこと。(5分)	演習内で新たに学んだこと、総括で統一された事柄をまとめ、理解すること。検査対象・方法・注意点・結果の分析・記載方法について振り返ること。(55分)
	試験の実施はしない					
評価基準・評価方法						
課題50%、演習態度50%（総括におけるプレゼンテーション、質問回数を含む）で総合判定する。						
使用教科書						
視能学 第2版 / 小林義治、他—文光堂、978-4-8306-5539-5 視能学エキスパート 視能検査学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会—医学書院、978-4-260-03258-2 視能学エキスパート 視能訓練学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会—医学書院、978-4-260-03223-0 眼科検査ガイド 第2版 / 根本昭（監修）、—飯田知弘、他—文光堂、978-4-8306-5547-0 現代の眼科学 改訂第13版 / 所敬（監修）、—谷原秀信、他—金原出版、978-4-307-35168-3 なし						
参考図書						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	総括内にて実施。					
備考	・全回の出席を原則とする。欠席や遅刻をする場合には、授業開始前に担当教員まで電話連絡をして指示を仰ぐこと。無断欠席・遅刻はもとより、正当な理由と認められない欠席・遅刻も厳禁とする。正当な理由を認める欠席・遅刻には、公共交通機関が発行する証明書や医師による診断書等の提出が必要である。 ・出席には当専攻が指定するユニフォームの正しい着用が必須である。 ・教員から注意を受けたことは改善すること。 ・質問は各教員に対し随時積極的に行うこと。 ・演習の自習・課題を行う際は教員に申し出ること。					

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学特論Ⅰ（基礎）		丹沢 慶一・國武 実里（代表教員 丹沢 慶一）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		丹沢慶一（視能訓練士）、國武美里（視能訓練士）				
授 業 概 要						
本科目は、2年次後期までに学習した視機能療法学関連の基礎医学大要、生理光学、視覚生理学、基礎視能矯正学、視能障害学、視能検査学および視機能訓練学知識を用いて、視機能療法学の 横断的・統合的な基礎知識を必要とする課題（各課題は75問で構成される）に回答した後に、任意のグループで文献検索等の手法で正答を導きだすことで、視機能療法学の系統的理解を深める。 課題の解答・解説では、PBL、ディスカッション、ディベート、グループワークの実施、課題の発表においてはプレゼンテーションを行う。						
学 修 の 到 達 目 標						
①これまでに学習した視機能療法の横断的・統合的知識から、基礎医学大要および視覚生理学分野の課題に正しく答えることができる。 ②文献検索等の手法を用いて、基礎医学大要および視覚生理学分野の課題の正答を導き出すことができる。 ③基礎医学大要および視覚生理学分野の課題の正答を論理的に説明することができる。 ④これまでに学習した視機能療法の横断的・統合的知識から、生理光学、視能矯正学および視能検査学分野の課題に正しく答えることができる。 ⑤文献検索等の手法を用いて、生理光学、視能矯正学および視能検査学分野の課題の正答を導き出すことができる。 ⑥生理光学、視能矯正学および視能検査学分野の課題の正答を論理的に説明することができる。 ⑦これまでに学習した視機能療法の横断的・統合的知識から、視能障害学および視能訓練学分野の課題に正しく答えることができる。 ⑧文献検索等の手法を用いて、視能障害学および視能訓練学分野の課題の正答を導き出すことができる。 ⑨視能障害学および視能訓練学分野の課題の正答を論理的に説明することができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	基礎医学大要および視覚生理学分野の課題40問の回答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
2	基礎医学大要および視覚生理学分野の課題35問の回答	①	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
3	基礎医学大要および視覚生理学分野の課題40問の解答、解説の作成	②	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
4	基礎医学大要および視覚生理学分野の課題35問の解答、解説の作成	②	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
5	基礎医学大要および視覚生理学分野の課題解答、解説の発表	③	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
6	生理光学、視能矯正学および視能検査学分野課題40問の回答	④	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
7	生理光学、視能矯正学および視能検査学分野課題35問の回答	④	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
8	生理光学、視能矯正学および視能検査学分野課題40問の解答・解説の作成	⑤	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
9	生理光学、視能矯正学および視能検査学分野課題40問の解答・解説の作成	⑤	丹沢 國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	生理光学，視能矯正学および視能検査学分野課題解答・解説の発表	⑥	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
11	視能障害学および視能訓練学分野の課題40問の回答	⑦	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
12	視能障害学および視能訓練学分野の課題35問の回答	⑦	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	適切な回答ができなかった問題のまとめ：10分
13	視能障害学および視能訓練学分野の課題40問の解答・解説の作成	⑧	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
14	視能障害学および視能訓練学分野の課題35問の解答・解説の作成	⑧	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
15	視能障害学および視能訓練学分野の課題解答・解説の発表	⑨	丹沢國武		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：50分	問題正答のまとめ：10分
	定期試験（筆記）					
評価基準・評価方法						
【定期試験】60%：多肢選択式試験で評価する。 【課題】30%：課題回答の正答率で評価する。 10%：作成した解答・解説の内容および解答・解説の発表態度						
使用教科書						
視能学 第2版 / 丸尾敏夫，他--文光堂，978-4-8306-5539-5 視能学エキスパート 視能検査学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院，978-4-260-03258-2 視能学エキスパート 視能訓練学 / 公益財団法人日本視能訓練士協会--医学書院，978-4-260-03223-0 眼科検査ガイド 第2版 / 根本昭（監修）。--飯田知弘，他--文光堂，978-4-8306-5547-0 現代の眼科学 改訂第13版 / 所敬（監修）。--谷原秀信，他--金原出版，978-4-307-35168-3						
参考図書						
課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法	各課題の解答解説時に実施する。					
備考						

授業科目名		担当教員				
視機能訓練学特論Ⅱ（応用）		松井 康樹・野原 尚美・関戸 昌論（代表教員 松井 康樹）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		松井康樹（視能訓練士）・野原尚美（視能訓練士）・関戸昌論（視能訓練士）				
授 業 概 要						
最終学年となって、視能訓練士に必要な知識と技術をより確実なものとするために、視機能障害に対し、病態を把握し、視機能検査、視機能訓練ができることを目指す。 この科目では、解剖と生理、視器の発達、視覚生理、視機能検査、眼薬理学、視能矯正等を関連づけた知識を修得することを目標とする。到達目標は臨地実習Ⅱを実施するために必要な知識習得と国家試験合格レベルを目指す。						
学 修 の 到 達 目 標						
①視機能障害に対し、解剖・生理が理解でき、疾患に関連付けることができる ②主訴からどのような疾患が疑われるかを考えることができる ③必要な検査項目や検査結果を関連付けて考えることができる ④視機能療法学の各分野の学習内容の知識を深め、正しく判断することができる ⑤眼鏡の特性を理解することができる						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	眼球付属器の疾患について（視覚器の構成、発生、神経生理を含む）	① ② ③	松井		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
2	角膜疾患、強膜疾患、ぶどう膜疾患について	① ② ③	松井		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
3	網膜疾患、硝子体疾患について	① ② ③	松井		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
4	水晶体疾患、緑内障疾患について	① ② ③	松井		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
5	眼球運動障害について	① ② ③	野原		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
6	斜視視能矯正について①	① ② ③	野原		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
7	斜視視能矯正について②	① ② ③	野原		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
8	弱視視能矯正について	④	松井 野原		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
9	瞳孔異常について	④	松井 野原		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	視路異常について	④	野原		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
11	眼外傷、全身疾患と眼	① ② ③	松井		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
12	眼鏡の特性理解と処方①	⑤	関戸		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
13	眼鏡の特性理解と処方②	⑤	関戸		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
14	眼鏡の特性理解と処方③	⑤	関戸		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
15	眼鏡の特性理解と処方④	⑤	関戸		これまでに視機能療法分野で学習した内容の復習：45分	講義の振り返り15分
	筆記試験100%					
評価基準・評価方法						
定期試験100%						
使用教科書						
視能学 第2版 / 小林義治 他--文光堂, 978-4-8306-5539-5 現代の眼科学 第13版 / 所 敬監修.--金原出版, 978-4-307-35168-3						
参考図書						
適宜紹介する また、必要時にはプリントを配布する						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	課題は予習とし、講義内で質問等によりフィードバックする。					
備考	国家試験に向けて知識を整理し確実に覚えるようにすること。講義だけでなく、自ら積極的に学び、自主学習をおこなうこと。臨地実習Ⅱに向けた準備となる。					

授業科目名		担当教員				
臨地実習Ⅰ		野原 尚美・丹沢 慶一・四之宮 佑馬・松井 康樹（代表教員 野原尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	2年 後学期	3単位(135時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
「臨地実習Ⅰ」は2年次後期（例年2月）に4週間にわたって実施する。目的は、眼科医療チームにおける視能訓練士の役割の理解と視機能療法の実践方法の見学である。今まで学んできた知識が診療現場でどう生かされているかを体験学習して、3年次に策定される臨地実習IIが充実したものとなるよう準備することも目的とする。						
学 修 の 到 達 目 標						
①眼科医療チームにおける視能訓練士の役割を見学する。 ②眼科疾患の治療への取り組みについて見学する。 ③実習生としての責任ある態度（服装、整容、言葉遣いを含む）や積極的な行動・言動をとることができる。 ④実習指導者からの助言や指導を適切な態度で受け入れることができる。 ⑤臨床現場のスタッフと適切な人間関係を構築することができる。 ⑥専攻が定めた規則に従うことができる。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション(学内)				実習要項を熟読すること	自身の到達度をチェックし、到達度の低い項目に対して自己学習する。
	臨地実習Ⅰの目的、手順、心得、マナー、個人情報などの指導を行う。					
2	4週間の学外実習を実施する	① ② ③ ④ ⑤ ⑥				デイリーノートの作成（毎日）と、必要に応じた自己学習
	内容：見学実習					
	視能訓練士の役割や責任、医療人としてのマナーなどを見聞する					
	視機能に問題を抱える患者と関わりながら眼科診療を見学する					
3	お礼状の作成と実習後の振り返り				お礼状の下書きをする	
4	実習報告会				報告会に向けてレジュメを作成する	臨地実習Ⅱの目標を立てる
	1, 2年生合同での報告会を予定					

評価基準・評価方法	
臨地実習先の評価表を用いる。規定時間数を満たした上で、担当実習指導者の判定結果を10%、デイリーノート(80%)、学内での報告会(10%)を併せて学内で認定する。	
使用教科書	
これまで使用した全てのテキスト 臨地実習要項	
参考図書	
図書館に多くの専門書が揃えてあるため、所持している教科書で調べても分からない場合は、実習のない日などに図書館を利用し、関連する専門図書で調べて解決していくこと。	
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	報告会でフィードバックする。
備考	原則として全出席とする。病気で欠席する場合は診断書を提出すること。また実習中に身だしなみ、実習態度(積極性、言葉遣い、声の大きさ、真剣さ、丁寧さ、医療ミスなど)について、注意を受けた事は必ず改善すること。改善されない場合は実習を停止することもある。

授業科目名		担当教員				
臨地実習Ⅱ		野原 尚美・丹沢 慶一・四之宮 佑馬・松井 康樹（代表教員 野原尚美）				
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態			
必修	3年 通年	11単位(495時間)	実習			
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員				
全学ディプロマポリシー(2)(3) 視機能ディプロマポリシー(2)(3)(4)(5) の達成に寄与している。		野原尚美（視能訓練士）、丹沢慶一（視能訓練士）、四之宮佑馬（視能訓練士）、松井康樹（視能訓練士）				
授 業 概 要						
「臨地実習Ⅱ」においては、2年次の「臨地実習Ⅰ」で学んだことに基づき、指導者の下、現場にさらに接近して診療の実践に参画する。そして視能訓練士の在り方の了知と視機能療法の初歩的実践方法を習得する。						
学 修 の 到 達 目 標						
①診療対象が「ひとであること」を認識し、適切な人間関係を構築できる。 ②診療対象に適切な方法での検査・矯正を実施する。 ③問診や視診の方法、診療録の作成方法を学ぶ。 ④実習指導者や臨床現場のスタッフを観察し、視能訓練士と視機能療法の在り方を学ぶ。						
回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	実習前オリエンテーション(学内)				実習要項を熟読すること	自身の到達度をチェックし到達度の低い項目に対して自己学習する
	臨地実習Ⅰの反省のもと、臨地実習Ⅱの目的、手順、心得、マナー、個人情報					
	などの指導を行う。					
2	11週間の学外実習を実施する	① ② ③ ④				デイリーノートの作成と必要に応じた自己学習（毎日）
3	内容：自己紹介、カンファレンス参加、担当患者などの情報収集、実習指導者					
	の指導・監督の下で検査の実施					
4	お礼状の作成と実習後の振り返り					
5	実習報告会				報告会に向けてレジュメを作成する	
	2, 3年生の合同報告会を予定					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
						意見交換で上がった質問に対する回答や、意見内容をまとめる
						報告会後はデイリーノートを提出
評価基準・評価方法						
臨地実習先の評価表を用いる。規定時間数を満たした上で、担当実習指導者の判定結果を30%、デイリーノート60%学内での口頭試問と報告会で10%をもとに学内で認定する。						
使用教科書						
これまで使用した全てのテキスト 臨地実習要項						
参考図書						
図書館に多くの専門書が揃えてある。所持している教科書で調べても分からない場合は、実習のない日などに図書館を利用し、関連する専門図書で調べて解決していくこと。						
課題(試験やレポート)に対するフィードバックの方法	1 施設終了ごとに本学へ登校し報告を受けた際にフィードバックする。 報告会でフィードバックする。					
備考	原則として全出席とする。病気で欠席する場合は診断書を提出すること。また、実習中に身だしなみ、実習態度（積極性、言葉遣い、声の大きさ、真剣さ、丁寧さ、医療ミスなど）について、注意を受けた事は必ず改善すること。改善されない場合は実習を停止することもある。					

リハビリテーション学科視機能療法専攻 授業担当者索引

…あ 行…

安藤 彰浩	非常勤講師
池谷 尚剛	非常勤講師
磯谷 尚輝	非常勤講師
伊原 亮司	非常勤講師
今村 光章	非常勤講師
岩瀬 桃子	看護学科教授講師
内田 英哉	非常勤講師
枝川 宏	非常勤講師
江村 正一	理学療法専攻特任教授
大井 修三	非常勤講師
大野 陽哉	非常勤講師
大庭 紀雄	視機能療法専攻特任教授
大森 周太郎	非常勤講師
大森 正英	非常勤講師
大藪 千穂	非常勤講師

…か 行…

川島 卓	非常勤講師
川瀬 和秀	非常勤講師
皮野 さよみ	看護学科教授
木村 暁夫	非常勤講師
國枝 顕二郎	非常勤講師
國武 実里	視機能療法専攻助教
熊田 ますみ	看護学科教授
神戸 博一	非常勤講師
近藤 直実	顧問
近藤 ひろえ	非常勤講師

…さ 行…

澤田 明	非常勤講師
四之宮 佑馬	視機能療法専攻講師
下畑 享良	非常勤講師
関戸 昌諭	非常勤講師
説田 雅典	非常勤講師
千田 隆夫	非常勤講師

…た 行…

高橋 晋也	非常勤講師
竹内 章郎	非常勤講師
竹腰 顕	非常勤講師
棚橋 公郎	非常勤講師
田辺 久美子	非常勤講師
谷口 泰弘	非常勤講師
丹沢 慶一	視機能療法専攻准教授
出口 睦雄	看護学科講師

…な 行…

長尾 裕子	非常勤講師
仲澤 和馬	非常勤講師
中村 信介	非常勤講師
中村 琢	非常勤講師
長屋 由喜子	非常勤講師
野原 尚美	視機能療法専攻教授

…は 行…

橋本 永貢子	非常勤講師
林 宗典	看護学科助教
福岡 大輔	非常勤講師
舟橋 和宏	非常勤講師
古田 弥生	看護学科准教授

…ま 行…

益川 優子	非常勤講師
松井 永子	非常勤講師
松井 康樹	視機能療法専攻教授
三品 弘司	看護学科教授
宮地 幸雄	非常勤講師
ミハト・セイト・モハト	非常勤講師
武藤 吉徳	非常勤講師
村上 秀和	看護学科助教
望月 清文	非常勤講師
森岡 菜穂子	看護学科助教

…や 行…

山田 宏尚	非常勤講師
山田 雅博	非常勤講師
山田 恵	非常勤講師
山原 直紀	非常勤講師
山本 眞由美	非常勤講師
山本 容正	非常勤講師
横井 達夫	非常勤講師
吉倉 延亮	非常勤講師

